

ノ條件トナラザレバ、犯罪成立セズトハ、十七年十月大審院判例ノ示ス所ヨリ、論者偶々損壞シ手段ヲ用キズ巨大ノ木石若クハ砂石ヲ以テ、道路ヲ塞メ往來ヲ妨害タル者ハ、罰スルコトヲ得ズト主張スルモ、法文ノ真意ハ是等モ亦包含スルト見ルベシ、又百六十五條ノ場合ハ、詐欺ノ標識ヲ指示シタルモノヲ含ム能ハズト論ズルモ、之レ法文字句ノ缺點ニシテ、若シ包含セズトセバ、殆ント本條ノ適用ヲ失フニ足ラン、要ハ往來通信ヲ妨害スル爲トハ、即チ往來通信ヲ妨害スル散意アルモノヲ云ヒ、其所爲ニ至リテハ鐵道ノ損壞其他危險ナル障礙ヲ爲スノミヲ以テ足レリトシ、此所爲ニテ成立スル以上ハ既途トナシ、妨害スベキ結果ヲ發生スルコトヲ要セザルナリ。

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

本節ニハ家家侵入罪ヲ規定セリ、家宅侵入トハ正當ノ事故ナクシテ、拒絶ノ權アル者ノ意ニ反シテ、法文ノ列舉セル場所ニ入ル、所爲ヲ云フ、然リ法律ノ保護スル所ハ家宅ノ所有權ニアラズシテ、一家ノ安寧ナリ、此犯罪ノ物體ハ家宅權即チ自己ノ住居スル場所ニ於テハ、自己ノ意思ヲシテ獨リ其効力ヲ有セシムル權ナリ

トス、去レバ此權ヲ有スルモノハ家宅ノ所有者タルト否トヲ問ハズ、故ニ家主若クハ地主ト雖モ其賃與ヘタル借家人若クハ借地人ニ對シテ此罪ヲ構成スベシ、侵入ノ所爲ハ權利ナリシテ之ヲ行ヒタルモノナルコトヲ要ス、其他ハ乞フ法文ノ註解ニ讓ラン。

第七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ト十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ在ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

- 一 門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時
- 二 凶器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時
- 三 暴行ヲ爲シテ入りタル時
- 四 二人以上ニテ入りタル時

第七十二條 夜間故ナリ人ノ居住シタル物宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ前條ニ記載シタル加重スベキ所爲アル時ハ一等ヲ加フ

第七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照

シ各一等ヲ加フ

(解) 百七十一條ハ晝間ノ家宅侵入罪ヲ規定セリ、法文中故ナリトハ法律上當然ノ權利若クハ承諾ニ依リ得タル權利ナキノ意ナリ、故ニ初メハ承諾アルモ後ニ之ヲ拒絶シタルニ、其意ニ反シテ尙家宅ニ止マル時ハ此罪ヲ構成スベシ、學者中ニハ此罪ヲ以テ財産ニ關スル罪トスルハ、誤見ノ甚ダシキモノト云フベキナリ、百七十二條ハ夜間ノ侵入罪ヲ規定シ、晝間ヨリモ安寧ヲ害スルノ程度大ナルヲ以テ、從ツテ其罪ヲ重クセリ、百七十三條ハ常人ノ住居ト異ナル、皇居禁苑離宮行在所及ビ皇陵内ニ入ルノ罪ニシテ、是等不忠不敬ノ甚ダシキモノ、第二條ノ例ニ照シテ各一等ヲ加フベキハ、聊カ當ヲ得タルモノトス。

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

百七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

百七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞

ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

百七十六條 看守者其懈怠ニ困リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アル

コトヲ覺ラザル時ハ二圓以上三十圓ノ罰金ニ處ス

(解) 百七十四條中特別ニ施シタルアルハ、物件差押へ其他官ノ處分ノ目的ノ爲ニセルモノヲ指示ス、封印ヲ破棄シタルトハ、單ニ印影ノ存在スル部分ヲ破棄スルニ止マラズ、廣ク一般人ニ對シテ封印ノ効力ヲ失ハシムルノ所爲ヲ言フ、例令ハ一條ノ繩ヲ以テ倉庫ニ繞ラシ、倉庫ノ入口ニ至リテ官ノ封印ヲ施シタリコトセヨ、印影外ナル部分ヲ切斷シ之ヲ棄ツルモ、尙ホ封印破棄ノ罪トセザルベカラザルガ如シ、然レトモ若シ竊盜アリ、地下ヲ穿テ倉庫ニ入りタリトセンカ、之ヲ此罪ニ問フコト能ハズ、何トナレハ此封印ニ對シテ再ビ破棄ノ罪ヲ犯スコトヲ得ベク、封印ハ尙ホ一般人ニ効力ヲ存スレハナリ、以下二條ハ讀ンデ字ノ如ク、別ニ詳解スルノ要ナシ。

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

百七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナ

クシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)輕禁錮ニ定役ナシ、此刑ヲ加シタル所以ノモノハ、夫ノ屈辱ノ要素ヲ含シ、破廉耻ノ輩ニ適用スル重禁錮ヲ加フルノ必要ナシト人意味ニ外ナラザルベシ。

第百七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他訴偽ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシメタル者同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分拆又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四月以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十條 裁判所ヨリ証人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ亦專條ニ同シ

第百八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時

ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫部此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

(解)百七十八條ハ避兵忌避ノ罪ナリ、徵兵令三十一條ニモ亦類似ノ法文ヲ見ユ、要スルニ徵兵忌避ノ罪ヲ本節ノ本罪中ニ加フルハ、立法ノ當ヲ得タルモノニアラズ必ラズヤ改正セラルベキ法條タルヘシ、百七十九條ハ鑑定ヲ命セラレナガラ、云ハレナク應ゼストセバ、國家ハ其目的ヲ達シ難シ、之レ本條ヲ設ケタル所以ナリ百八十條ハ證人ノ場合ニシテ前條ノ旨趣ト同一ナリ、百八十一條ハ傳染病又ハ此病ノ疑アル船舶ノ入港ニ對シ、醫師ノ病患者ヲ検査シ若クハ消滅ノ方法陳述ヲ命セラレナカラ、故ナク肯セサル場合ノ制裁ニシテ、別ニ見ルベキ判断所モナケレバ議論モナリ。

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

貨幣トハ何ソヤ、一定ノ價格ヲ有スル國家ノ融通物ニシテ、經濟上ニ於ケル物ノ

尺度ニ過ギズ、然レドモ物即チ價值ノ尺度ヲ以テ直チニ法律上之ヲ貨幣ト認ムル事ヲ得ス、蓋シ法律上ニ於テ貨幣ト認定ス可キモノハ、法律ニ依リ強制融通力ヲ附與セラレタル者ナラザル可カラズ、此ノ結果トシテ廢止セラレタル貨幣ナル時ハ、既ニ通融性流動性ヲ失ヒシ一個ノ貨幣タリシモノニ過キズ、其之ヲ偽造スルモ偽造罪成立セザルノミカ、之ヲ行使スルヲ於テハ行使スルノ罪成立セズシテ、純然タル詐欺又ハ他ノ犯罪トナル可シ、次ニ偽造トハ何ゾヤ、不法不正ニ新ナル正貨模擬物ヲ作成スルヲ云フ、偽造ノ意義以上ノ如シトスレバ、其模擬ノ程度詳言セハ、如何ナル程度ニ迄正貨ニ模倣セバ、本節ノ所謂偽造罪ヲ構成スルカ、假令日本銀行ヲ録行トナシ、一圓ヲ一圓トナシテ、作成シタル如キハ偽造紙幣ト認定セル大審院判例アリ、要スルニ偽造ノ程度タル、假令同質ナラス又粗造ルモノタリト雖モ、苟モ他人ヲシテ眞實ナル貨幣ナリトノ信念ヲ抱懷セシムルニ足レバ、即チ偽造罪ハ成立スルモノナリ、畢竟ズルニ偽造タリ得ルニハ、他人ヲ欺罔シ能フカアルヤ否ヤノ事實ノ認定ニ歸着ス、此ノ認定ハ結局裁判官ノ自由心證ニ一任セザル可カラズ、尙ホ詳細ハ各本條ニ就テ説明セン。

第八十二條 内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第八十三條 内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第八十五條 内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

(解)前記四ヶ條ヲ通覽スルニ、偽造行使ノ場合ト、變造行使ノ場合トノ二ヲ規定シタルニ過ギズ、故ニ之ヲ一括シテ説明セントス、第八十二條ハ内國通用ノ金銀貨及紙幣ヲ第八十三條ハ内國通用ノ外國貨幣ヲ、第八十四條ハ官許ヲ得テ發行スル銀行紙幣ヲ、第八十五條ハ内國通用ノ銅貨ヲ、偽造變造シタル場合ナリ偽造ニ就テハ前已ニ説明セシガ如シ、變造トハ眞正貨幣ニ就キ之ヲ基礎トシテ、命價及ヒ量目ヲ増減スルヲ云フ、二十六年十二月二十八日ノ大審判決文中ニ曰ク銅貨ノ命價量目ヲ増減セズシテ、銀貨模造ノ原料乃チ地金トシテ、之ヲ使用シタ

ル場合ハ變造ニアラスシテ偽造ナリト、即チ知ル變造ト偽造トノ區別ハ、前者ニ於テハ真正ノ貨幣ニ増減ヲ施與スルノ所爲ヲ云ヒ、後者ハ他質又ハ同質ノ凝塊ヲ地金トシテ新ニ正貨模擬ノ貨幣ヲ制作スルヲ云フ、假令前者ニ於テハ一錢ト銘アルヲ二錢ト改メ、或ハ周圍椽端ヲ切り取ルガ如キ、貨幣ノ内容ヲ換リ取リタル場合ノ如キヲ云ヒ、後者ニ於テハ金塊ヲ以テ新ニ貨幣ヲ鑄造シタルガ如キ、又銅貨ニ水銀ヲ鍍金シテ銀貨ノ如ク裝フガ如キノ所爲ヲ云フ、而シテ之ヲ行使スルトキハ有用且ツ眞實ナリトシテ、其銘價同格ニ使用スルヲ云フ、銘價同格トハ五十錢銀貨ヲ五十錢トシテ使用スル場合ヲ意味ス、次ニ使用トハ行使スルノ意思ヲ以テ相手方ニ提供スルノ行爲ノミヲ云フニ非ラズ、要ハ只相手方シテ收授シ得ベキ程度ニ近接セル狀況ニ有レバ可ナリ、此ノ故ニ商品トシテ賣買シ取引スル行爲ハ行使トナラザルモ、借金擔保トシテ他人ニ交付スルノ行爲ハ、有用ノ使用ナルガ故行使罪成立スルモノトス、而シテ其無價タルト有價タルトハ行使ニ何等影響スル所ナシ、終リニ一言スヘキハ本罪ハ偽造ノミノ行爲ヲ所罰スルニ非ラズ、又單純ナル行使ノミニ付テ所罰スルニ非ラズ、要スルニ偽造ト行使トノ兩所爲ノ存在ヲ本罪ノ必要罪素トナス事之レナリ

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セザル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ行ハサル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シ未タ着手セザル者ハ各三等ヲ減ス

(解)未ダ行使セズトハ收授シ得ベキ狀況ニ近接セザルモノヲ意味シ、未タ成ラザル者トハ偽造變造ノ完成セザルモノヲ云フ、茲ニ一問アリ、既ニ完成ノ域ニ達セルモ未ダ行使セザル間ニ、之ヲ中止スル場合ニ於テハ中止犯トシテ處分スベキカ、否ラザレバ單純ナル偽造罪トシテ處分スベキカノ二箇ニ分ル、夫レ中止犯タルヤ、未ダ行爲ノ完成セザル間ニ犯意ヲ翻ヒシタルカ、然ラザレバ行爲ハ既ニ完了スルモ結果ノ發生ヲ豫防シ全然之ヲ未發ノ間ニ防ギ了リタルヲ要ス、假令未發ニ豫防スルトハ云ヘ、多少ノ結果ヲ發生シタルトキハ其ノ結果ニ對シテ責ヲ負フハ勿論ナリ、今本問ノ中止犯タルヤ、既ニ偽造行爲ハ完了シタルコト明カナリ、而シテ犯意ヲ翻スモ偽造其モノニ對スルノ犯意ニアラズシテ、行使スベキノ意思ヲ翻スヤ之レ亦明カナル所ナリ、孰々本條ヲ攻究スルニ、本條ハ前數條ノ未遂犯ヲ以テ所罰スルモノニ非ラズシテ、獨立ノ一罪トシテ處分スルモノナル事當然ナリ、故ニ行使ニ對スルノ意思ヲ翻スモ、本罪ハ完了ノ域ニ達シタルモノナレバ、其ノ成

立ニ何等影響スル所ナシ、要スルニ本問ノ場合ニ於テハ偽造行使ノ中止犯タルモ、偽造罪ノ中止ニ非ラサルヲ以テ、本條ヲ適用シテ處罰スヘキモノトス。而シテ第二項ノ偽造機械トハ判決例ノ示ス如ク、貨幣偽造ニ直接必要ナル器械ヲ指スモノニシテ、其ノ機械ヲ製造スル器具等ヲ指スモノニアラス、故ニ石版、印肉及彫刻針等ヲ購求スルニ止マル時ハ偽造ニ直接ノ器械ヲ豫備シタル者ト謂フヲ得ザルナリ然レドモ器械ノ豫備タル其器械ノ偽造ニ、直接主要ノ關係ヲ有スルト否トハ本罪ヲ構成スルニ影響ヲ及ボスモノニアラザルナリ、未タ著手セザル行為トハ實行々爲ニ著手セザル事換言セバ偽造ニ取り掛ラザル事ヲ意味ス、他ハ別ニ説明ヲ俟タズシテ明カナリ。

第八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職丁ハ前數條ニ記載シタル犯八ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス
(解)本條第一項ハ知情雇人ノ處刑ヲ定メ、第二項ハ職工ヲ補助シタル雜役者ヲ處分スルノ規定ナリ、即チ前者ハ偽造行為ノ加工者ニシテ、主觀的方面即チ意思ヨリ觀察スルモ、亦客觀的方面即チ結果ヨリ觀察スルモ、總則ニ於テ既ニ述ベタル如ク、共同正犯者トシテ其條件欠クル所ナシ、然ルニ此ノ規定ヲ適用シテ、彼ノ共

犯ノ適用ヲ受ケザルガ故ニ特ニ茲ニ規定スル所以ナリ、又第二項ハ職工ノ補助者ナルガ故、是亦從犯處分ノ總則ノ規定ヲ適用スルヲ妥當トスベキモノナレドモ、多少彼此ノ間ニ其遠因ノ相異ナル所アリテ、斟酌スベキ所アルヲ以テ、特ニ其適用法文ヲ規定シタル所以ナリ、他ニ深キ理由アルニ非ラズ。

第八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

(解)本條ハ知情ノ上、房屋ヲ貸與シタル者ノ處分法ヲ規定シタルモノニシテ、一家タルト、一室タルトヲ問ハズ、廣ク雨露ヲ凌グニ足ルベキ屋根牆壁ヲ有スル一切ノ物ヲ包含ス、而シテ法文ニ於テ所定スル所、特ニ明示セサルガ故、主タル者又職工或ハ補助ニ貸與スルモ、亦製作場或ハ機械藏匿場ニ之ヲ貸與スルモ、同ジク犯罪成立ニ欠クル所ナシ。

第八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

第九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ收受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ處シ各二等ヲ減ス

其未タ行使セサル者ハ各二等ヲ減ス

第九十一條 前數條ニ記載シタル犯罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入收受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免ジ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル者ハ本刑ヲ免ス

第九十三條 貨幣ヲ收受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知り之ヲ行使シタル者ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スコトヲ得

(解)以上列記ノ條文ニ規定スル所ノモハ、(一)外國ヨリ輸入シタル者、(二)情ヲ知テ收受シ之ヲ行使シタル者、(三)情ヲ知テ之ヲ行使セサル者、(四)收受ノ後情ヲ知リテ之ヲ行使シタル者、(五)自首シタル者、ノ五箇ノ場合ヲ規定シタリ、前示一乃至五ノ中特ニ説明ヲ要スベキ點ノミヲ説述スベシ、(一)ノ收受トハ如何ナル行爲ナルヤ、學者ノ説明ニ派ニ分レ、一ハ收受ノ意味ニシテ引渡人アル場合、二ハ引渡人ノ有ルト否トヲ問ハズ、自己ノ保有ニ歸スベキ一切ヲ包含ストナス者トノ二ナリ、然レドモ大審院判決例ハ後説ヲ取レル事明カナリ、故ニ著者モ亦之ニ從ヒ、引渡人アル場合ハ勿論、假令是ナキ場合(拾得、竊取等)ヲモ意味スト解ス可

シ、次ニ(五)ノ場合ノ自首ニ於テ本刑ヲ免スル所以ハ、一ハ悔悟シタルニ基クト雖モ一社會ニ波及スル危險ヲ中止シ、實害ヲ生ゼザルニ至リシガ爲メ、其ノ本刑ヲ免シテ科罰セザルニアルナリ、他ハ別ニ説明ヲ俟タズシテ明カナリ。

第二節 官印ヲ偽造スル罪

抑モ本節ニ規定スル所ノ官印トハ何ゾヤ、官署ノ印顯ヲ云ヒ、官署トハ國家ノ委任セラレタル權限内ニ於テ、國家ニ代リテ政務ヲ管掌スル機關ノ全般ヲ云ヒ、印顯ハ或一定ノ影蹟ヲ押捺スル事ニ依テ、或事實ヲ證明スルノ用ニ供セラル、若テ云フ、而シテ一私人ノ用ニ供セラル、物ヲ私印トシ、官署ノ用ニ供スベキヲ官印トス、終ニ注意スベキハ、國家ノ一小區域ヲ定メ、以テ自治体ヲ認メ其自治体ニ於ケル役所ノ如キハ、官署ニアラズシテ公署ト云フ、然レトモ北海道町村役場ヲ以テ官署トナシタル判例アリ(三十二年十月二十三日)
大審院判決
如此官公署各自相異ナルト雖モ、廿三年法律第百號ニ於テ、公署ニ對シ官署ノ規定ヲ引用スル旨ヲ明示スルガ故ニ、本節ヲ適用スル事明カナリ。

次ニ偽造トハ、真正ノ印顯ニアラザルモノヲ不法不正ニ製造シ、人ノ眞實ナルヲ信

スルニ足ル可キ形蹟アルヲ云フ、故ニ假令真正ナラザルモ、絶對ニ信憑スル者ナ
キガ如キハ偽造ト云フ事ヲ得ザル可シ、然ラバ如何ナル程度ニ達シタルモノヲ偽
造トシ、又偽造トナサハルカニ付テハ、我大審院ニ於テ幾多ノ判例ヲ存ス、諸君
ノ參照ニ價スベキモノヲ摘記セン、官ノ記號印章タル形跡ヲ存スル以上ハ、廿法
字体ノ真正ヲ模擬セサルモ、其犯罪ヲ成立ス(二十九年二月二十四日宣告)、次ニ郵便電信局ノ
印章ヲ偽造スルニ當リ、電信ノ二字ヲ遺脱スルモ亦官印ノ偽造罪ヲ構成スベシ
(三十一年十一月四日宣告)ト、要スルニ偽トハ敢テ真正ノ印類ニ模擬スルヲ必要トセス、只
官署ノ印章トシテ人ヲ欺クニ足ルヲ以テ充分ナリ、之レ三十三年三月十四日ノ判
例ノ示ス所ナリ、而シテ印類ノ實體ガ眞物ト誤認セシムルニ足ルヘキ程度ニ達シ
タリヤ否ハヤ、一ニ裁判官ノ認定ニ依ル、先ニ一言シタルガ如ク、不實ナラザル物
ヲ以テ、真正ナリトノ信憑ヲ與フレバ足ルガ故ニ、眞實實在セサルモノヲ實在スル
ガ如ク裝ヒ、且其目的ガ或ル事實ノ證明ノ爲メニ利用セントスルモノナル時ハ、亦
本罪ヲ構成スルモノトス、之ニ就テ三十四年二月七日大審院ニ於ケル判決アリ、
曰ク内務省衛生局長ノ印ヲ偽造シタル當時ハ、内務卿ノ官名ナシトスルモ、其偽
造ノ目的ハ、内務卿衛生局長ノ名ヲ以テ免狀ヲ下附スル當時ノ、醫師開業免狀ヲ

偽造セントスル事實明瞭ナレハ、假令其官職廢止後ニ於テ偽造スルモ、亦偽造罪
ヲ構成スベシ。

而シテ官印ノ範圍ハ、本節ニ於テ各條規定スル所ノモノ、即チ御璽國璽、各官署
ノ印、記號印章等ノ總躰ヲ云フ、是等ノ詳説ハ各本條ヲ詳解スル時ニ於テ説述ス
ベシ。

第百九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

(解)御璽トハ天皇ノ御印ニシテ文ニ天皇御璽トアリ、次ニ國璽ニハ日本帝國ノ印ナ
ルガ故ニ、文ニ大日本國璽トアリ、而シテ如何ナル時、如何ナル場合ニ於テ、此
等二個ノ印璽ノ使用セラル、カ、公文式第三ノ印璽ノ部ヲ通覽セバ明瞭ナル可シ
而シテ使用トハ、其用方ニ從ヒ之ヲ押捺シ、以テ真正ノ印カ押捺セラレタルモノ
、如クニ裝ヒ、明示若クハ暗黙ニ之ヲ主張シ、相手方カ其主張ヲ智覺シ得ベキ程
度ニ迄、近接セシムル狀況ヲ云フ、其果シテ相手方ガ實際上知ルヤ否ヤハ本罪構
成ニ些ノ影響ヲ及ボスモノニ非ラズ、又用方ニ從ツテ要スルガ故ニ、國璽ヲ借用
證ニ押捺シ、御璽ヲ借家證書ニ使用スルモ、法律上ニ於ケル所謂使用ノ内ニ、包
合セラレザルモノトス。

第百九十五條

各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

(解)抑モ官署ニ付テノ性質ハ、其初ニ當リ既ニ述ベタルガ如シ、而シテ如何ナル物ヲ官署ノ印ト云フカ、換言スレバ官印ノ範圍如何ノ問題ニ歸ス、其官廳ヲ代表證明スベキ印ハ官印タル事勿論ナレトモ、而モ本條ニ於ケル官印ハ爾ク狹義ノ意ニアラズ、官署ノ契印(三十三年十一月二十日大審院宣告) 郵便局ノ消印(三十四年一月十五日日大審院宣告參照) 官吏ノ印及職印(三十年六月十四日大審院判決參照) 裁判所ノ各種ノ印(三十二年二月七日大審院判決參照) 官職氏名ヲ刻シ職務上使用スル印章(廿八年十一月四月大審院判決參照) 官ノ拂下木材ニ押ス記號(廿六月廿二日大審院判決參照) 等ヲ包含ス、而シテ此等ノ各官印ヲ偽造シ、數次之ヲ行使スルモ數罪ニアラズ之レ廿六年十月十日ノ大審院判決ニ明記スル所ナリ、又前條並ニ本條ニ偽印ヲ使用シタル者トハ、偽造ナル事ヲ知テ使用シタル者ヲ云フ、茲ニ注意スヘキハ官印ヲ偽造シテ以テ之ヲ使用シタル時ハ如何ニ處分スベキカ、換言セバ偽造ノ中ニハ、不實ナル印願ヲ製作シ、且ツ使用シタル者ヲモ包含セラル、ヤ否ヤト云フニアリ、刑法第二百六條ニ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ト記載シ、偽印使用ノ明文ナシ、然レトモ偽造中ニハ使用ヲモ當然包含スルモノトシテ宣告セリ

是レ明治二十八年十月一日大審院判決文ニ明カナル所ナリ。

第百九十六條

產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
(解)記號ト印章トノ區別ニ就キ、發音シ得ベキモノヲ印章ト云ヒ、發音シ得ベカラザルモノヲ記號ト云フ、ト解スル學者アレドモ、著者ハ敢テカ、ル區別ノ標準ヲ設ケズ、只番號ヲ符シ又ハ或事ヲ記シタルモノヲ云ヒ、印章トハ通常ノ官印ノ如ク押捺セラレタル印影ニヨリ、押捺物ニ表彰セラレタル或モノヲ證明スルモノニ非ラズシテ、印願其レ自身ガ或モノヲ證明スルニ足ル力ヲ有スルモノヲ云フ、假ヘバ某縣蠶種検査所製糸用紙検査證ト刻ミタル印願ノ如キ即チ是レナリ、右二者何レモ出所、精粗眞贋等ヲ證スル爲メ、官ニ於テ押捺スルモノナリ、其他ハ別ニ說明ヲ要セズシテ知り得ベシ、次ニ注意ヲ要スルハ本條所定ノ犯罪成立時期トナス廿九年六月二十九日ノ大審院判例ニ曰ク、官ノ記號印章偽造ハ單ニ偽造ノ所爲ノミニ依テ其犯罪ヲ成立ス、故ニ其偽造ノ目的及ビ使用ノ方法如何ハ、犯罪ノ構

成ニ何等ノ影響アルコトナシト。

第九十七條 御璽國璽官記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

(解)本條中ノ影蹟トハ、印願ノ押捺ニヨリ、現出サル可キ所ノモノヲ指シテ云フ故ニ影蹟ハ即チ印願其物ヲ指示スルニ非ラズ、故ニ印願以外ノ方法手段ニ依リ、表彰セラレタル印影全般ヲ意味ス、明治三十七年十二月二十三日ノ大審院判決文ニ曰ク、官署ノ印ヲ偽造シタル者トハ、官署ノ印願ヲ偽造シタル者及ヒ官署ノ眞印ニ模擬シタル或方法ヲ以テ其印影ヲ現ハシタルモノヲモ包含スト、次ニ盜用トハ、職權ナキ者又ハ職權外ニ印影ヲ使用スル事ヲ謂フ、今讀者ノ參考ノ爲メニ判決例ノ二三ヲ掲ゲン、官吏其監守スル官印ヲ不正ニ押捺シ即チ押捺スベカラザルモノニ押捺シテ使用シ、又ハ他人官吏ノ隙ヲ伺ヒ、竊ニ官印ヲ押捺シ使用シタル所爲云フ(二十六年六月廿一日大審院判決)、又官吏其職權範圍ヲ超脱シ、不正ニ官印ヲ押捺セシ所爲ハ本罪ヲ構成ス(十年一月廿一日大審院判決)ト、而シテ他人ノ押捺シタル官印ヲ使用シタル所爲ハ、只ニ使用ノ實ノミノ如キモ尙ホ盜用罪成立ス、之レ亦三十一年

九月二十日大審院ノ認メテ以テ宣告シタル所ナリ、然シテ若シ印願ヲ看守スベキ職務ニアル者、又ハ印願ヲ預カリ保管シ居ル者ニシテ、盜用ヲ爲シタル時ハ、其情ヲ重シシ、偽造ノ刑ヲ科ストナセシカ安當ナリ、何トナレバ自己ノ自由ノ權内ニアル者ナレバ、犯スニ易ク且ツ自己ノ職責ヲ濫用スル者タレバナリ。

第九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)偽造及ヒ變造ハ既ニ述べタルガ如ク、不法ニ作製スルモノト、眞正ノ物ヲ變更シ其ノ外觀ヲ保ツモノトニ過ギズ、之ニ付テ二十六年九月二十八日ノ大審院判決文ニ曰ク、古印紙ノ消印ヲ洗除シ、又截斷或ハ繼合セタルハ、印紙ノ偽造變造ニアラズ、故ニ情ヲ知リテ賣却スルモ使用ト云フヲ得ズト、然レドモ其形式ヲ保チ外觀未タ使用セシ事ナキ眞正ノ物ノ如ク、紐ヲ點ニ就テハ、即チ偽造ノ性質ト何ゾ擇バン、此ノ故ニ明治三十六年十一月十三日大審院ニ於テ、從來ノ判例ヲ打破シ、新判例シラ出セリ、曰ク既ニ貼用消印ヲ施シタル印紙ノ斷片ヲ彼此繼合セラ新ニ印紙ヲ製造シタル所爲ハ偽造罪ヲ構成スト、之レ其當ヲ得タルモノト信ス、

次ニ知情使用ハ印紙界紙及切手ノ用法ニ從フテ、之ヲ行使スルノ意義ナリ、故ニ
收入印紙ヲ郵便ニ貼布スル如キハ本罪ヲ構成セズ、又界紙トハ許手形又ハ送り狀
ノ用紙ニシテ、野ヲ引キシ物ヲ云フ。

第九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以
上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(解)印紙再貼用ニ就キ一問アリ、即チ一度之ヲ使用スルモ、郵便消印ノ押捺セラレ
ザル場合ニ於テ、再ヒ之ヲ貼用スル時ハ尙ホ本罪ヲ成立ス可キカ是レナリ、或學
者ハ曰ク、消印ハ印紙ノ使用シタル事ヲ證明スルノミニシテ、使用行使ノ要素タ
ルモノニアラズ、一度貼用行使セバ其證明タル消印ノ有無ニ拘ハラズ、其効用力
ヲ既ニ失ヒタルモノト云フヲ得ベシ、此故ニ再ヒ之ヲ貼用スル時ハ本罪ヲ構成ス
可シ、ト、然レドモ著者ハ之ニ反對ノ議論ニ贊スルモノナリ、何トナレバ一度貼
用行使シタル時ハ、其効用ヲ失スルハ當然ナレドモ、既ニ之ガ證明タル消印ヲ押
捺スル事ヲ必要條件トナシタル以上ハ、其之レナキヲ以テ使用ヲ全フシタルモノ
ト云フ事ヲ得ズ、且ツ其ノ消印タル當局者ノ疎虞ニ依ル所、之ヲ以テ其責ヲ一理論
ノ下ニ、他人ニ負ハシムルノ甚ダ不當ナルヲ信ズレバナリ、之レ消極論ニ贊スル

所以ナリ。

第二百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯シトシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照
シテ處斷ス

第二百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監
視ニ付ス

(解)前條ハ未遂犯ヲ規定シタルモノニシテ、總則ノ註解ヲ一讀セバ明カナラン、後
ノ二百一條ハ只科罰ノ方法ヲ規定シタル者、固ヨリ説明ノ用ナシ。

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

文書偽造罪トハ或ル文書ヲ偽造シテ行使スル所爲ヲ云フ、但其文書ハ特ニ法律ニ
於テ指定シタルモノニ限ルナリ、又詔書ニ係ル場合ハ之ヲ律スルヲ要セズ、單ニ
偽造變造又ハ毀棄スル所爲ヲ以テ本罪トス、本節ハ官ノ文書偽造變造行使ヲ規定
セリ、以下各條ノ下ニ解説セン。

第二百二條 證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
其證書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス
其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

(解) 法律ガ偽造ノ罪ヲ問フ文書ハ、刊行ニ係ルト筆記ニ係ルトヲ問ハズ、或ル事實
ノ存否ヲ證明スル爲メセルモノタルヲ要ス、而シテ其證明スベキ事實ハ必ラズシ
モ權利義務ノ存否ニ關スルト否トヲ要セスト雖モ、アル事實ニ對スル信據力ヲ有
スルモノニ限ルベシ、然ラザル文書ハ偽造罪ノ物體タル能ハズ、然リ此犯罪ノ所
爲タル、文書ノ偽造變造使用若クハ毀棄ニ在リ、偽造トハ權利又ハ承諾ナクシテ
眞實ナラザルモノヲ新タニ作製スルヲ云ヒ、變造トハ文書ノ信據力ヲ有スルニ必
要ナル或部分ヲ、加筆、削除、更改等變更ヲ來ス可キ一切ノ行爲ヲ云フ、以上兩
者ノ區別ハ一ハ新タナル作製ヲ云ヒ、一ハ眞正ナル文書ヲ基本トシテ變更スルヲ
云フ、又毀棄トハ文書ノ信據力ヲシテ皆無ナラシムルノ行爲ヲ云フモノニシテ、
燒毀破毀ノ如キハ勿論濃墨ヲ用キテ、眞墨ニ染メ其ノ何ノ書タルヤヲ解スル能ハ
サル場合、又ハ河ニ捨ツルガ如キ、要ハ信據スル書類ノ用ヲ失ハシムレバ足ル。
次ニ注意スベキハ、不實ノ事ヲ申告シテ當該官吏ニ文書ヲ認メシムル行爲ハ、此
ヲ以テ文書ノ偽造アル者ト云フ事ヲ得ズ、又捺印ハ文章、言語ヲ表示シタル文書

ニ非ザルカ故ニ、文書偽造ヲ以テ之ヲ論スル事ヲ得ス (三十六年一月十三日)
大審院判決參照

以上論述シタルガ如ク、偽造ト變造トハ學理上相異ナルガ如ク説明スルモ、事實
ニ於テハ刑法適用條項並ニ之ガ科罰ニ於テ同一ナルガ故ニ、之ヲ區別スルノ用ナ
シ、此ノ結果トシテ偽造ノ場合ニ變造ト云ヒ、變造ナルニ拘ハラズ偽造ナリト云
フモ、此ヲ以テ裁判ノ破毀ノ理由トナラザルモノナリ、明治三十五年十二月九日
大審院判決書ニ曰ク、偽造ト云ヒ變造ト云フモ、共ニ刑法二百三條ノ適用ヲ受
クベキモノナレバ、縱シ其判決ヲ異ニスルモ法律上何等ノ影響ヲ生スヘキモノニ
非ラズ、從テ之カ爲メ判決ヲ取消シ、又ハ判決ヲ破毀スベキ限ニ在ラズト。
行使ニ付テハ第一節、及ビ第二節ニ於テ、既ニ説述シタルガ如ク、相手方ノ知覺
シ得ヘキ程度ニ近接セシムレバ可ナリ、其知覺ヲナシタルヤ否ヤハ行使ノ成立ニ
必要ナル條件ニアラズ。

第二百四條 公債證書、地券其地官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行
使シタル者ハ輕懲役ニ處ス
若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條

ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ
其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

(解)前條ニ於テハ官吏トシテ、正當ニ作成セヨレタル證明文書ニ關スル罪ヲ規定シ
次條ハ一般官吏ノ職務上作制シタル文書ニ關スル罪ヲ規定セリ、前者ハ後者ノ例
外ニシテ、後者ハ前者以外ノ場合ヲ規定ス、而シテ無記名タルト否トヲ問ハズ凡
ソノ公債證書、及ビ地券ノ如キハ、前者ニ包含セラル所ノモノヲ例示シタルニ外
ナラズ、然レドモ書類ノ作制者ニ非ラザル他ノ係官ニシテ承認ノ爲メ、其書類ニ
捺印スルモ書類ヲ作成シタルモノト云フヲ得ズ、之レ捺印ハ記録行為ニ非サルヲ
以テ、前條ノ犯罪ヲ不成立ニ終ラシムルモノト爲ス所以ナリ、其他ハ説明ヲ俟タ
ズシテ所述ニ依リ了解セラル可シ。

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ
各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(解)本條ハ官文書偽造ノ目的ヲ以テ、官印ヲ偽造シタル場合、及之ヲ盜用シタル場
合ニ如何ニ處分スヘキカニ就テ規定シタルモノナリ、而シテ偽造、盜用何レモ第
二節ニ於ケル説明ヲ參照ス可シ、但シ本條ハ併發罪ノ如キモ相結合シテ特別ノ一

罪トナス。

第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二
年以下ノ監視ニ附ス

(解)一讀明了ナレバ深ク説明セズ、唯茲ニ一疑問アリ、曰ク重罪刑者ニ向テハ監視
ヲ附スル旨ノ規定ナキニ拘ハラズ、輕罪刑ニ處セラレタル者ノミニ對シカ、ル規
定ヲ設ケタルハ抑モ權衡ヲ得ザルガ如シト雖モ、此レ總則規定ノ適用ニ外ナラズ
今第三十七條ニ依レバ、重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ、別ニ宣告ヲ用ヒザル旨ヲ
規定セルニ拘ハラズ、第三十八條ニハ輕罪刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告スル旨ノ
規定アリ。

其ノ但書ニ各本條云々ノ記載アリテ、本條ノ如ク特ニ明規スル事ヲ認メラレタリ
故ニ此ノ宣告ヲナサンニハ、特別ノ規定ヲ俟タサル可カラズ、之レ後者ニハ明規
ヲ要シ、前者ハ當然監視ニ附スルモノナルガ故ニ、特別ノ明文ヲ要セザルガ故ナ
リ。

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

本節ニハ私印偽造行使罪、印影盜用罪、私書ノ偽造増減變換行使罪ヲ規定セリ、而シテ印章偽造罪ハ文書偽造罪ト其趣キヲ異ニシ、寧ロ貨幣偽造ト性質ヲ同フス印章トハ信確ヲ證スルノ用ニ供スル記號ノ原體即チ印類ヲ云フモノニシテ、自署ノ氏名花押其他既ニ文書ニ捺用シタル影蹟ハ原體ニアラザルガ故ニ、印章ト云フ能ハス、尙ホ其詳細ニ至ツテハ乞フ以下各條ノ註釋ニ讓ラン。

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以上ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

(解)他人ノ私印トハ、即チ自己以外ノ者ノ私印ヲ云フ、偽造トハ他人ノ真印ト誤認セシムヘキ影跡ヲ現出スベキ私印ヲ、新ニ作製スルコトニシテ、其形狀ノ大小等ハ真物ト敢テ酷似スルヲ要セズ、普通ニ他人ヲシテ真印ト誤マラシムルニ足ル程度ニ達セバ可ナリ、小疇學士ノ如キハ前論ノ外ニ真物ノ存在スルコトヲ要セズ、ト論セラレシハ甚ダ妥當ノ説ト云ハサル可カラズ、我大審院ニ於ケル判決亦然リ、次ニ盜用ニ就テハ、往々偽造行使ハ之即チ盜用ヲ意味スト云フ者アレドモ、コハ印影盜用ノ性質、及之ト偽造ト其罪同一ナルガ如ク思意スルノ結果ニ依ル、此等

ニ就テハ二十二年三月四日大審院ノ判決文簡明ニ釋義セリ、曰ク印影盜用罪ハ官私印ノ別ナク、印課其ノ物ヲ直チニ目的ノ書類ニ盜捺シ、又ハ原院ノ認メタル他ノ書類ニ押捺シアリタル印影ヲ移シ來リテ、目的ノ書類ニ盜捺シ之ヲ行使スルニ依リテ成立ス、而シテ印影製作ハ即チ偽造ニシテ、偽造ト盜用トハ特別ノ罪ナルカ故、製作即チ偽造シタルニアラザラ以テ、盜用罪ニ非ラスト論スル事ヲ得ズト。

他ハ特ニ説明ヲ用セザルモ、前説所述ノ註解ヲ參照セバ明ラナル可シ、然レトモ此ニ一箇ノ問題アリ、即チ他人云々ノ他人中ニ親族ヲ包含スルカ、詳言セハ親族ニ係ル者、本條所定ノ犯罪ヲナセシ時ハ犯罪成立スルヤ否ヤニ歸着ス、我大審院ニ於テハ無罪説ニ從フガ如キモ、之レ妥當ト思意スル能ハズ、岡田博士ハ曰ク、竊盜ハ單ニ財産ヲ害スルノ罪ニ過ギザルモ、反之私印偽造ノ如キハ公ノ信用ヲ迫害スルノ罪ナリ、之ノ故ニ法律ニ於テ私盜ニ關スル犯罪ニ就キ、或親族ニ對シテ特典ヲ與フル事アリト雖トモ、爲メニ延イテ他人ノ信用ヲ傷害スベキ犯罪ニ、之ヲ適用スルコトヲ許サズ、加旃私印ヲ偽造スル犯罪ニ付テハ、法文上明カニ他人テフ語ヲ用キ、文字中凡テ自己以外ノ私印ヲ含蓄セシメタル以上ハ、苟モ特別ノ

條規ナクシハ、親屬ノ私印ヲ偽造シタル場合ニモ、有罪ト爲サザル可カラズト、著者モ亦之ノ説ニ賛ス。

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買スヘキ證書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス其手形證書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)前記二箇條ニ於テ規定スル所ハ、裏書ニ依テ賣買スヘキ證書、金額ト交換シ得ベキ手形、並ニ權利義務ニ關スル證書及ヒ其他一切ノ證書ニ關スル犯罪ヲ規定シタルモノニシテ、其所罰スベキ手段ハ、偽造ト變造ト行使トノ三箇ニ過ギス、此等三ツノモノ、皆何レモ既ニ説了シタル所ナルヲ以テ茲ニ再説セズ。第二百九條第二項ニハ、手形證書ノ裏書ヲ爲スニ當リ、詐欺ノ手段ニ依リテ之ヲナシ、且ツ

行使シタル場合ヲ規定セリ、故ニ若シ詐欺ノ裏書、又ハ行使ノ何レカナル時ハ犯罪成立セサル結果トナルハ、法ノ不備タルヲ免レズ。

第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

(解)前條ハ總則未遂犯ノ規定ヲ適用スル者ヲ規定シタルモノニシテ、後者ハ輕罪ノ刑ニ處罰セラレ、者ハ、監視ニ附セラレ、旨ヲ規定シタルニ過ギズ。

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第二百十四條 國籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐欺ノ所爲ヲ以テ免狀ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下附シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十五條 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

醫師囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十六條 陸海軍ノ徴兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

(解)詐稱トハ國籍、身分氏名ノ何レノ眞實ヲ隱蔽シ、又ハ脱漏シ、或ハ積極的ニ不實ヲ表白スルノ謂ヒニシテ、詐欺ノ一手段タル者ヲ例示シタルニ止マル、抑モ詐僞ニハ其手段消極積極ノ二ニ別カツテ得、隱蔽脱漏ハ消極ヲ意味シ、進ンテ不實ヲ表白スルヲ積極ト云フ、俱ニ人ヲ錯誤ニ陥ラシムルニ於テ同一ナリ、次ニ公務トハ國家統治上ニ於テ特ニ有スル機關タル地位ニヨリ、發生又ハ負擔スル職責又ハ義務ヲ總稱ス、吾大審院ニ於テ之ニ對スル判例アリ、曰ク裁判所ヨリ召喚セラ

レタル當事者カ出廷ヲ免レン爲メ疾病證書ヲ偽造スルモ刑法二百十五條ニ該當セス(二十六年十月九日大審院判決)ト、故ニカ、ル行爲ハ公務中ニ入ラザルモノトス、又疾病ノ證書トハ疾病ニ關スル証書ノ意味ナリ、以上ノ外偽造、増減變換並ニ盗用ニ就テハ、前官印文書偽造罪ニ關スル所ニ於テ說述シタルカ故ニ、茲ニ贅セス、附テ見可シ、
終ニ臨ンテ注意ス可キハ、第二百四條ノ解釋ナリ、法文中ニハ受ケタル者トアリテ常ニ當事者ヲ意味スベキガ如シト雖モ、決シテ然ラス、他人ヲシテ之ヲ受ケシメタル加效者、教唆者幫助者ヲモ所罰スル事ヲ包含セシム、明治三十三年二月二十七日ノ判決ニ曰ク、詐欺ノ手段ヲ用ヒ、他人ヲシテ免許鑑札ヲ受ケシメタル時ハ、刑法二百十四條第一項ノ犯罪ヲ構成スト。

第六節 偽證罪

偽證トハ裁判所ニ呼出サシ、證人トシテ宣誓セシメラレタル者、被告人ヲ曲庇又ハ陷害スル爲メニ、事實ヲ掩蔽スルヲ云フ、而シテ宣誓ノ形式ヲ蹈マザル者ハ、陣述ニ對シテ一切ノ責任ヲ負ハザル者トス、苟モ此ノ宣誓シタル證人ナランニハ

假令其資格ニ於テ欠缺セル場合ト雖モ、亦證人トナシタル事ノ不法ナル場合ト雖モ俱ニ本罪ヲ構成ス、著者ハ判決例ヲ取テ以テ讀者ノ參考ニ資セン、前者ノ場合ハ明治二十九年九月十八日大審院判決ニ曰ク、證人ノ資格ナキ者ト雖モ、其事實ヲ隱蔽シ、官誓ノ上詐欺ノ供述ヲナシタル時ハ偽證罪ヲ構成ス、而シテ訊問中其事實發覺シタル場合ニ於テ、證人ノ資格ナキ旨ヲ申立ツモノ、之カ爲メ一旦成立シタル偽證罪ハ消滅スヘキモノニ非ラスト、次ニ後者ノ場合ハ、明治三十三年第一七七號五月一日同院判決ニ曰ク、證人トシテ訊問セラレタル被告事件ノ起訴ニシテ、不法ノ點アリトスルモ、苟モ證人トシテ裁判所ニ呼出サレ、訊問ヲ受クルニ際シ、人ヲ曲庇スル爲メ不實ノ陳述ヲ爲シタルトキハ、偽證罪ヲ構成スト、次ニ事實ヲ掩蔽トハ、消極的即チ事實ノ不知又ハ沈黙ヲ以テ、或ハ積極的手段即チ不實ノ陳述ヲナスヲ云フ、不知又ハ沈黙タルニ被告入ヲ曲庇シ陷害スルノ意思ニ基キタルヲ要ス、前者ニ就テハ明治三十一年十二月二日大審院ニ於テノ宣告アリ、曰ク不知ノ陳述ト雖モ、其陳述虛偽ニシテ、他人ノ犯罪ヲ曲庇スルノ意ニ出タルトキハ偽證罪ヲ構成スト、又全ク有ラサル事實ヲ有ルガ如ク裝ヒテ陳述スルハ尙偽證罪ヲ構成ス、之ニ附テモ判決例アリ、二十五年六月十六日ノ大審院判決

文ニ曰ク、疾病證書歸省願書等ニ掲クル所ノ醫師及親族ノ氏名ハ、假令虛偽想像ニ係ルモ眞實ニ其人アル如クニ構造シ、有合印ヲ捺捺シ以テ證書ヲ偽造シタル所爲ハ偽證罪ヲ構成スルモノナリト、而シテ曲庇トハ事實ヲ曲ゲ、被告人ヲシテ不正ニ刑ヲ免レ、又ハ輕キ刑ヲ科セシメントスルヲ云フ、次ニ陷害トハ曲庇ノ反對ニシテ、被告人ヲシテ不當ニ重キ刑ヲ受ケシメ、或ハ罪ナキニ刑避ニ觸レシメントスルニアリ、故ニ偽證罪ノ目的ハ常ニ此ノ曲庇、陷害ノ二ヲ出テザルナリ。此ノ偽證罪ノ成立ノ時期ハ何時ナルヤ、之ニ就テモ亦二十七年六月五日ノ大審院判決文中ニ明示セル所、取テ以テ説明ニ換ヘン、曰ク其證人ニ對スル訊問ヲ終リタル時、初メテ成立ス、故ニ最初虛偽ノ陳述ヲ爲スモ、其訊問中ニ取消ヲ爲シテ眞實ヲ陳述スル時ハ偽證罪トナラズト

- 第二百十八條 刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ曲蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス
- 一 重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 - 二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上

二十圓以下ノ罰金ヲ處断ス

三 違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處断ス

第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處断ス

一 重罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十一條 偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處断ス

其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期

第二百二十二條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未

タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス

若シ被告人ヲ死ニ陥ルルノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

(解)前偽證ニ於ケル釋義ヲ見レバ、前掲各條ヲ註スルノ用アラズ、而シテ法文中反坐トハ假ヘバ被告人三年ノ禁錮ニ處セラレタル時偽證者モ亦三年ノ禁錮ニ處セラ

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)民事裁判所ニ關スル偽證罪ニ付テハ、刑事裁判所ニ於ケル偽證ノ目的ト全然相異ナル事ハ諸君モ知レルナラン、然ラバ如何ナル目的ヲ以テスルヲ要スルカ、之ニ付テハ一ノ制限アル事ナシ、從テ不正ノ利ヲ與ヘ、若クハ損害ヲ加フルノ目的ニ出ル事ヲ要セスト解スルヲ正當ナリトス、我大審院ノ判例亦然リ、次ニ行政裁判ニ關スル偽證ハ、行政裁判法第三十八條ニ照シテ之ヲ定ム、然リ而シテ偽證者

二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス
第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百二十條

被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 重罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ニ陥ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十一條

偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期

ヲ減スルコトヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スコトヲ得ス

第二百二十二條

偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス

若シ被告人ヲ死ニ陥ルルノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

(解)前偽證ニ於ケル釋義ヲ見レバ、前掲各條ヲ註スルノ用アラズ、而シテ法文中反

坐トハ假ヘバ被告人三年ノ禁錮ニ處セラレタル時偽證者モ亦三年ノ禁錮ニ處セラ
ル、ノ意、科罰ノ反射又ハ反映之レナリ。

第二百二十三條

民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)民事裁判所ニ關スル偽證罪ニ付テハ、刑事裁判所ニ於ケル偽證ノ目的ト全然相異ナル事ハ諸君モ知レルナラン、然ラバ如何ナル目的ヲ以テスルヲ要スルカ、之ニ付テハ一ノ制限アル事ナシ、從テ不正ノ利ヲ與ヘ、若クハ損害ヲ加フルノ目的ニ出ル事ヲ要セスト解スルヲ正當ナリトス、我大審院ノ判例亦然リ、次ニ行政裁判ニ關スル偽證ハ、行政裁判法第三十八條ニ照シテ之ヲ定ム、然リ而シテ偽證者

が果シテ偽證ヲナシタルヤ否ヤ、之ヲ認定スルハ如何ナル標準ニ從フヤハ、明示ノ規定ナキガ故ニ、事實裁判所ノ職權トナス外他ニ道ナシ、之レ明治三十二年十月二十七日大審院判決ニ明示スル所ナリ。

第二百二十四條

鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

(解)鑑定トハ特殊ノ技能ニヨリ、已知ノ事實ニヨリ已知ノ事實ヲ判斷スル爲メ、特ニ裁判所ヨリ鑑定ヲ囑託セラレタル者ヲ云ヒ、又通事トハ通辯スル事等ヲ云フ、而シテ詐僞トハ不實ヲ意味ス、他ハ別ニ説明ノ要ヲ見ス。

第二百二十五條

賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ

(解)賄賂其他ノ方法トハ、脅迫、詐欺、威權、約束等不正ノ手段一切ヲ指示ス、之レ三十一年五月六日ノ大審院判決ノ明示スル所ナリ、此ノ結果トシテ、不正ノ方法ニ依ラズ單ニ過去ニ屬スル恩誼上ノ關係ヲ説テ、偽證ヲ囑託シタル所爲ノ如キハ本罪ヲ構成セズ(三十一年五月六日大審院判例)、又單純ニ囑託シテ偽證ヲナサシムルガ如キモ亦本罪ヲ構成セザルモノトス、(三十一年十月三十一日大審院判例參照)、次ニ他人ガ偽證ヲ

爲ス事ヲ知テ、之ヲ幫助シタル者ハ、偽證罪ノ犯トシテ處罰セラル可シ、判例又之ト同シ。

第二百二十六條

此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

(解)本條ニ就テ判例アリ、引用シテ説明ニ更ニ、曰ク自首ハ事未タ發覺セサル前ニ爲スニ非ラザレバ其效ナシ、從テ偽證罪ノ自首ニ依リ、本刑ヲ免スル場合ニ於テハ、證言ヲ爲シタル事件ノ裁判宣告前ニシテ、且ツ偽證ノ發覺前ニ於テ、自首シタル事ヲ要ス。

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第二百二十七條

度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ官ノ記號印章ヲ盜造シ又ハ僞用シタル者ハ偽造官印各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十八條

偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス

第二百二十九條 商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ其度量クヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ、各一等ヲ減ス

(解) 偽造又ハ變造ニ付テハ別ニ説明セズシテ明カナル可シ、記號印章トハ俗ニ「メモリ」ト云フ者即チ符號及印影ヲ云フ、第二百二十九條ニ就テハ數多ノ判決例アリ、參考ノ爲メニ以下摘記セン、明治二十七年三月廿六日大審院判例ニ曰ク、雜穀商カ故意ニ線金ヲ取外シタル樹ヲ所持(所有ノ意義)セハ、其營業上使用セシガ爲メ所持シタルヤ否ヤハ問ハス、初項ノ犯罪ヲ構成スト、次ニ定規ノ谷量ヲ減シタル樹ヲ、利ヲ得ルノ目的ヲ以テ數月間續繼シテ商業上使用シタルモノハ刑法二百二十九條二項ヲ以テ論ス而シテ被告ハ樹ノ四隅ニ「ユクス」ヲ附着セシメテ、商業上使用シ、買主ヲシテ定規ノ樹ナリト信セシメ、利得シタルコト明白ナレハ、欺罔騙取ノ二條件ヲ具備スルカ故ニ、詐欺取罪ヲ構成スベシト、之レ二十七年五月廿五日大審院ニ於テ宣告シタル所ナリ、他ハ略ス。

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

身分トハ人類自然ノ存在ニ免ルベカラザル事爲ヨリ、必然發生ズベキ法律上ノ結果ヲ云フ、例令ハ又母子孫夫妻戸主相續人ノ資格ヲ持シ、年齢トハ人々存在ノ時限ヲ云ヒ、屬籍トハ、類自然ノ存在ニ必要ナル事爲若クハ、人爲ニ係ル適法ノ所爲(入籍ノ許可)ニ由リ、人々屬スル所ノ地(本籍)及ビ、生存ノ道ヲ計ル適法ノ地(住所)ヲ云ヒ、職業トハ生存ノ道ヲ計畫スル方法ヲ云ヒ、職業トハ生存ノ道ヲ計畫スル方法ヲ云フ、サレバ文人雅客ノ別號又ハ演名等ハ、法律上必ラズ有セザル稱號ニアラザルベシ、又自分ニ準シテ法律ガ其詐偽若クハ僭用ヲ罰スルハ、官職位階勳章及ビ官ノ記章等トス。

身分詐稱ノ手續ハ言語又ハ文書ヲ以テスルコトヲ要ス、故ニ刑客モテ考者ヲ五年ニ裝フガ如キハ、法律上毫モ問フ所ニアラズ、然リ其所爲タル官署ニ對シテ爲シタルコトヲ要シ、其犯罪ヤ單ニ詐稱ノ故意アルヲ以テ足レリトセズ、以テ已レヲ利シ他人ヲ害スルノ意アリ、且詐稱ノ事項ニシテ、之ヲ信據力ヲ有スベキ事書類ニ記入センカ、文書偽造罪ノ構成ヲ見ルニ至ラシ。

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ借用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)身分詐稱ハ官署ニ對スルノ犯罪ヲ構成スベク、個人的ノ詐稱ハ其罪ナシ、然レトモ警察ニ於テ違警罪被告人トシテ取調ヲ受ケル際、氏名ヲ詐稱スルコトアルモトハ自己ノ辯護權内ニ屬スルヲ以テ、氏名詐稱罪トハナラズ、又官名詐稱ハ詐欺取財犯ニ必要ナル所爲ニアラズ、故ヲ以テ二個名別ノ犯罪成立スルヲ以テ、勢ニ二罪俱發タリ、最後ニ二百三十二條中ニハ菊ノ御紋ヲ使用シタル場合ヲ包含スルヤノ問題ナリ、曰ク論ズル迄モナク皇族以上ニアラザレバ、使用スルコト能ハサルモノナレバ、之ヲ犯セバ前條ノ犯罪構成ヲ見ルヤ必セリ。

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二日以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條 投票ヲ検査シ及ビ其數ヲ計算スル者共投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條 調書ヲ造ハ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐僞ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)公選ノ投票トハ、公ケノ事務ニ關スル選舉ノ標章ノ義ナリ、公選トハ帝國議會府縣會町村會其他公ケノ認可ヲ得タル、公會ノ選舉ヲ云フ二百二十四條ノ場合ニ於テハ、賄賂ノ手段ニ依リ投票ヲ爲サシメ、又ハ賄賂ヲ受ケ投票シタルコトヲ要ス、尤モ單ニ賄賂ヲ授受スルノ契約ニ止マルトキハ、一般此罪ヲ構成スルコトナカルベシト雖モ、契約ノ手附又ハ内拂トシテ現ハ幾分ヲ授與シタルトキハ、賄賂トシテ之ヲ論ズルコトヲ得ベシ、其他法條明白ナレバ、茲ニ詳説セズ。

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片煙ニ關スル罪

第二百三十七條 阿片煙ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス
第二百三十八條 阿片煙ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百三十九條 税關官吏情ヲ知テ阿片煙及ビ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ處シ各一等ヲ加フ

第二百四十條 阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ得ル者ハ輕懲役ニ處ス
人ヲ引誘シテ阿片煙ヲ吸食セシメタル者亦同シ

第二百四十一條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以上以下ノ重禁錮ニ處ス
第二百四十二條 阿片煙及ビ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

(解)前諸條何レモ明白註解ノ要ナシ、只二百四十二條ハ意思ノ如何ヲ問ハズ、阿片煙ナルコトヲ知リテ、之ヲ所有スル行爲アレバ、處罰スルノ注意ナルコトハ、大審院判例ノ明示スル所ナリ。

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十三條 人ノ食料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用ユルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以下ノ重禁錮ニスシ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害スベキ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(解)諸條明晰且判例ノ示スベキモノナケレバ敢テ説明ノ勞ヲ略ス。

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條 船長自カラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他所ニ出テタル者

ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(解)二百四十七條中船長ノ責任ヲ一層重カラシメタルハ、彼レガ職分上ヨリ生ズル當然ノ結果タリ、若シ之ヲシテ常人ト同一ノ責任ヲ負ハシメ、刑罰ヲ均等ナラシムルトセバ、其職責ヲ輕ンジ、爲メニ之レガ取締ヲ充分ニ達スルコト能ハザルニ至ラン其他ノ諸條ハ讀ンデ字ノ如ク、且判例中特記スベキモノモナシ。

第四節

危害品及ビ健康ヲ害スベキ物品製造ノ規則

ニ關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生スベキ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害スヘキ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ズ

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(解)前數條ノ注文同シク明瞭ニシテ、一ノ疑問ダニナシ、諸氏一讀忽チ知得セラレ

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ビ藥劑ヲ販賣スル

罪

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(解)之レ亦讀ンデ字ノ如クナレバ即チ解説スルノ要ヲ見ザルベシ。

第六節 私ニ醫藥ヲ爲ス罪

第二百五十六條

第二百五十七條

各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(解)醫師ノ免狀ヲ有セザル者ガ、私ニ醫業ヲ爲シタル場合ヲ意味シ學者中ニハ數回治療ヲ慣行シタル者ハ、此犯罪ヲ構成スト云ヒ、犯者ハ唯一ノ營業トシテ其所爲ヲ行ヒタルヤ否ヤニ在リトノ說ヲ主張スル者アリ、余モ此說ニ贊シ例令一回ノ所爲ニ止ルト雖モ、苟モ營業トシテ行ヒタル以上ハ、直チニ此罪ニ問ハレベク、之ニ反シ友人又ハ知己等ノ負傷シタル場合ニ於テ、急ニ一時ノ治療ヲ施スガ如キハ施術ノ度幾回ニ及ブモ、此犯罪ハ構成セズトノ說ニ首肯スルモノナリ。

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條

第二百五十九條

公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

(解)猥褻ノ罪トハ、陰陽ニ關係スル醜陋背徳ノ所業ニ外ナラズ、法文ニ公然トハ公開ノ場所及ビ、衆人ノ目ニ立ツベキ場所ヲ云フ、故ニ冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ單ニ所有スルノミニテハ何等犯罪ナシ、公然店頭ニ陳列スルカ、又ハ公然販賣スルトキニ於テ成立ス、彼ノ公然販賣スルトハ、唯營業トシテ之ヲ販賣スルノ謂ニシテ、決シテ場所ノ如何ヲ指示シタルモノニアラズ。

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招續シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス

賭博器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス
第二百六十二條 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)前三條ハ賭博富籤ニ關スル法文ナリ、然リ二百六十一條ニハ現ニ博奕ヲ云々ノ

明文アルヲ以テ、本罪ノ成立ニハ現行犯ナルコトヲ要スルカ勿論ナリ、現行犯ニアラザレバ罪セズト云フ、ハ天下稀レニ見ルノ法條ト云フベシ、然レドモ其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ、前例ト反シ現行犯ニアラザルモ罰スルコトヲ得ルト主張スル論者アリ、更ラニ判決例ヲ窺フニ、(一)賭博犯者ノ爲メニ見張ヲ爲シタル者ハ、犯罪ニ加功シタルモノニシテ、正犯ヲ以テ論ズトシ、(二)博奕ノ所爲ハ現行ナルコトヲ要ストスルモ、其賭スル所ノ財物ハ現ニ授受スルヲ必要トセズ、苟クモ財物授受ノ目的ニ出ヅンカ、此罪ノ成立ヲ見ルベシ、(三)富籤トハ財産ヲ醜集シタル上、抽籤ノ方法ニ因リ當籤者ニ利益ヲ與フベキ行爲ヲ謂フ、彼ノ表面上相互ノ利益ヲ圖ル爲メ、設ケタル講習ノ如ク假裝シ、其實抽籤ノ方法ヲ以テ當籤者ニ僥倖ヲ得セシメタル所爲ハ、即チ富籤興業ノ罪ヲ構成スベシ。

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

(解)本條ハ神佛堂墓所其他ノ禮拜所ニ向ツテ、不敬ヲ爲シタル者及ビ説教禮拜妨害ノ所爲ヲ罰スル法文ニシテ、別ニ論議スベキモノナシ。

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スルノ罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ゲサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

(解)二百六十四條ニハ埋葬ス可キ死屍トアリ、天下埋葬セザル死屍アラン、之レ次條ノ埋葬後ノ死屍ニ對スル語ナラン、然リ本罪ノ既遂タルニハ、棺槨又ハ死屍ヲ現ハスト否トニ因ツテ區別セラル、墓碑ヲ毀損シ又僅カニ一二尺ノ土地ヲ發掘シ

タルノミニテハ之ヲ既遂トスル能ハズ、必テ棺槨又ハ死屍ヲ現ハシタル事實ナカルベカラズ、元來本罪ハ社會ノ信仰ヲ害スルガ爲メニシテ、彼ノ學理研究トシテ死體ヲ解剖シ墓地ヲ發掘スルガ如キハ、毫モ死體ヲ辱メ、之ニ對スル畏敬心ヲ害スルナキヲ以テ、本罪ヲ構成セザル所以タリ、偶々學者アリ、此犯罪ニハ特ニ惡意アルヲ要セズ、單ニ死屍ヲ暴露スルノ故意アルヲ以テ足レリトシ、唯々權利ナクシテ行フタルモノヲ處罰スベキモノナリト論ゼリ、著者モ聊カ首肯スルモノナリ。

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人信用ニ欲ク可カラザル食用物ノ買買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ其雇主ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十二條 虛偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人需用物品ノ價值ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(解) 偽計トハ詐欺的手段ヲ云ヒ、威力トハ威迫強迫ヲ意味ス、一ハ賣買ヲ妨害シ二ハ糶賣又ハ入札ヲ妨害シ、一ハ農工業ヲ妨害シ、他ハ雇人及ヒ雇主ガ自己ノ利益ヲ計ラン爲メ、爲ス所ノ犯罪ヲ示セリ、而シテ第二百七十二條ノ虛偽トハ眞實ニ反スル事柄ニ外ナラズ、尙ホ本章ニハ見ルベキ判例ナケレバ、茲ニ掲載セズ

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

官吏トハ直接間接ヲ問ハス、又有説無給ヲ論セバ、總テ行政上命令ニ依リ、日本帝國ノ國務ニ從事スル吏員ヲ云フ、府縣町村ノ吏員ハ自治體ノ公務ヲ執ルモ、國家ノ事務ヲ行フニアラザレバ、官吏ニハアラザルベシ、又帝國議會ノ議員、兵士ノ如キハ國家ノ公務ヲ執行スルモノナルモ、選舉ニヨリ又ハ法律上ノ義務トシテ職ニ在ル者ナレバ官吏ニアラズ、然レトモ特別法ニ依リ官吏ト公吏トヲ同視シ、刑法中官吏アル時ハ、并テ公吏ニモ通用スベキモノト規定セルハ、理論ノ當ヲ得タルモノニアラズ。

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セズ又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス、

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾ニ他兵權ヲ以テ鎮撫スベキ時ニ當リ其處分ヲ爲サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(解)官吏ハ商業ヲ爲サント欲セバ、必ズ服役規律ニ從ヒ官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス、若シ夫レ猥リニ之ヲ爲ストセバ、充分ニ其職ヲ全ウシ、官吏タルノ威嚴ヲ保持スルコト能ハザルニ至ル、之レ二百七十五條ノ法條アル所以ナリ、他ハ法文明日証明スルニ及バス。

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條 官中擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキコトヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二日以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下罰金ヲ附加ス

第二百七十七條 人ノ自體財產ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審刑事檢察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セズシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正二人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セスシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護囚者人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

第二百八十二條 裁判官檢察事及ヒ警察官被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セザル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

(解)二百七十六條ハ威權濫用ノ罪ニシテ、威權ヲ用ユトハ、法律上ノ規定ニ反シテ其職權ヲ濫用シ、又ハ職權ヲ濫用セント脅迫スルノ意ナリ、二百七十七條ハ被害者ノ保護ヲ怠ル罪ヲ規定セリ、是等ノ官吏ハ現行犯罪ノ通知ヲ得テ、犯人ノ檢査其他證據ノ取調等ヲ爲スノ職務アルハ、當然ノ職分ナリト雖モ、更ラニ本條ハ官吏ニ負ハシムルニ、被害者ノ保護ヲ以テセリ、二百七十八條ハ官吏人ヲ監禁スルノ罪ニシテ、二百八十三條ハ受理審理ヲ拒ムノ罪ナリ、民刑ノ訴ヲ受理審理スベキ任アル官吏、權利ナクシテ其訴ヲ受理セス、又ハ遷延シテ審理セザルハ、不法ノ甚ダシキモノト云フベシ、其他ハ讀ンデ字ノ如クナレバ敢テ説明セズ。

第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十六條 裁判官檢察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ附加ス

其被告人ヲ妨害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反座ス

第二百八十七條

裁判官檢察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾ツミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同ジ

第二百八十八條

前數條ニ記載シタル賄賂既ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費消シタル者ハ其價ヲ追徴ス

(解) 賄賂收受ノ罪トハ、官吏ニシテ其職務ヲ執行スルノ報酬又ハ原因トシテ、適法ノ報償ノ外他ニ或ル満足ヲ受ケ、若クハ受ケンコトヲ承諾スルノ罪ヲ云フ、故ニ此定義ヨリ分解センカ、此罪ハ官吏ニアラザレバ構セズ、我刑法ガ賄賂ハ受ク

ル官吏ノミヲ罰シ、授クル一方ヲ罰セザルハ他ナシ、若シ授受者ヲ併セ罰ストセバ、犯罪ノ發見極メテ至難ナレバナリ、即チ政略上ニ出テタル結果ニ外ナラズト知ルベシ、満足トハ必ラズシモ金錢若クハ財産上ノ利益ヲ得ルノミニ限ラズ、鄭重ノ響應ヲ爲シ又ハ、男女ノ情台ヲ約シ、犯人ノ親族ヲ以テ官吏他ノ職ニ採用スルカ如キ皆然リ、刑法ニハ賄賂ヲ收受シタルヲ以テ、收受シ得ベキ物ニアラザレバ罪ヲ構成セズトノ議論ナキニアラズ、然レドモ刑法草案ニハ、金錢有價物其他ノアル利益ヲ提供又ハ申込ヲ聽許シタルモノ云々ノ文字アレバ、現行法モ亦之ヲ襲用シタルモノト見テ可ナリ、況ンヤ法文中聽許ノ二字ヲ用キタルニ於テヲヤ而シテ此犯罪ノ所爲タル、單ニ満足ヲ受ケ又ハ受クルノ承諾ヲ爲ス所爲ヲ以テ此罪ヲ構成スルニ充分トシ、敢テ官吏カ此満足ノ報トシテ、現ニアル不法ノ處分ヲ爲スコトヲ要セズ、然リ此犯罪ノ成立ニハ、即チ他人ガ賄賂ヲ贈ル所ノ者ノ希望スル處分ヲ決定セストノ意ヲ以テ賄賂ヲ收受スルヲ要セズト雖モ、贈與者ガ何ニカ爲ニスル所ノ意思アルヲ知リツ、收受スルコトヲ要ス。

賄賂罪ハ其主體即チ官吏ノ種類ニ依リテ罪刑ヲ異ニス、但シ何レノ場合ニモ既ニ收受シタル賄賂ハ、之ヲ沒收シ費用シタルモノハ其價ヲ追徴ヲ追徴スルコトハ、

二百八十八條ノ明示セル所ナルモ、追徴ハ素リ刑罰ニアラズ單ニ沒收ノ刑ヲ執行スル一種方法ナリ、故ニ他人裁判言渡後死亡セシカ、之ヲ追徴スルコトヲ得ズ、然ラズンバ犯罪者外ノ者ニ刑罰ヲ執行スルモノタルニ至ルベシ、殊ニ此法文ハ沒收シ得ベキ物ノミノ規定ニシテ、沒收スヘキ物品ナキ時ハ、收賄罪ニアラスト論結スルコト能ハス、其他ハ各法條ヲ一讀シテ忽チ了解セン。

第二節 官吏財産ニ對スル罪

第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ窃取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ別ニ照シテ處斷ス

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ全穀ヲ徵收シタル者ハ二

月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

(解)二百八十九條ハ監守監ヲ規定シ、二百九十條ハ不法ノ徵收ヲ處罰スル法條ナリ

官吏ガ擅ニ監守スル物件ヲ他人ノ占有ニ歸セシメタルトキハ、自ラ窃取セズト雖

モ、此犯罪ヲ成立スルモノトス、又正數外ノ全穀徵收トハ、全ク法律規則ノ命セザルモノヲ徵收シタル場合、及ビ命シタルヨリ多數徵收シタル場合ト、一旦徵收シタルモノヲ再ビ徵收シタル場合ヲ包含ス。

第三編 身体財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身体ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

本節以下凡テ人命犯、又ハ創傷行為ヲ規定セリ、而シテ殺人行爲ニ一般必要ナル罪ヲ擧グレバ三トナル、(一)目的體ハ法律上ノ人タル事、人ニ關シテハ死テフ終期ニ就テハ學說全然相一致スレトモ、始期ニ付テハ大要三箇ノ學說アリ、(イ)分娩作用ノ開始ヨリトナスモノ、(ロ)肉體ノ一部分ヲ母ノ體外ニ出シタル時、(ハ)自己ノ肺ヲ以テ母體ヨリ獨立シテ呼吸作用ヲ爲シ得ル状態ニ至リタル時、トノ說アリ通常トシテハ、(三)說行ハル著者モ亦之ニ從フ、(二)殺人行爲ナカル可カラズ而シテ行為ハ分チテ二トナス、甲ヲ積極的の行為ト云ヒ、乙ヲ稍極的の行為ト云フ、又單ニ前者ヲ作爲ト云ヒ、後者ヲ不作爲ト云フ、皆同意義ナリ、然レトモ之カ詳細ハ總則中ニ論ジ置キタレバ、就テ一讀セラルベシ、(三)殺人ノ意思ナカル可カラズ、此ノ意思ハ通俗ニ犯意ト云ヒ、犯罪成立ノ要件タルト共ニ、歸責ノ原因タ

ルモノナリ、而シテ犯意ニ二アリ、一ヲ故意ト云ヒ、決意ヲ伴フ認識ヲ指シ一ヲ豫謀ト云ヒ、一ノ觀念カ數多ノ觀念ト相競合シ、或一ノ觀念ガ他ヲ排除シテ、犯罪ノ決意ヲナスヲ指示ス、本前ハ即チ此ノ故意又ハ豫謀ヲ以テ人命犯ヲ犯シタル場合ヲ規定セリ。

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス

第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論ジ死刑ニ處ス

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

(解)故殺ノ場合、謀殺ノ場合ハ前説明ニ因リテ明了ナレバ茲ニ省略ス、只少シク説明ヲ要スルハ毒殺ノ場合ノミトス、抑モ毒トハ比較的僅少ノ分量ヲ用ユルモ人命ヲ絶チ身体ヲ害スルノ能力アルモノヲ云フ、而シテ只單ニ毒トアルノミナルガ故ニ液体タルト固体タルト氣体タルトヲ不問、又鑛物タルト、植物タルト、動物タルト、ヲ擇バズ、又施用トハ人ノ肉體組織内ニ浸入セシムルノ状態ニ於テ使用スルノ謂ナルガ故ニ、其方法ハ注射ニ依ルト、呼吸又ハ消化機ニ依ルト、其他所有手段ニ依ルトヲ不問、苟モ生命ヲ絶ツベキ状態ニ使用スレバ可ナリ、而シテ常ニ此ノ場合ハ謀殺ヲ以テ論ズトノ立法ノ主趣ハ蓋シ、其手段陰險ニシテ之ヲ避クル

ニ困難ナルノミナラズ、實害ヲ生ジ易キ最モ恐ルベキ、手段ナルガ故ニ、如此重刑ニ處スルモノトス、茲ニ注意スベキハ、本條ハ故殺ノ場合ヲ規定シタル者ニシテ、謀殺ノ場合ハ當然前條ニ入ル、又毒物ヲ施用スルノ意思(犯意ヲ指ス)ヲ要スルハ勿論ナリ。

第二百九十五條

支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

(解)支解折割トハ慘刻ノ手段ヲ例示シタルニ過ギズ、而シテ支解トハ四肢ヲ折リ又ハ碎ク等ノ行爲ヲ云ヒ、折割トハ身体ヲ裂ク等ノ行爲ヲ云フ、然レドモ此等ノ行爲タル固ヨリ、殺人行爲ヲナス爲メノ手段方法トシタル場合ノミ此ノ條項ニ因ル若シ死後此等ノ行爲アルモ、本條ニ適合セス。

第二百九十六條

重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カレル爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

(解)本條二箇ノ場合ヲ包含ス、(一)重罪輕犯ヲ爲スニ便利ナル爲メ云々ト、(二)己ニ犯シテ、其罪ヲ免カレル爲メ云々ト之レナリ、而シテ何レノ場合タルヲ問ハズ俱ニ殺人行爲ノ動機ナリ、遠因ナリ、蓋シ其ノ遠因タル情實惡ムベキアルヲ以テ特ニ、加重ノ原因トシタルナリ、或學者ハ(一)ノ場合ニ於テハ重罪ノ着手ニ

行ハル、ト、手段トシテ行ハル、ト、豫備ノ手段トシテ行ハル、ト、ハ本條ニ該當スルニ差支ナシト、然レトモ著者ハ之ニ反對ノ説ヲ述ベサル可カラズ、何トナレバ法文ニ「犯スニ」トアルハ犯罪實行ノ際即チ現實ヲ指示スレバナリ、若シ否ラズシテ前説ヲ真ナリトセバ、甚シキ不當理ノ結果ヲ生ズルニ至ラン、例ヘバ或家ニ竊盜ニ入ラントシ其便利ナリトシテ、一ヶ月又ハソレ以上前ニ番人ヲ殺シタルモノト假定セシカ、其間ニ如何ナル障害ノ生ジテ便宜ヲ失スルヤモ計ラレザルベク、又事實ニ於テ他ニ番人ヲ命ズ可シ、而シ尙本條ニ該當スルモノナリト論ズルハ徒ニ本條ノ範圍ヲ廣メ、可成犯人ノ利益ヲ保護セントスル、輕罪主義ニ反スル不都合ノ説ト云ハサル可カラズ、(二)ハ犯罪ノ發覺ヲ免レン爲メ、又ハ犯罪場所ヨリ逃亡センガ爲メ、ノ動機ニ因ル殺人行爲ニシテ已ニト法條ニアル故、現實以前ヲ指ス事明カナリ、更ニ明瞭ニ言ハ、前述ノ遠因ニヨリテ殺傷行爲ヲナス以前全體ヲ指スト解スルヲ適切ナリトス、如上二箇ノ刑罰加重ノ原因ハ、一種ノ動機ニシテ犯人ノ心裡中ニ存ズル現象ナルガ故ニ、主觀的ニ存在スレバ可ナリ、而モ客觀的ニ其狀態ノ存在ヲ必要トセズトノ論者アレトモ、著者ハ此ノ場合ニモ、嚴罰主義ヲ排スルノ立法ノ精神ナルヲ信ズルガ爲メ、主觀的ニ之ノ動機ノ存在スル

ト同時ニ客觀的ノ状態ヲ具足スルヲ必要ナリト信ス、之レ極刑ニ處スル者ナル故
慎重以テ審理セザル可カラズトス、

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陥レ死ニ致シタル者ハ故殺
ヲ以テ論ジ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

(解)本條ハ學者ノ所謂誘導殺人ト命名スルモノニテ、豫謀ニ出テタル時ハ謀殺ヲ以
テ論ジ、否ラザル場合ニ就テハ故殺ヲ以テ論ス、而シテ本場合ノ殺人手段タル、
虚偽ヲ表示シ或ハ誘引シテ、危害ニ陥レ以テ死ニ致シタル場合ヲ指ス、故ニ死タ
ル結果ヲ生ジタルハ外圍ノ状態ニ依ルモノナリト雖モ、此ノ結果ト詐稱誘導行爲
トハ、間接ノ因果關係存在スルガ故ニ、本人ニ歸責ノ理由生ズルナリ。

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍チ謀殺故殺ヲ以テ論ス

(解)「誤テ」トノ文字錯誤ヲ意味シ、錯誤ハ之ヲ二箇ニ分別シ、一ヲ目的物上ニ對ス
ル錯誤、一ヲ手段ノ上ニ存スル錯誤、之ナリ而シテ本問ハ謀殺又ハ故殺ヲ行ハン
トスルニ際シ前述二箇ノ錯誤ニ基キ、他人ヲ殺シタル場合ヲ規定シタルモノナリ
(一)ノ場合ニ於テ或學者ハ曰ク、夫レ犯罪ヲ成立セシメントスルニハ、決意ヲ伴
フ認識シタル結果ヲ發生シタル場合ニシテ、犯意ト結果トハ互ニ相一致セザル可

カラズ然ルニ甲ヲ謀殺セんとシテ、他人ヲ謀殺シタル時ハ犯意ト結果トノ一
致ヲ欠ク、何トナレバ行爲者若シ現實ノ結果タル事實ヲ豫見シタルナラバ、決シ
テ其原因タル殺人行爲ヲ爲サリシ事ノ關係ヲ有スル場合ニ於テ、常ニ一致ヲ欠
クモノトシテ、謀殺故殺ノ既遂犯ヲ以テ論スル事ヲ得ズ、ト然レトモ法律上二者相
一致スト謂フハ、甲タルト乙タルトニ關セズ、苟モ人ナレバ法律上ノ要素ニ欠ク
ル所ナシ、即チ犯人ノ豫見タル結果ト、法律ニ於テ必要トナス所ノ結果ト、相一
致スル者ナルガ故ニ、目的物ノ錯誤タルハ勿論ナレトモ、謀殺故殺ニ於テ其要素ニ
毫末ノ欠クル所ナシ、蓋シカ、ル場合ニ於テハ其ノ故意ヲ沮却スル理由トナラザ
ルナリ(二)ノ場合ニ於テ認識タル事實ノ結果ニ錯誤アリタルニ非ラズシテ、假ヘ
バ甲ニ向テ發砲シタルニ彈丸誤テ乙ヲ斃シタルガ如キ、手段ニ錯誤ヲ生ジタル時
ハ如何、之レ又犯意ト結果トニ於テ具体的ニ齟齬シタリト雖モ、抽象的ニ觀察スル
時ハ、毫末モ其間犯罪要素ニ欠缺ヲ生ジタルニアラズ、從テ犯意ヲ沮却スルモノ
ナラザレバ、歸責ヲ免レザルハ當然トス、以上説明シタルガ如ク、本條ニ所謂誤
テナル語ハ、目的、手段ノ上ニ錯誤アリタル場合ヲ含ムト論決セザル可カラズ、
明治三十六年(九)第一二七號同年六月二十六日ノ大審院判決モ、亦此ノ兩場合ヲ

含ムモノトセリ。

第二節 毆打創傷ノ罪

著者ハ本節ヲ説明スルニ際シ、先ツ抽象的ニ二箇ノ共通セル要素ヲ説明シテ後、各本條ノ註解ヲナス可シ、而シテ共通ナル要素トハ毆打行爲並ニ犯意之レナリ、一、毆打行爲、トハ或力ヲ以テ肉體ニ接觸スルモノヲ云フ、ト定義セバ大差ナカランカ、或力ヲ以テ接觸スルトハ、一見固形體等凡テ有形的ニ肉體ニ、打撃ヲ與フル場合ノミニ限ラル、如ク者ヘラルレトモ、決シテ然ラズ、切開、切斷、摩擦或ハ押倒等モ亦毆打タルヲ失ハズ、加之ナラズ他ノ動物又ハ或力ヲ籍リテ間接ニ毆打行爲ヲナスモ、此ノ中ニ入ル、次ニ頭髮又ハ爪ヲ切ルニ毆打ナルヤ否ヤニ付テ、世人往々疑問ヲ生スル者アレトモ、人体ヲ形成組織セル一部ナルガ故、毆打タル事勿論ナリ、而シテ創傷ノ表見的ナルト、不表見的タルトヲ不問、苟モ生活機能ニ損スルノ行爲ハ、全然創傷ト云ヒ得ベク、又創傷毫モ存セザル場合ナリトモ毆打タルニ差支ナシ、又肉體トハ生存セル吾人々類ノ身體ヲ云フ、故ニ他ノ動物ヲ毆打スルモ本節ノ犯行爲トナラズ、死屍ヲ鞭ツモ亦包含セザルナリ、終リ

ニ注意スベキト、身體ヲ廣義ニ解セバ名譽節操ノ如キヲモ含ムトスルヲ當然トスレドモ、本節ニ於ケル身體ハ有形的形体ノミヲ指示ス、
 二、犯意、凡犯意ノ體容ニヨリテ意ハ分別スル時ハ、故意ト過失トノ二トナル然レトモ故意ト其形體ヲ同フスルモ、犯罪決意ニ觀念ノ競合アルト否トニヨリテ通常ノ故意ト豫謀トノ二トナス、而シテ故意ハ犯罪事實ノ認識アルヲ以テ要素トナシ、過失ハ事實タル結果ヲ認識シ得ラルヘキ状態ヲ有スルニ拘ハラズ、認識セザルヲ云フ、然ルニ本節毆打ノ場合ニ於テハ以上ノ場合ト一種特異ナル點有テ存ス例ヘバ單ニ人ヲ毆打スルノ意思ヲ以テ毆打シタルニ豈圖ランヤ、毆打ニ因テ創傷ヲ生シタル如キ場合ニ、仍ホ毆打創傷ノ刑ヲ科スト規定セリ、之ノ場合ニ於テ、毆打ニ就テハ純然タル故意ヲ存スレドモ、創傷ニ就テハ些ノ觀念ヲモ有セザルニ尙其ノ結果ニ對シテ、歸責セラル、ハ如何、過失ニ因ルトシテ科罰セラル、ニアラズ、故意ニ因ルニアラズ、學者ハ之ヲ稱シテ結以テ犯ト命名セリ、之レ認識ス外ノ加重事實ノ發生ニヨリ、其結果ニ對スル責任ヲ負ハシメラル可ケレバナリ、即チ毆打ニ對スル意思換言セバ犯意ハ、結果ノ全部ノ認識ヘルト、或一部分ノ結果ヲ認識スルトニ因テ毆打タル犯罪ニ影響スルモノニ非ラズト知ル可シ、

茲ニ疑問ノ生スル一問題アリ、即チ被害者ノ承諾ニ基ク毆打創傷之レナリ、此ノ場合ニ於テ、著者ハ通常一般ノ學說ヲ取テ、積極說ヲ出張セントス、其ノ理由ニ曰ク、個人ハ法規ニヨリテ其生命身體ヲ保護セラル、モノナレトモ、カノ物權ノ如ク、保護セラル、範圍ニ於テ自由ナル處分權ヲ有スルモノト速斷スル事ヲ待ス凡ソ法益ニ二理由ヲ有ス一ハ個人ノ存在トシテ必要ナルガ爲メ、法規ノ保護スル場合ト、一ハ國家自身ノ利益ノ爲メニ之ヲ保護スル場合トノ二アリ、前者ハ自由ニ處分スル事ヲ許シ、後者ハ國家共同ノ秩序、善良ナル風俗ヲ維持スルガ爲メ、必要的ニ其處分ヲ認メサルモノアリ、而モ人ハ國家組織ノ大本ニシテ、又國家助長ノ原動力タルモノナル故、私人ノ利益ノ爲メノミナラズ、國家共同ノ利益ノ爲メニ之ヲ保護スルモノト云ハザル可カラズ、爲メニ假令一私人ノ承諾アルモ他ノ身體ヲ毀損スルハ、承諾其レ自身ヲ認メザルヲ以テ初ヨリ承諾ナキモノト同シク、此ノ結果トシテ毀損行爲ヲ違法トシテ處分スルモノナリ、然レトモ相撲擊劍柔道等總テ身體發育ノ爲メ權利行爲トシテ、認ラレタルモノハ處罰セラレザル事ハ勿論ナリ。

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタルハ重懲役ニ處ス

(解)本法ハ毆打ニ因テ他人ヲ創傷シ、爲メニ死ニ致シタル者ノ處分規定ナリ、本文「因テ」ナル文字ハ原因トナリテノ意味ナリ、創傷原因トナリ内部又ハ外部ノ他ノ原因ノ之ニ加ハリテ、遂ニ死タル結果ヲ隱起シタル全體ヲ包含ス、而シテ本條ノ犯意ハ死テフ結果ヲ隨伴スル事ノ認識ヲ欠ク、若シ然ラズトセバ純然タル故殺罪成立スベケレバナリ。

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス、其一日ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘廢シ癱疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス。

(解)「瞎シ」トハ色識スベキ視覺作用ヲ永久ニ不能ナラシムレバ足レリ。「聾シ」トハ音響ヲ聽クベキ聽神經ノ作用ヲ永久ニ失ハシムル事ヲ意味シ、「肢ヲ折リ」トハ手足ノ作用ヲ絶對永久ニ失ハシムル事ヲ云ヒ、「舌ヲ斷テ」トハ舌神經ノ作用ヲ又失ハシムル事、「陰陽ヲ毀壞シ」トハ生殖作用ヲ不能ニ屬セシムル事、並ニ其他知覺神經ヲ喪セシメ白痴、癲癩ニ至ラシムル事ヲ云フ、以上總テ其用法ニ堪フベキ力ヲ絶體永久ニ不能ナラシムル事ヲ指示シ、敢テ有形的ノ損傷亡失ノミヲ意味スル

ニ非ラズ、次ニ「篤疾」トハ如上説述シタルガ如ク、有形又ハ無形のニ毀廢損傷ノ行爲ノ總テヲ包含スルシ語ナリ。

第二項ニ「身體ヲ殘廢シ」トアリ、殘廢トハ身體ノ完全ナル機能ノ一部、(例ヘバ兩目ノ中一目ニ耳ノ内一耳ト云フ如ク)ノ作用ヲ永久ニ絶對不能ナラシムル行爲ノ全體ヲ指示シ、其有形のタルト無形のタルトハ亦置テ問ハザルアリ、「癱疾ニ致シタル者」トハ、前説明ノ篤疾以外ノ全體ヲ包含スル者ニシテ「著大ナル又ハ恢復見込ナキ」不具疾病等其他之ニ類似ノ一切ヲ包含指示ス。

學者ニ依リテハ、第二項列示ノ事項ト、第一項ノ場合トニ輕重ヲ立テ之ヲ區別ノシ、科罰ノ程度ヲモ異ニスト雖モ、其當ヲ得タルモノト云フヲ以ズ、例ヘバ一目ヲ既ニ失ヒタル者、更ニ一目ヲ瞎スル時ハ兩目ヲ瞎スルト何ソ擇バン、ト此説甚ダ好シ、然レトモ片替ノ者ナルモ、實際上一眼ヲ瞎スルニ尙ホ二眼ヲ瞎シタル場合ハ同等ナリスレバ、一眼ニ就テ瞎スル行爲ノ重複ヲ來タシ、爲メニ瞎ナル文字ノ意義ヲ明カニスル事ヲ得ザルニ至ラン、何トナレバ他ノ犯人ハ既ニ一目ヲ瞎シテ處罰セラレ、後又一眼ヲ瞎スル者ナレバ二眼ヲ瞎スル者ト同一トセバ、前瞎セラレタル眼ニ付テハ二重トナリ、瞎スルノ意義則チ無識別力ヲ絶體永久ニ不能ノ

状態ニクテフ、解釋ニ背戻スルニ至ル可ケレバナリ、故ニ本項ト前項ト別異ニ處斷スルハ、敢テ其當ヲ失スル者ニアラス、況ンヤ兩目完全ナル者ノ一目ヲ瞎スル場合ニ於テヤ。

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲシタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

(解)本條第一項ニハ「疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメ」云々トアリ、第二項第三項ニハ單ニ「疾病休業」云々トアリテ、多少奇異ノ感無キニ非ラズ其理由蓋シ同一ニシテ第一項ハ即チ休業ノ内容ノミヲ明示シタルニ過ギズ、次キニ疾病休業云々トアルハ一個ノ熟語ニシテ、吾人日常生活ノ働作ヲナシ、能ハザルニ至ラシメタルノ義ニシテ、休業ノ内容タル一部ヲ明示セシガ爲メニ外ナラズト然レトモ著者ハ之ニ贊セザル理アリ、即チ前述シタルガ如ク職業ヲ營ム事ノ不能ハ、休業ノ内容ノ意義ニ外ナラズト解サ、ル可カラザルガ故、第一項ト第二項

トハ全然同意義ニシテ、只單ニ之ガ期間ノ長短ニヨリテ科罰ノ輕重ヲ定ムルガ爲
如此條項ヲ異ニシタルニ過キズ、果シテ然ラバ第一項ニハ「又ハ」ナル連續詞アリ
テ、疾病否ラザレバ休業ト解セザルヲ得サルガ故ニ、疾病休業ハ一ノ熟語ニモア
ラズ、又休業ノ内容ニモアラズ、ト知ルヲ得ベシ、何トナレバ「又ハ」ナル文字ハ別
箇ノモノニシテ、類似セル者ヲ連續セシムル文章上ノ形式ニ過ギザルモノナレバ
ナリ、然ノミナラズ疾病ト雖モ、全然日常ノ働作ヲ爲ス事ヲ得ザルモノ、ミニア
ラズ、其ノ職業ニ依リテハ敢テ休業スルノ要ヲ見ザルモノニシテ、又著者ノ反對
スル所以ナリ。

第二百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業廢疾篤又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載
シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

(解)本條ハ豫謀毆打ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ、豫謀ノ意ノ意思ニ出テタル行
爲ナラザル可カラズ、而シテ毆打ニヨリ列示ノ結果ノ發生シ場合ノ處分方法ヲ
明示セリ、此等列示ノ事項ニ關シテハ前數條中ニ說述シタル所ナルヲ以テ茲ニ省
略ス。

第二百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ

毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

(解)本條ハ加重ノ條件タル、遠因即チ動機ヲ二トナシ、一ヲ重罪ヲ犯スニ便利ナ
ル爲メトシ、一ヲ既ニ犯シタル罪ヲ免レン爲メト、ナシタリ、而シテ此等二箇ノ
意義ニ就テ、將又之ガ加重ノ理由ニ就テハ、第二百九十六條ノ說明ヲ參照セバ明
瞭ナラン。

第二百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

(解)本條ハ即チ錯誤ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ、目的物上ニ於ケル錯誤、手段
上ニ於ケル錯誤トナス事、及ビ之ガ理由ハ、第二百九十八條ニ於テ說述シタル所
ト同シ、故ニ茲ニ省略シテ之ヲ解カズ。

第二百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從
テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スニ輕重ヲ知ルコト能ハサル時ハ其重傷ノ
刑ニ照シ一等ヲ減ス但救唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

(解)本條ハ第四百四條ノ共犯ノ例外ニシテ、總則ニ於ケル該條ノ共犯ハ、發生シタル
事實即チ結果ノ全部ニ對シ、各自ニ歸責セシムルノ主趣ナレドモ、本條ハ之ト異
ナリ、現實ニ自己ノ行爲ニヨリ創傷セシメタル輕重ニ從テ、其責任ヲ分任ストナ

セリ、之レ蓋シ犯意ト行爲ト就テハ共犯ノ關係ヲ生ズレトモ、犯罪ハ實ナル結ニ對シテハ、自己ノ認識セル事實以上ノ結果ヲ生ズルモ、尙ホ歸責セシムルハ學者ノ所謂結果犯ト命名シタル毆打犯ノ性質ヨリ、生ズル所ノ結論ナリ、如此ノ單獨犯ト同等ニ結果ト責任トヲ各自ニ區分スルガ爲メ、事實上第三百條第一項ニ該當セル場合ヲ生ズル事アルモ、亦本條ニ依ラザル可カラザルカ爲メ、甚ダシキ科罰上ノ不權衡ヲ生ズト言ハサル可カラズ、而シテ共ニ毆打行爲ヲナシ、創傷ノ程度分明セザル時ハ、其結果ノ最モ重キモノヨリ一等ヲ減ジテ科罰ス、然レトモ教唆者ハ減等ノ恩典ニ浴スルヲ得ザルナリ。

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス、

(解) 本條ハ前條ト同ジク總則ノ例外ニシテ從犯ノ場合ヲ規定シタルガ如ク、法文ノ上ヨリ見ユルモ決シテ然ラズ、何トナレバ從犯ノ場合ニ於テハ、主タル刑罰ヨリ一等ヲ減刑セラル、事、總則ニ於テ諸君モ既ニ分明ナラン、而モ特ニ茲ニ規定スルノ必要ヲ認メザル可シ、果シテ然ラバ本條ニ於ケル幫助行爲ハ、從犯トシテ認ムベキモノニ非ラズシテ、共ニ正犯タル事疑ナシ、然レトモ自己ノ實行行爲ニ對

シテハ直接ニ何等ノ創傷アラズシテ、只單ニ他人ノ實行ニ加工シ、其ノ犯罪ヲ容易ナラシメタルニ過ギザル者ナレバ、之ニ對シ發生シタル結果ノ全責任ヲ負ハシムルハ、前條ト對比上穩當ヲ失ストナシ、特ニ本條ヲ規定シタル所以ナリ、例ヘバ腕ヲ押ヘテ抵抗力ヲ殺ギ、犯人ヲシテ容易ニ毆打セシメタル場合ノ如シ。

第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

(解) 本條ニ所謂「健康ヲ害ス可キ物品」トハ、毒物ハ勿論ルテ人體ノ生活機能ヲ毀損スベキ特性ヲ供ヘタル物ヲ指示ス、故ニ之ノ特性ヲ有セズシテ、只多量ニ服用スルニ依テ人體ニ害アルモノハ之ニ入ラズ、飯ヘバ酒ノ如キ其他飲食物等皆此中ニ包含セラル、而シテ之ガ施用文法ニ就テモ法條別ニ規定スル所ナキガ故ニ、身體ニ對シ外部ヨリ浴ヒ掛クルガ如キモ、亦施用ヲ爲シタルモノト云フヲベシ、尙ホ施用ノ事ニ關ンテハ第二百九十三條ヲ參照ス可シ。

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非ラスト雖トモ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

(解) 殺人犯意アル時ハ、第二百九十七條ノ適用ヲ受クルハ當然ナルガ故、本條ハ即

チ殺意ナキ場合ノミヲ規定シタルナリ、然レトモ之ニ對シ何等ノ意思ナキ者ト云フヲ得ザルハ、明カナル事ニシテ、此場合ニハ危害ニ陷レルトノ觀念アルヲ要ス尙ホ詳細ヲ知ラント欲セバ第二百九十七條ノ說明ヲ參照セラル可シ。

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

本節ノ者恕並ニ不論罪ノ事ニ就テハ、第一編第四章第一節ノ說明ニ際シ詳細ヲ論ジルヲ以テ茲ニ贅セズ、就テ參照セラル可シ。

第二百九條

自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ困テ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス。

(解)本條ハ學者ノ所謂挑發宥恕ト稱スベキモノニシテ、挑發トハ他人ノ精神ニ激動ヲ感ゼシメ、爲メニ怒憤ハ情ヲ起サシメ犯罪行爲ヲ犯サシメ、タル場合ヲ云フ、而シテ本條ハ挑發ヲ要スル外、尙ホ四箇ノ條件ヲ要スル旨ヲ起定セリ。(一)自己ノ身體ニ暴行ヲ受クル事、ヲ要ス、而シテ身體トハ暴行トノ對照上有形的肉體ヲ意味スルヲ明カナリ、故ニ肉體以外ノ財物或ハ自己以外ノ人ニ對スルモノナル時ハ本條ニ入ラズ、又暴行トハ凡テ物質的ノ力ヲ以テ不法ニ迫害スルヲ云フ、故ニ置

嘗譏謗又ハ強迫ノ如キハ此ノ中ニ入ラズ、(二)直チニ怒ヲ發シタル事ヲ要ス、直チニトハ挑發行爲ト相牽連スル短時間ヲ意味ス、而シテ何分何時間位ガ短時間ト云ヒ得ルカハ、各場合ニ於テ常識ノ判斷ヲ要ス、或ル學者ハ此直チニナル語ハ豫謀ナキヲ意味スト云ヒドモ、豫謀アル時ト雖モ、前說明ノ「直チニ」トニ該當スル者ナラシニハ、亦此ニ包含セシムル事ヲ得ベシ、(三)暴行人ヲ殺傷スル事、ヲ要スルガ故ニ、其レ内外ノ人又ハ物ニ對シテナシタル行動ハ本條ノ場合ニ相當セズ又殺傷トハ學者ノ云フガ如ク、勿論解釋法ニ從ヒ、殺傷スラ尙ホ且ツ然リ、況ンヤ殺傷セズトシテ單ニ、逮捕監禁又ハ單純ナル歐打ノ如キハ勿論此ノ中ニ含ムト解スルヲ穩當トス、(四)自己ノ不正ノ所爲ニ因リテ暴行ヲ招キタル者ニアラザル事、ヲ要ス、而シテ違法行爲タルヤ故意ニ出テタルト、否ザルトヲ問ハサルナリ如上四箇ノ要件ヲ具備スルモノナル時ハ、皆此ノ中ニ入ル。

第二百十條

本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

(解)本條モ前條ト同シク挑發行爲ニ依ル場合ニシテ、而モ前條ハ挑發ノ原因一定セザルニ反シ、本條ハ挑發ノ原因姦通テフ一事由ニ起因ス、而シテ本條モ亦五箇ノ

要件ヲ具有スル事ニ要ス。(一)本夫其妻ヲ殺傷スル事故ニ本夫以外ノ者ノ殺傷行爲ハ本條ニ入ラズ、又妻トハ民法上ニ於ケル妻ナラザル可カラズ、(二)姦通ヲ覺知スル事、トハ姦通ノ現行又現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル事ヲ要スルノ意ナリ、(三)姦所ニ於テ殺傷スル事、殺傷ノ意ハ前々條ニ於テ説明シタルヲ參照ス可シ、而シテ姦通ニ於テトハ姦通シタル現場ニ於テ殺傷行爲ノ着手ヲ云フ、(四)直チニ姦婦又ハ姦夫ヲ殺傷シタル場合、直チニナル語義前條ニ説明セリ、次ニ姦婦トハ有夫ノ婦他ノ男ト密通セル者ヲ指稱ス、姦夫トハ有夫ノ婦ト私通スル者ヲ云フ、然レトモ有夫ノ婦タル事ヲ知ラザレバ只ニ密通スルモ姦夫ト云フ能ハズ、(五)先ニ姦通ヲ縱容セサル事、ヲ要ス、而モ特定ノ人タルト將一凡ノ人タルトヲ問ハス、之ヲ許シタル場合ニハ、特定ノ人以外ノ者ト姦通スルモ亦本罪ヲ構成セズ、以上五箇ノ要件ヲ具備スル時ハ、姦通罪ハ常ニ成立スルモノナリ。

第三百十一條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルコト能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

(解)本條ハ互ニ毆打シテ創傷ヲナシ、何レガ先ニ創傷シタルヤヲ知テザル時ニ於テ輕罪主義ニ基キテ其罪ヲ宥恕スルモノナリ、然レトモ此ノ場合ニ於テ常ニ相方等

シク宥恕セザル可カラズ、何トナレバ一方ヲ宥恕シ、一方ヲ宥恕セザル事ハ、本條規定ノ精神ニ背戾スレバナリ、或學者ハ法文ニ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得トアルガ故ニ、其之ヲ宥恕スルト否トハ、一ニ裁判官ノ自由ナル判斷ニ任カセサル可カラズト、此論誠ニヨシ然レトモ斯ノ如キハ餘リニ法文ノ字句ニ拘泥シタル議論ト云ハサル可カラズ、何トナレバ宥恕減輕ハ裁判上ノ減輕ニ屬セズ、從テ裁判官ノ自由裁量ニ任カスモノニ有ラザレバナリ、故ニ假ヘ法文ニ得トアルモ、本條ノ場合ニハ、必要的ニ宥恕減輕ヲナサル可カラザルモノト解スルヲ至當ト信ス。

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

(解)(一)故ナクトハ故意ニ管理權者ノ意思ニ背クノ意、ナリ、故ニ一旦入りタル後ニ於テ管理權者ノ意思ニ反キテ尙ホ止マルハ、侵入ト云フ事ヲ得ルヤ否ニ就テ、消極論者多數ナルガ如シ、著者ト雖モ敢テ絶體的積極論ヲ唱道スル者ハ非ラザルモ亦消極說ニ加擔スル事能ハズ、其理由トスル所ハ一旦正權限ニ依リテ入りタル後管理權者ノ意思ニ反クハ、正當ナル理由ナキ場合ニ於テノミ、若シ否ラザル場合ニ於テ退去ヲ命ズルハ管理權者ヲ不當ノ責アルガ故ニ、侵入ト見做ス事ヲ得ザル可

シ、要スルニ侵入トハ管理權者ノ不當ナル、又不法ナル拒絶ハ法律上之ヲ保護セザル者ナルガ故(不當利得ノ場合ハ例外)ニ、其意思ニ背キテ家宅ニ入ルモ、侵入ト云フ事ヲ得ズ、ト信ズ、(二)人ノ住居シタル邸宅ニ入ル事ヲ要ス、邸宅トハ人間ガ秩序アル生活ノ本據ニ供セラルベキ、建造物ノ謂ヒニシテ、之ヲ圍繞スル外圍ノ保護物以內ノ地域ヲモ包含ス、而シテ人ノ住居シタルトハ、常住ノ狀況ニ在ルヲ意味シ、間斷ナク人ノ居ルヲ意味スルニ有ラズ、故ニ偶々家人ノ本在ナル場合アルモ、尙ホ人ノ住居シタル邸宅タルヲ失ハズ、(三)門戶牆壁ヲ踰越損壞スル事ヲ要ス、而シテ門戶牆壁トハ外圍ノ保護物全体ヲ意味シ、踰越トハ保持線内ニ入ル事ヲ意味ス故ニ、牆壁ヲ跳ビ越エル事ハ勿論、潜ル事モ亦當然此ノ中ニ含まル又損壞トハ保障物ノ全部又ハ一部ノ從用ヲ失ハシムル事ヲ意味ス、故ニ之ヲ押倒シ或ハ切り破リ、又燒却等ノ凡テヲ包含スト解スルヲ至當ト信ズ。
如上説述シタル(一)乃至(三)ノ條件ヲ具備シ、晝間即チ間出ヨリ日没迄ノ間ニ、之ヲ爲ス者アル場合ニ、之ヲ拒止セシガ爲メ、「之ヲ」トハ侵入者ヲ殺傷(前説明ト同シク勿論解説法ニ從フ)シタル中ニ凡テ本條ニ據ル。

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ズ

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ己ム事ヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タズ其罪ヲ論セス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラズ

第三百十五條 左ノ諸條ニ於テ己ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス

- 一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防上スルニ出タル時
- 二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時
- 三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

(解)本條ハ正當防衛ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ、正當防衛トハ急迫不正ノ攻撃ニ對シテ己ムヲ得ス、攻撃者自身ノ法益ノ侵害スル行爲ヲ云フ、今此ヲ詳説スルニ當リ、六箇ノ要點ニ分チテ説明セン、(一)急迫不正ノ攻撃ナカル可カラズ、茲ニ急迫トハ現實ヲ意味シ、國家制度ノ威力ヲ籍リテ自己ノ法益ヲ完フスル事能ハサルヲ云フ、故ニ過去ノ行爲、又ハ將來ノ迫害行爲ニ對シテハ、正當防衛ナシ、過去ノ行爲トハ危害ノ既ニ去リタル場合ニシテ、去リテ尙ホ勢ニ乘ジ之ヲ殺傷ス

ル時ハ、第三百十六條ノ犯罪ヲ構成ス。次ニ將來ノ迫害ニ對シテハ迫害自身ヲ未
 ダ未定ナル間ニアルノナラズ、其間ニ介在スル時間ノ充分公力ヲ籍リ豫防スルニ
 餘裕アルヲ以テナリ、然ラハ現實トハ何時迄ヲ云フカ、暴行者ノ腕力ノ繼續スル
 間ハ又繼續スル虞アル場合ハ未タ迫害終了セザルガ故ニ現在ト云フヲ得、(ロ)不
 正トハ何ソヤ、違法ヲ云フ法規ノ許サ、ル行為ヲ意味ス、故ニ理由ナクシテ法益
 ヲ侵害スル行為ノ全般ヲ包含ス、學者ニ依リテハ此ノ不正ナルヤ違法ナラザルヤ
 ハ、主觀的觀察ヲ標準トナシ、責任無能力者ノ行為ニ對シテハ本條ノ防禦權ヲ有
 セズ、ナス者アルトモ、取ルニ足ラズ、此ノ不正タルヤ否ヤハ客觀的ニ定ムルヲ
 以テ至當トス、故ニ十二歳未滿者タルト、君主、大統領、外國使臣タルト、精神
 病者、瘡腫者タルトヲ問ハズ、苟モ理由ナキ迫害行為ニ對シテハ此ノ防禦權ヲ認
 ム、此ノ結果トシテ、官公吏ノ懲罰權其他職務上ノ執行權ニ對シテ逮捕監禁等ノ侵
 害ヲ蒙ムルモ、此ニ對シテ防禦權ヲ認メザルヤ明カナリ、一言ニシテ謂ハハ權利
 行為ニ防禦權ナシ、トノ意義ナリ、而シテ急迫違法攻撃ハ常ニ人間ヲ攻撃ヲ指ス
 他ノ動物ノ迫害ノ如キハ、總則ニ於テ述べタル、緊急危難行為タルモ正當防禦タ
 ル事ナシ、悉クハ總則ヲ參照熟讀セラル可シ、又攻撃タル文字其レ自身カ表彰セ

ル如ク然ラハ積極的の行為ナラザル可ラズ、消極的の行為ニ對シテハ防禦權存在セズ
 何トナレバ此ノ場合ノ侵害者ハ外ヲ指示スル故ナリ、之レ不作爲ハ外國ノ進行
 ヲ遮斷セズシテ、其儘ニ放任スルガ故ナリ、(二)自ラ不正ノ所爲ニ因リ暴行ヲ招
 キタル者ニ非ラザル事、ヲ要ス、何トナレバ正當防禦行為ニ對シテ正當行為アル
 理由ナケレバナリ、(三)防禦行為ハ已ムヲ得ザルニ出ツルコトヲ要ス、換言スレ
 バ必要ノ程度ヲ超ユ可カラズ、而シテ反撃行為必要ヲ超エタルヤ否ヤハ、各場合
 ノ攻撃ニ對比シ、裁判ノ自由決定ニ一任スル所ノ問題ナリトス、然レトモ反撃行為
 ガ凶テ生スヘキ實害ト反撃行為ニ固リテ生スヘキ實害トハ相權衡ヲ得サル可カ
 ラザルノ理ナシ、故ニ鐵拳ヲ以テ亂傷セントスル者ニ對シ、之ヲ遁レ之ヲ防ガント
 スルニ必要ナル場合ニ於テハ、殺傷スルモ正當防禦ノ範圍ヲ超脱シタル者ト云フ
 ヲ得ズ、又已ムヲ得サル事トハ、防禦スルコトガ已ヲ得ズト云フニ非ラズ、何トナ
 レバ吾人ハ違法ナル攻撃ヲ避ケ又ハ斥クル爲メニ、遁逃スベキノ義務ヲ負フモノ
 ニ非ラザレバナリ、蓋シ之ヲ得ズトハ反撃行為カ攻撃ニ對シ、其目的ヲ達スル爲メ
 ニ已ムヲ得ザル場合ヲ云フ、故ニ侵害行為ヲ避ケ又ハ除スルニ、他ニ適當ナル方法
 又ハ遁逃ノ餘地アルモ、尙ホ進ンテ防禦手段ヲ採ルモ亦正當防禦ト云フ事ヲ得、

(四)攻撃者自身ノ法益ヲ侵害スルヲ要ス、何トナレバ防衛行爲ハ攻撃行爲ニ對スル反撃ナルガ爲メナリ、故ニ攻撃者ニ非ザル第三者ニ對スル反撃ハ、危難防禦タル場合アルモ正當防衛ト云フ事ヲ得サルナリ、(五)直系尊屬ニ對スル殺傷罪ニ關シテハ本法第三百六十五條ニ規定アリ、曰ク祖父母ニ對シテハ殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不諭罪ノ例ヲ用フルコトヲ得スト、故ニ祖父母、父母ニ對シテハ正當防衛權ナキ事明カナリ、(六)本法所定ノ法益侵害アル事ヲ要ス、(イ)自己又ハ他人ノ身體生命ニ對スル暴行タル事、茲ニ所謂暴行トハ、有形ノ損害ヲ生スベキ不正ノ體力ヲ意味スルガ故ニ、之ト對照上身體生命ニ無形ナル名譽ノ如キハ包含セズ蓋シ身體トハ肉體其モノト、自由又ハ節操トヲ包含シ、生命トハ生存スル内ヲ意味ス、故ニ攻撃行爲ハ生命ヲ害シ或ハ肉體ヲ傷害シ、自由ヲ束縛シ、節操ヲ破ルガ如キ行爲全般ヲ指ホス、而シテ他人ノ爲メタルト自己ノ爲メタルトハ敢テ正當防禦タルニ妨ゲナキモノトス、(ロ)財産ニ對シテ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出テタル時、財産トハ矢張暴行トノ對照上、有形的物體ヲ指稱スル事明カナリ法文中放火其他暴行トアル放火ハ、暴行ノ例示ニ過ギズ、故ニ毀損行爲ノ如キモ亦之ニ包含ス、要スルニ財産安固ノ侵害行爲タレバ可ナリ、(ハ)盜犯ヲ防止シ、

又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時、法文ニ盜犯トハ竊盜強盜ノ之ヲ指ス事理論上明カナリ、何トナレバ盜賊ナル文字トノ對照上他犯罪ヲ包含セザル事ヲ知ル可シ、然ラバ盜賊ナル文字ノ意義ハ如何、第三百九十九條ニ強竊盜ノ賊物云々トアルニ反シ、第四百一條ニハ物件ナル文字ヲ使用セリ、此ノ理ヨリ盜賊ナル文字ヲ解セハ強竊盜ノ盜ト、賊物ノ賊トヲ含ミタル熟語ナルヲ知ルニ足ラン、之盜犯ハ強竊盜ヲ指スト云ヒシ所以ナリ、而シテ強竊盜ヲ物品ノ押領ニヨリテ既遂トナル、法文ニ所謂盜ニ盜賊ハ其レ此レノ謂ヒナリ、(二)晝間ト夜間トノ差アルノミ、他ハ第三百十一條ト同一ナル故之ヲ説明セズ、但シ夜間トハ日没ヨリ日出迄ヲ意味ス、以上説明シタル所ニ之ガ要件ノ如何ナル者カハ、諸君既ニ明瞭ナル可シ、然レトモ此等ノ要件ヲ定ムルノ標準ハ如何ニシテ之ヲ定ム、可キカ主觀的方面ト客觀的方面トヲ具備セザル可カラズトノ說アリ、或ハ客觀的ニ之ヲ完備セザル可カラズト云フ說アレトモ、著者ハ主觀的狀態ノミヲ以テ足レリトス、故ニ例ヘバ自己ヲ殺害セントスルモノト信シ之ヲ殺害シタル場合ニ、其實攻撃者ニ殺害ノ意思ナク單ニ惡戯ニ過ギザリシ場合ト雖モ、尙ホ正當防禦ト云フ事ヲ得、何トナレバ反撃者ハ常ニ其狀態ニヨリテ、攻撃アルモノト信ズルノ外アラズ、而已ナラズ攻撃者

ニ對シ汝ハ眞實ニ吾ヲ殺傷スルカト一々眞情ヲ探ルノ要アリト想像シ能ハザレバナリ。

第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムコトヲ得サルニ非ズシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラズ但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

(解)本條ハ第三百十四條及第三百十五條ノ場合ニ勢ニ乘シ、防禦權ノ範圍ヲ超脱シタル時ノ處分規定ナルガ故、前條ノ正常防衛ヲ認メタル範圍ヲ熟讀セバ本條記載ノ消極的限界ヲ明カニ知ルヲ得ベシ、只情狀酌量アルニ過ギズ。

第四節 過失殺傷ノ罪

過失トハ認識ス可カリシ結果タル事實ノ認識ヲ欠ク事、總則第七十七條ヲ説明スル際ニ詳論シタルガ如シ、故ニ茲ニ細論セズ、而モ此ノ過失タル犯罪トシテ處罪セラル、ニ、二箇ノ場合アリ、(一)人ニ對シテ殺傷行爲ヲ爲シツ、アル事ヲ知ラザル場合、(二)人ニ對シテ或行爲ヲ爲シツ、アル事ヲ知ルモ、其行爲タル殺傷ス

ベキ行爲タルヲ知ラザル場合、之レナリ、例ヘバ人ヲ鹿ナリト信ジテ發砲シタル如キ又毒藥ヲ砂糖ナリト信ジテ服用セシメタル如キ即チ是レナリ、但シ遠輕罪ノ場合ハ特別ナルガ故、茲ニ説明セズ。

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セズ過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癱篤疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(解)現刑法上ニ於テ過失ヲ三箇ニ分ツ(一)疎虞、(二)懈怠、(三)規則慣習ヲ遵守セザル時、即チ是ナリ、而シテ學者ニ依リテハ疎虞ヲ以テ認識ナキ過失トナシ、懈怠ヲ以テ認識アル過失換言セ、結果タル事實ニ就テ、未必ノ觀念ヲ有スル場合ヲ云フト解スレトモ、著者ハ此ノ如キ區別ヲナサズシテ、單ニ文理上ヨリ解説ヲ試ミントス、抑モ(一)疎虞トハ抽象的注意ノ程度ト、具體的ニ定ム可キ認識ノ能力程度トヲ標致トシテ、之カ程度ニ達セザル者ヲ指ヘ、換言平易ニ之ヲ言ハマ一般

識ノ注意ヲ欠缺スル場合ヲ云フ、(二)懈怠ハ或特定ノ地位又ハ職業ニ依リ、特ニ必要ナル注意ヲ標致トシ若シ之ヲ欠キタル時ハ、即チ懈怠ト云フ、例ヘハ鉄道機關師船長醫師ノ如キハ、通常人ノ要スル常識及持種ノ注意ヲ用要スルモノナル事ハ各人皆知レル所ナル可シ、(三)規則慣習ヲ遵守セズトハ、注意ノ度ノ如何ニ關セズ、規則慣習ニ違背スル事ニ因テ強制的ニ過失ト認ムル場合ニシテ、著者ハ此ヲ命名シテ、強制過失ト云フ可シ、以上三箇ノ過失ニ基キ人ヲ殺シタル者癡篤疾ニ致シタル者疾病休業ニ至ラシメタル者ヲ處罰スル規定ナリ、此等癡篤疾ノ何タルカ又疾病休業ノ何タルカハ、第三百條並第三百一條ノ説明ヲ參照シテ知ル可シ。

第五節 自殺ニ關スル罪

諸外國ノ古代法ハ何レモ其ノ理由ヲ異ニスルモ、自殺ヲ處罰セサルハナカリキ紀六千七百九十六年以降漸次之ヲ處罰セザルノ立法例ヲ生ジタリト雖モ、今尙ホ英米二國ノ如キハ、自殺處罰ノ規定ヲ設ケラレタリ、吾國ニ於テハ、建國以來未ダ管テ之ヲ處罰セルノ規定ヲ設ケタル事アラザリキ、蓋シ自殺ノ行爲タル自己ノ意

思基キテ自己ノ生命ヲ絶ツテ云フ、而シテカ、ル者ニ對シテハ、極刑ヲ科スルモ尙ホ刑罰制度ヲ認メタル本旨ヲ透徹セシムル事ヲ得サルノミナラズ、刑罰ノ辱ヲ蒙ル事ヲ恐ル、ノ結果ハ、反テ自殺未遂者ヲモ強制自殺ト同状態ニ陥ラシムルノ惡弊ヲ生スルカ故ナリ、只本節ニ規定スル所ノ者ハ(一)教唆、(二)下手、(三)補助是レナリ、其詳細ハ各條ノ詳解ヲ見テ知ル可シ。

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ附金ヲ附加ス
其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

(解)(一)先ツ自殺教唆ニ二箇ノ場合アリ、(イ)ハ自己ノ利ヲ圖リタル場合ト、(ロ)否ラザル凡百ノ場合之レナリ、而シテ此等教唆行爲ノ遠因ヲ理由トシテ各別ニ規定スル所以ハ、其情狀ノ輕重ニヨリ、又科罰ヲ異ニスレバナリ。

抑モ「自己ノ利ヲ圖リ」トハ如何ナル場合ヲ云フカ、利トハ財産的ナルト、精神的ナルトヲ不問、凡テ自己ノ心意ヲ満足セシムルノ行爲ト解スベシ、例ヘハ保險金ヲ受取り度キ爲メ、被保險者ヲ自殺セシメ、財産ノ欲シキガ爲メ、被相続人ニ自殺

セシメ又ハ嫉妬ノ爲メ或ハ憤慨ノ爲メ自殺ヲ進メテ、自己ノ心情ノ満足ヲ得ル場
 合ノ如シ、又爲ラザル場合ハ單純ニ自殺ヲ教唆シタル者換言セバ前述ノ遠因以外
 ノ場合凡テ包含ス、而シテ教唆ノ手段方法ニ就テハ法律上何等規定スル所ナキヲ
 以テ利ヲ以テ唆カス、贈與ノ方法ニ因ルモ、威權ノ濫用ニ依ル畏嚇ヲ用フルモ、
 事ヲ構ヘテ欺罔スルモ、情ヲ動カシ以テ自殺ノ念ヲ起サシムルモ、要ハ只自殺ス
 ルノ決意ヲ慫起セシムレバ足レリ、(二)囑託ニ依ル下手ノ場合、ニシテ、自殺ヲ
 決意シタル者ノ依頼ニ依リ、其生命ヲ絶ツベキ行爲ヲ行フ事ヲ決意シ、此ノ決意
 ニ基キ自殺者ノ表示シタル方法、日時場所ニ於テナス殺害行爲ヲ云フ、而シテ其
 ノ決意タル何レモ強制ニ依ラザル自由意思ニ基キ又明示默示ノ依頼ヲ含ム、然レ
 トモ自殺者ガ責任無能力者ナル時、又ハ他ノ強制ニ依リタルトキハ、本節ノ適用
 ヲ受ケザル事勿論ナリ、茲ニ一問アリ曰ク、自殺者ノ承諾ニ基ク下手行爲ハ本節
 規定ニ依リ所罰セラル、ヤ否ヤノ問題之ナリ、之ヲ要スルニ承諾ハ尙ホ囑託ト云
 ヒ得ルヤ否ヤト云フニ歸着ス、或學者ハ曰ク此ノ場合ノ承諾ハ承諾ノ效ナシ、何
 トナレバ生命身体ハ自由處分ノ目的物ニアラズ、加之ナラズ善良ノ風俗秩序ニ違
 反スレバナリ、且ツ承諾ハ殺人行爲ヲ堪ヘ忍ブト云フニ過ギサルガ故、純然タル

故殺罪ヲ成立スト、然レトモ著者ハ之ニ首肯スル能ハズ、夫レ承諾ハ徒ニ或論者
 ノ謂フガ如ク、堪ヘ忍ブト云フノ意義ノミニ非ラズ、暗黙ニ殺人行爲ノ依頼ヲ包容
 スルモノナリ、即依頼セヨト下手者ヨリ先ズル時依頼スベシトノ意義ヲ包容ス
 ベキ意思表示ガ之レ承諾ナルモノナリ、故ニ囑託ト云ヒ承諾ト云フハ、只依頼ヲ要
 求シテ之ヲ得ルトスルザルトノ相違ニアルノミ、之レ方面ヲ異ニシル觀察ヨリ
 如此言語ノ差異ヲ生スルノミニシテ其ノ眞意ニ至テハ敢テ異ナラズ、(二)自殺補
 助ノ場合、實行及實行ニ近接セル着手行爲ニ非ラザル行爲ヲ以テ、自殺行爲ニ加
 效スルヲ云フ、例ハハ盜首者ニ繩ヲ與フルガ如キ場合即チ之レナリ。
 終ニ臨ンテ注意ス、此等從タル行爲者ヲ處罰スルハ、總則ノ規定ニ因ラザル事是
 レナリ、何トナレバ總則ノ從タル行爲者ハ當ニ主タル行爲ノ處罰ト其連命ヲ共ニ
 スルモノナル事、該説明ニヨリテ明カナラン、然ルニ本節ノ場合ハ至主タル行爲者
 ハ何等犯罪ヲ構成スルモノニ非ラザルガ故ニ、若シ總則ノ規定ニ從フトセバ、之
 レ又無罪タラザルヲ得ズ、然ルニ事實ハ之ニ反ス、之レ本節ノ場合ハ總則ノ例外
 ニシテ、獨立ノ罪トシテ處罰スルモノナル事明カナラン。

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

職務ノ執行ニ在ラズ、權利行爲ニ有ラズ、正當ナル理由有ルニ非ラズシテ人ノ意思ニ反シテ、不法ナル行爲ヲ爲スヲ擅ニトハ云フナリ、逮捕監禁トハ其ニ居所ノ自由ヲ防止スル行爲ヲ言フ者ニシテ、學理上別ニ之ヲ分離シ説明スルノ必要ナシト雖モ、尙ホ讀者ノ爲メニ之ヲ説明セン、(一)監禁トハ閉鎖セラレル或一定ノ場所ニ閉チ込メラル、ヲ云フ、然レトモ必スシモ出入口ナキ場所ヲ指シタルニアラズ、假令數個ノ出入口有ルモ被拘禁者ノ知ラザル場合、或ハ番人ノ守備ヲ受クル場合ノ如キ、俱ニ監禁タルニ次クル所ナシ、此ニ就テ獨逸ニ面白キ實例アリ或婦女入浴セシニ、浴場ヨリ浴衣ヲ持チ去ラレタリ、外國人ハ肌ヲ見ラル、ハ大ナル耻辱トナス所ナルヲ以テ、出入口ハ開カレ居ルモ浴場ヨリ出ツル事能ハズ爲メニ監禁罪トシテ裁判所へ訴へ出タリ、而シテ浴衣ヲ持チ去リシ者ハ、不法監禁罪トシテ處刑セラレタリキ、次ニ(二)逮捕トハ制縛檢束ハ勿論監禁以下ノ一切ノ方法ニ依テ、居處ニ關スル自由ヲ全ク制限シ防止スルヲ云フ、是ニ就テ面白キ事實アリ、階上ニ住居スル者アルヲ知リナガラ、階梯ヲ取り去レリ、今多少ノ危険ヲ犯シテ跳ビタランニハ、跳ビ出ツル事ヲ得ヘキ状態ニ在ルニ不拘、其階階上ニ在リタリキ、後之ヲ裁判所ニ告發シタル事アリキ、以上ノ如ク逮捕監禁ハ其區

別ニ關スル肉體運動ノ自由ヲ防止スル事ヲ云フト解セバ可ナリ、而シテ逮捕ト云ヒ監禁ト云ヒ、共ニ時間ニ關スル問題ニシテ、一瞬間逮捕監禁アリタルノ故ヲ以テ本罪ヲ構成スル者ニアラズ、又場所ノ廣狹ハ監禁罪ニ影響ヲ及ボサス、又此ガ手段ニ就テハ法規ニ明示セサルガ故ニ、體力ニ因ルト、精神的ナルト、直接ナルト、間接ナルトハ、敢テ之ヲ問ハサルモノトス、本節ハ即チ此等ニ關スル法規ナルガ故ニ、其處分ノ如何等ハ各法條ニ依テ知ラル可シ。

第二百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

(解)前説ヲ見レバ了解セラルベキヲ以テ茲ニ再説セス。

第二百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)監禁制縛ニ就テ頃口議論アリタリキ、即チ監禁ト制縛トハ別寔ナルヤ、同一熟語ナルヤノ問題ニシテ、此レガ解釋ノ如何ニヨリテハ、制縛ノミニテハ未タ犯罪

タラザルノ結果トナル可ケレバナリ、吾カ大審院判例ニ於テハ監禁若クハ制縛ノ
法意ト解セリ (三十三年れ號第三七二號) 次ニ毆打拷責トハ打チ叩キ又肉體ニ烈
シ^シ苦痛ヲ與ヘツ、責ムル事ヲ云ヒ、又飲食衣服ヲ屏去スルハ、食ヲ與フルモ僅
少ナルカ否ラザレバ全ク與ヘザル場合ト、衣服ヲ纏ハシメザルカ、或ハ發寒單衣
一枚ヲ纏ハシムル如モ、亦此ノ中ニ入ル、如上説ク所ノモノハ苛刻ナル行爲ヲ列
示的ニ規定シタルニ過ギズ、故ニ苛刻ハ一切ノ慘酷手段ヲ包容ス。

第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條
ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(解)本條所定ノ罪ヲ犯シ、其苛刻ナル待遇ガ原因ト爲リテ、疾病 (身体ノ内外ヲ
能ノ) 死傷ニ致シタル場合ヲ所定セリ、而モ本條ニ付テハ特ニ犯意ヲ説明スルノ
要アリ、抑モ本條所定ノ疾病死傷ニ對スル認識ヲ有スルヤ否ヤ、若シ有セズトセバ
如何ナル犯意ヲ必要トスルカ、以下解ク所ニ依テ知ル可シ、夫レ前條ニ就テハ苛
刻行爲ニ對スル事實ノ認識アルハ勿論ナリ、然ルニ本條ハ前條行爲ノ原因トナリ
テ、^作若病死傷ニ至ラシメタル場合ニシテ、若シ死傷ニ對スルノ認識アル者トスレ
バ、純然タル殺人罪ヲ構成スルガ故ニ、第三編第一條第一節ノ規定ニヨリテ所斷

セラル可シ、然ルニ本條ハ毆打創傷ノ例ニ依ルトナシ、特ニ結果犯ノ所定ヲ引用
アルハ、本條ヲ以テ結果犯ト認メタルニ據ラズンバアラス、果シテ然ラバ疾病死
傷ニ關シテハ全然認識ナカリシ者ト云フ事ヲ待ベシ、次ニ疾病死傷タル他ノ原因
ニヨリタル者ナル時ハ、本條ニ適用ノ限ニ在ラサルハ明カナル所ナリ、終リニ説
明セントスルハ、本條ハ數罪俱ナリヤ否ヤニ有リ、本條ヲ按スルニ、前條苛刻
監業ノ罪ト疾病死傷ニ至ラシメタル罪トノ二アリ、然レトモ本罪ハ實體上ノ二罪
ニ有ラズシテ、二罪ヲ包容スル所ノ犯罪ナリ、故ニ數罪俱發ノ例ニ據ラズシテ毆
打創傷ノ規定ヲ引用セル本條ニヨリテ所斷スルモノナリ、明治三十年二月二十二
日九十三號ノ大審院判例又同シ。

第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致
シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

(解)水火震災トハ唯ニ洪水、火災、地震等ノミノ如ク思ハルレドモ、非常ナル天變
地異一切ノ場合ヲ包含スルモノト、廣義ニ解スルヲ至當トス、其他ハ別ニ説明ヲ
要セズシテ明カナラン。

第七節 脅迫ノ罪

脅迫トハ法律ニ定メテレタル事項ヲ口實トシテ他人ニ不安ノ念慮ヲ匿起セシムルヲ云フ、學者ニヨリテハ恐怖ノ念ヲ起サシメザル可カラズト爲スト、雖モ、法規別ニ之ヲ規定スル所ナキヲ以テ必要ナラズト信ス、只危害ヲ受クベキ事ヲ信ズル事及心裡ノ平和ヲ亂シ權利保全ニ疑懼ノ念ヲ起サシムレバ可ナリ、然レトモ脅迫者ニ於テ眞實ニ危害ヲ加フルノ意思アルコト、並ニ其手段ニ於テ危害ヲ加フベキ能力アル事ヲ必要トセズ、而シテ脅迫行爲アリタルヤ否ヤハ之ヲ如何ニ定ム可キカ著者ハ信ズ抽象的客觀的ノ標準ヲ以テ之ヲ定メサル可カラザルモノト、例ヘハ愚カナル者或ハ幼者ガ、自己ノ意思ニ於テ被脅迫者ガ恐怖スベシト確信シラ汝ノ家居ニ放火セント脅迫スルモ、何人モ安全ノ念慮ニ些ノ動搖ヲ來ザル時ハ之ヲ以テ脅迫アリタルモノト言フ能ハザル可シ、又強膽ナル者ニ於テ或者ガ脅迫シタリトセンニ、通常ノ者ナランニハ恐怖ト驚愕トニ充サル、場合ト雖モ、尙ホ心裡ノ平和ヲ破ラレザル可シ、前例ハ具體的ニ、後例ハ主觀的ニ觀察シタル引例ナリ如此具體的主觀的ニ標致スル時ハ、二極端ノ欠點ヲ生ズルガ故ニ、之ヲ抽象的客

觀的ニ定ムルノ至當ナルハ明カナリ、次ニ脅迫ノ要件トシテ現實ヲ意味ス、來年汝ヲ殺サン、二年後汝ノ家ヲ燒カント云フガ如キハ、即チ脅迫ニ非ラザルナリ。

第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ十一月以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ知テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ
 (解)脅迫ノ何タルヤハ既ニ明了ナラン、只脅迫ノ材料ニ供セラル可キ事項ニ付キテ

說明セン、(一)人ヲ殺サント脅迫シタル事、(二)人ノ住居ニ放火セント脅迫シタル事、(三)毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シタル事、(四)財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル事、而シテ財産ハ放火ノ目的物ナルガ故ニ(二)以外ノ有體物一切ヲ意味スルヤ明カナリ、毀損トハ滅失又ハ損傷ヲ云ヒ、劫掠ハ暴力ヲ以テ財産物ヲ強奪スルヲ云フ、法文ニ放火シ及ヒナル語アリ、及ヒナル語ハ且ツト云フ意ニシテ其ノ上下云フ語ナリ、故ニ單ニ放火ノミナル時又ハ後者ノミナル時

ハ適用スヘキ法條ナキヲ以テ無罪ヲ言ヒ渡サレル可カラズ、以上ヘ之レ文壇上ヨリ生ス解釋ナリトス、然レトモ著者ハ敢テカク文字ニ拘泥セズシテ、二者俱ニ又ハ各別ニ之ノ行爲ヲナスモ、同シク本條ノ適用ヲ受クベキモノト信ズ、(五)兇器ヲ持シテ如上四箇ノ一ヲ犯シタル時、兇器トハ如何ナル者ヲ云フカ、著者ハ兇器トハ、通常攻撃防禦ノ方法トシテ人ノ生命身體ヲ毀損スルニ足ルベキ器具ヲ云フト定義セン、何トナレバ一針好ク人ヲ殺スニ足ル者ナレバ、是又廣義ノ兇器タルヲ失ハズ、然レトモ通常之ヲ以テ人ヲ殺スニ足ル者トセズ、又出刃刀ノ如キ元來人ヲ殺スノ目的ノ爲メニ作ラレタル刃具ニ非ラズト雖モ、又此ノ目的ニ適合スル所ノ者タルヲ失ハズ、故ニ生命身體ヲ毀損スルノ目的ヲ以テ作ラレタルモノナル事ヲ必要トセズ、(六)被脅迫者ハ自己及ヒ親屬ニ關スル者ナル事、故ニ朋友其他ノ第三者ニ對スル者ナル時ハ、脅迫ト云フ事ヲ得ズ。

第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

(解)本節ノ脅迫罪ハ學者ノ所謂申告罪ト稱スル者ニシテ、本條ハ即チ此理ニ從テ規定シタル所ナリ、而シテ之ヲ處罰スルヲ得ルノ告訴ナカル可カラズ、然レトモ告

訴ハ處罰ノ條件ニ非ラズ、何トナレバ犯罪アレバ刑罰權ハ此ニ隨伴シテ、發生スル者ナルガ故、告訴ノ有無ニ依テ犯罪トナリ、初メテ之ヲ處罰スルモノニ非ラズ要スルニ申告罪ノ申告ハ、訴訟條件タルニ過ギザルモノニシテ、其之ヲ認メタル源由ハ、被脅迫者ノ名譽利害ニ重キヲ置キ、其意思ノ利害ノ判斷如何ニ依リテ、之カ訴追ヲ爲スベキモノトナシタルニ過ギズ、即チ告訴ハ國家ノ求刑權ノ隱起ヲ請求スル者ニシテ、犯罪タラサルモノヲ犯罪タラシメントスルノ請求ニ非ラザル事ヲ注意ス可シ、乍然告訴ニ就テハ以上所說ノ如ク、二箇ノ學說アリ、一ハ告訴ヲ以テ訴訟條件ナリトスル者、一ハ處罰條件ナリトスル者、之レナリ、何レトモ本法ノ取ル所ハ前說ナル事ヲ留意ス可シ。

第八節 墮胎ノ罪

墮胎トハ未タ母體ヨリ分離セサル胎内ノ生兒ヲ殺ス、一切ノ手段ヲ云フ、而シテ之ヲ殺ス手段ヲ二箇ノ方法ニ分別スル事ヲ得、(一)胎兒ヲ母體ヨリ分離スル事ニ依テ胎兒ヲ殺ス場合ニシテ、分娩中ニ死亡スルト否ラザルトハ、問フ所ニアラズ(二)體内ニ於テ胎兒ヲ殺ス場合ニシテ、以上二箇ノモノ、其手段方法ノ如何ヘ不

問、苟モ犯意ヲ有スル場合ニ於テハ、本罪ヲ構成スル事明カナリ、然レトモ懷胎ノ婦女自殺ヲ企テ、爲メニ胎兒ノ死シタル場合ニ於テハ、其本罪ヲ構成セサルヤ明カナリ、又懷胎ノ婦女ヲ殺シタル場合モ亦之ト同シ、其理由ハ胎兒ノ生命ハ獨立シテ生存スル事能ハズシテ、母ナル人ノ生命身體ト相俱ニスベキノ結果ニ至レバナリ、次ニ懷胎ノ婦女胎兒ヲ殺スノ意思ト共ニ自殺ノ意思アル場合ハ如何、尙ホ本罪ヲ構成スヘキモノト信ズ、須臾讀者ノ考究ニ委セン。

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

(解)藥物ノ何タルカ既ニ知レルナル可シ、又其他トハ一硬ノ手段ヲ包含ス前條ハ懷胎者自身ガ犯罪主體タル場合、後條ハ懷胎者以外ノ者犯罪ノ主體トナリシ場合、ニテ規定セリ、後條後段ニ對シテハ、明治三十年十二月十七日七九二號ヲ大審院判例アリ、其ノ内容ハ墮胎ノ既遂未遂ヲ問ハス、墮胎手段ニ着手シ爲メニ婦女ヲ死ニ致シタルモノトストアリ、或學者ハ此ニ反對シテ曰ク既遂ハ結果ノ發生ト行

爲ノ完了トヲ以テ成ル、而シテ結果ノ發生以前、死亡シタル者ナル時ハ、本罪ノ未遂タル者ナリト、然レトモ判例ノ破毀セラル、迄判例ニ從フヲ以テ正當トス。

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

(解)穩婆トハ現今ノ産婆ヲ指ス、他ハ説明ヲ略ス。

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シラ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

(解)威逼トハ懷胎ノ婦女ニ對シ、害ヲ加フヘキ事ヲ信用セシメ、墮胎ノ實行ヲ強制スル事ヲ云フ、而シテ其方法手段ハ凡百ノ場合ヲ包含ス、次ニ誑騙トハ墮胎者ヲ錯誤ニ陷レ、依テ墮胎行爲ヲ實行セシムルヲ云フ、例ヘハ墮胎スヘキ藥物ヲ砂糖ナリト稱シ、服用セシメタル場合ノ如シ。

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(解)後條ノ癡篤疾ハ癡疾、及篤疾ヲ指スモノニシテ、兩條ノ熟字ハ毆打創傷ノ釋解ヲ參照スヘシ。

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

本節ノ規定スル所ノ者ハ、幼者老疾者ヲ遺棄スル行爲ヲ罰スル事ヲ規定シタルモノニシテ、幼者トハハ八歳未滿ノ小兒、老疾者トハ、老人又ハ疾病者ヲ云フモノニシテ、其如何ナル者ガ之ニ包含スルヤハ事實問題ニ屬ス、然レトモ以上ノ二者ハ何レモ、自己ノ力ヲ以テ生活シ能ハザルモノナルガ故ニ之ヲ扶養セザル時ハ、飢饉ニ頻スルカ故ニ罰スルニアラズ、即チ遺棄トハ監護ノ及ブベキ範圍外ニ放棄シ危險ヲ隱起スベキ状態ニ置クヲ云フ、而シテ所罰ノ目的又茲ニ存在ス、之レ彼等ハ自己ノ力ニ依テ、危險ノ狀況ヨリ避クル事ノ能力ヲ有セザル者ナレバナリ、抑モ遺棄ニ關シテハ二箇ノ所爲アリ、(一)現在ノ狀況ヨリ危險ノ場所ニ移轉スル場合ト、(二)危險ナル狀況ニ放任スル場合、之レナリ(一)ノ場合ニ於テハ自己以外ノ者ニヨリテ救助セラル可キ事ノ確然タル場合ハ之ニ含マス、例ヘハ母ノ許ニ又ハ親屬ノ家ニ置キ去ルガ如キ、之レナリ、(二)ノ場合ニ於テハ監護スヘキ法律上

ノ義務アル者、其義務ヲ果サザルニ依テ其責任ヲ生スル者ニシテ、其義務タル法規ニ基キテ生シタル者ト、契約其他新ナル行爲ニヨリテ發生シタルトヲ問フ事ナシ、如上二個ノ着共ニ監護ノ義務アル者ニアラザレバ、其ノ責任ヲ負ハザル事當然ナリ、之レ三十三年十二月十五日、大審院判例一三二二號ノ認ナル所ナリトス。

第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス自ラ生活スル事能ハサル老疾者ヲ遺棄シタル者亦同シ

第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥聞無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ

第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癡疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

(解)寥聞無人ノ地トハ、常ニ居住スル者ナク、且ツ交通往來ノ少キ場所ヲ云ヒ、必スシモ絶對ニ無ハノ境域ヲ指示スルニ非ラズ、絶對ニ交通スル者無キ場所ヲ云フニ非

ラザルナリ、而シテ處罰ノ重キ所以ハ、危害發生ノ慮多ク又之ヲ排除スル能ハザルモノナルガ故ニ、重罰ニ科スル所以ナリ、次ニ寄託トハ徒ニ民法規定ニ該當スル場合ノミナラズ、苟モ委託ヲ受クルニ當リ、給料若干ヲ得テ監護スルノ責務ヲ負ヒタル、仮ヘハ、保母ノ如キハ抽象的ノ一般注意以上ノ善良ナル監護ノ注意ヲ要ス又癡疾篤疾ノ如キハ殴打創傷ノ詳解ヲ参照ス可シ。

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼老疾者アルコトヲ知テ之ヲ扶助セズ又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ疾病ニ聽リ昏倒スル者アルコトヲ知テ扶助セズ又ハ申告セサル者亦同シ

(解) 看守ス可キ地内トハ、山林官ノ山林ニ於ケルガ如ク、凡テ看守スベキ自己ノ責務アル場所總體ヲ意味ス、扶助又ハ申告ハ之ヲ保護シ救助スルカ、否ラザレバ直接人民保護ノ職責ヲ有スル官廳、或ハ官吏ニ之ヲ通報スル事ヲ云ヒ、其手續ノ書面ニ依ルト、口頭ニ依ルトハ敢テ之ヲ問ハズ、次ニ昏倒トハ廣義ニ解シ、生命身體ニ關シ發生スル所ノ危険ヲ、自己ノ力ヲ以テ排除スルヲ得サル疾病ノ全體ヲ意味ストスルヲ妥當ト信ズ、而シテ第二項ハ前條ヲ受ケテ疾病者ト否トニ別チテ、規

完シタル者ナルガ故自所有地看守地内ニ限ル事ハ當然ナリ、之レ未通往来者一般ニカハル義務アリトナスハ、甚ダ根據ナキ義務ナルガ故ナリ。

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

本節ニ於ケル幼者トハ、二十歳未滿ノ者ヲ云フ、次ニ略取トハ暴行強迫ヲ意味シ誘拐トハ詐欺又ハ甘言誘導スルヲ云フ事、二十四年一月二十六日ノ大審院判例ニ見ユ、即チ略取誘拐ノ手段ヲ以テ、幼者監護權ヲ破壊シ、其ノ支配スル實力外ニ移スヲ云フ、其ノ之ヲ罰スルノ理由ハ、幼者ノ思想未タ定ラズ、爲メニ監督外ニ立ツ事ノ利益ナルヤ否ヤ又生活シタルヤ否ヤヲ判斷シ、實行スルノ能力ナキ者ナルガ故、之等ヲ監護支配ノ權力外ニ置クハ善良ナル國民ヲ以テ基本トナス、國家ノ利益ヲ害スルモノナルヲ以テ、監護權ヲ破ルヲ以テ犯罪處罰ノ原由トナシタルナリ、然レトモ幼者ハ這般ノ犯罪客體タル者ナルガ故ニ、幼者自ラ之ヲ破ルハ、犯罪タラズ、此ノ結果トシテ之行爲ヲ幫助スルモ亦從テ犯罪トシテ處罰セサルモノトス。

第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ

交附シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取シテ白ラ藏匿シ若クハ他人ニ
交附シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁處ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加
ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ
處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)藏匿トハ他人ノ發見ヲ妨グルノ行爲全般ヲ意味ス、然レトモ絶對ニ發見ヲ防止
スルノ謂ニアラズ、故ニ單リ服装ヲ變シ、又假面服面セシムル事等モ亦此ノ中ニ
入ルモノト云フ可シ、次ニ交付ストハ、自己支配ノ下ヨリ他ノ支配ニ移轉スルノ
謂ニシテ之レ亦絶對ノ意義ニアラズ、故ニ自己ト同居スルモ、支配ヲ他人ニ移シ
タルトキハ即チ交付アリタルモノニシテ必ズシモ、身體ヲ他ニ移轉スルヲ要セズ
又ハ略所誘拐ニ付テハ已ニ既ニ説明シタル所アル故重複セズ、而シテ十二歳未滿
ナルト以上ナルトニ依テ、科罰ニ輕重ヲ附ス所以ノモノハ略取誘拐ノ難易ト、幼
者自身ノ判斷力ノ強弱ト、社會狀勢ノ觀察ノ程度ニ差異アルガ故ニシテ、敢テ別
ニ深キ理由アルニアラズ。

第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナル事ヲ知テ自己ノ家屬僕婢トナシ又ハ其他ノ

名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

(解)本條ハ其情ヲ知リツ、其ノ名稱ノ如何ヲ不問、一家内ノ人タラシメ又ハ之ヲ
略取拐携者ヨリ授受シタル一切ノ行爲者ヲ所罰ス、故ニ貰子(養子)ノ名稱ノ許ニ
或ハ從僕下婢タルノ名稱タルト敢テ關セザルナリ。

第三百四十四條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役
ニ處ス

(解)本條ハ略取誘拐シタル上、外國人ニ其支配權ヲ移シタル場合ヲ規定シタルモノ
ニシテ、交付者ノ監護權扶養義務アル者ナル時ハ本條ニ包含セズ、之レ二十四年
一月二十六日一八八號ノ大審院判例ニ明示スル所ナリ、然シテ之ニ重刑ヲ科スル
所以ハ幼者ヲ原狀ニ回復スル事ノ者望ミナカラシムルノミナラズ、國家ノ一員ヲ
外人ニ授受スル如キハ、公益ヲ害スル事大ナルノミナラズ、幼者ニ對シ其ノ情狀
頗ル惡ム可キ者アルガ爲ノミ、其結果他ノ各條ト異リ告訴ヲ俟ツ要ナシ。

第三百四十五條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
但略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ效ナシ

(解)本條前段ハ親告罪ナル事ヲ規定シタル者ニシテ、親告罪ノ如何ナル者ナルヤ、

親告ノ如何ナル性質ナルヤハ、第三百二十八條ノ規定ノ經解ヲ熟讀セバ明了ナル可シ而シテ但書ニ於テ民法ニ從テ正式ノ婚姻ヲナシタルトキハ、罪ハ消滅スルモノトス、之ヲ認メタル理由ハ夫婦間ノ愛情ヲ割キ、平和ヲ紊リ家族ノ名譽ヲモ害スルコト、ナルヲ以テ、カクノ如ク規定シタルモノナリ、而シテ一段正式ニ有效ニ成立シタル後、婚姻解消スル事アルモ、他ニ規定ナキヲ以テ又告訴ノ效ナキモノト解スルヲ至當トス。

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

猥褻トハ他人ヲシテ色情ヲ煥發セシメ又ハ満足セシムル等一切ノ風儀ヲ紊リ情慾ニ對スル精神上ノ激發ヲ惹起スル所ノモノヲ云フ、故ニ異性間ノ交接ノ如キ雞姦獸姦ハ勿論、假令手淫又ハ男女間ノ交接ト雖トモ、公然之ヲ爲スガ如キハ同シク之ノ内ニ包含セラル、而シテ如何ナルモノガ猥褻ノ所行ナルカハ抽象的標準ニ依テ定ムモノトス、姦淫トハ、姦通強姦又ハ淫行ノ謂ヒニシテ、前者ハ即チ暴行強迫ヲ追隨シ、後者ハ否ラザル場合トス、重婚トハ婚姻ノ解消ナクシテ再婚スルヲ云フ、以上三箇ノモノ詳細ハ各本條ノ講義ニ讓ル。

第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)前二條何レモ猥褻ノ所行ヲ罰スル事ヲ規定シタルモノニシテ、前者ハ手段ノ平穩ナル場合、後者ハ暴行脅迫ヲ以テシタル場合ナリ暴行トハ不正ノ體力ヲ以テ迫害スルヲ意味シ、脅迫トハ第七節所定ノ意思アル事ヲ信念セシムルニ依テ成立ス而シテ猥褻ノ所行トハ先ニ説明シタル所ノ行爲ヲ爲ス事ヲ謂フ、而シテ之ガ容體ハ何レモ十二歳未滿ノ男女ナラザル可カラズ、蓋シ之ヲ處罰スルノ理由ハ、風俗ヲ紊リ、色情ノ未ダ發達セザル幼者ノ肉體並ニ精神ニ偉大ナル傷害ヲ與ヘ其ノ節操ヲ破ルヲ以テナリ。

第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス
藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

第二百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

(解)十二歳以上ノ者、又ハ未滿ノ者ヲ暴行強迫ニヨリ、又ハ否ラザル手段ヲ以テ淫行シタル場合ヲ所罰スルノ規定ニシテ、己ニ述ベタルガ如ク之ヲ所罰スルハ、風俗、節操、被害者ノ榮辱ノ保護ニ根源ス、次ニ前條第二項ハ藥物、又ハ酒ヲ以テ前後不覺ノ状態ニ陥ラシメ、或ハ精神ノ知覺ヲ亂リ、辨別力ヲ失ヒ又ハ鈍カラシメ依テ以テ、淫行ヲ敢テナシタル者ハ強姦ヲ以テ論スルノ規定ナリ、蓋シ此等ノ手段タル隱險ニシテ、避クルニ難ク、利用シ易キガ爲メ如斯重罰スルモノナリ、而シテ藥物ノ何タルカハ既ニ諸君ノ識レル所茲ニ省ク、要スルニ前條ニ之ヲ設ケ、後條ニ之ヲ規定セサルハ其ノ何ノ故タルヲ知ラズ。

第二百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
(解)本條前數條ノ何レモ申告罪ナル事ヲ規定シメルモノニシテ、申告ノ性質ハ先キニ述ベタルガ如シ。

第二百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ廢篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處

シ致死シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

(解)本條ハ即チ結果犯ヲ規定シタルモノニシテ、姦淫、又ハ強姦ニヨリ、爲ニ死傷セシメ或ハ廢疾篤疾ニ致シタル場合ノ所斷方法ヲ規定シタルモノナリ、如上ノ字義ハ既ニ毆打創傷ノ各本條ヲ説明スルニ當リ、詳解シタルヲ以テ茲ニ省キ、強姦ニ就テ尙ホ少シク述ベン、抑モ強ノ客体タル者婦女ニ限ラル可キカ、第三百四十八條ニハ明カニ之ヲ規定シタリト雖モ、本條ニ於テハ何等規定スル所ナシ、加之ナラズ本條ハ該條ヲ受ケ繼ギタルノ規定ニ非ラザルノミカ、強姦ハ暴行強迫ノ手段ヲ用キテ淫行ヲ爲ス場合ナルガ故ニ、婦女羸弱ナル男子ヲ捕ヘ、強テ姦淫シタル場合ニ於テハ又本條ヲ構成スヘキ者ト解スルヲ妥當ト信ス如何、果シテ然リトセバ彼ノ男子ヲ幫助シテ強姦セシメタル場合ニ於テ、共犯成立ニ一點ノ疑問ノ生セザルナリ、次ニ又一問アリ、責任無能力者ヲ幫助シテ強姦ヲ爲サシメタル場合ト、教唆シテ之ヲ爲サシメタル場合之レナリ、前者ハ單獨ノ正犯トナリ、後者ハ間接正犯トナル、又強姦ノ所爲ニ就キ何等ノ觀念ナキ者ヲ利用シ使喚シテ、強姦ヲ爲サシメタル場合亦間接正犯タル者ナリ。
次ニ本罪ハ一罪ナリヤ、將タ數罪俱發ノ例ニ從フモノナリヤ、ニ付テ説明ヲ要ス

著者ハ我カ大審院ニ於テ、之等ノ場合ニ對スル數箇ノ判例アルヲ以テ、今一二ヲ附引シテ説明ニ換ユ、明治三十年三月二日第一四〇號ノ判決文中ニ曰ク、強姦ノ罪ヲ犯シ、六ガ爲メ人ヲ傷ケタル場合ノ所爲ハ、強姦ト毆打創傷トノ二所爲ヲ合テ一種特罪トナシタルモノナリトハ、又三十二年二月七日ノ判例ニ曰ク、強姦スルノ意思ヲ以テ人ヲ毆打創傷シタル以上、其目的ヲ達シタル所爲ハ、強姦負傷罪ヲ以テ論ズト。

以上犯罪歸責ノ要素タル意思ハ、一言已ニ述ベタルガ結果犯タルガ故、自己ノ強姦ヲ爲ストノ事實ニ對スル認識アルノミニシテ、死傷タル偶發ノ事實ニ對シテハ豫見ナキモノトス、故ニ強姦セントシテ其目的ヲ遂ゲザルニ致死傷シタル者ハ以上ノ犯罪ノ未遂犯ヲ構成ス、之レ目的ノ未遂行爲ハ發シタル結果ヲ包含スルモノナレバナリ。

次ニ本罪ハ親告罪ナルヤ否ヤ、二十八年一月二十一日ノ大審院判例ニ曰ク、姦罪ヲ致スニ依リ致ス等ノ如キ親告ヲ要セサル他罪ヲ併發スルニ至リテハ、之ヲ論スルガ爲原因タル姦淫ノ事實ハ自ラ表白セラレサルヲ得ス、故ニ其併發罪ト共ニ、姦罪モ親告ヲ待タス論スヘキモノトスト、又二十九年二月二十三日同判例ニ曰ク、

強姦ヲ爲スニ因テ人ヲ創傷セシメタル所爲、即チ刑法三百五十一條ハ、親告罪ニアラズシテ、告訴ノ拋棄ヲ以テ公訴權ヲ消滅セスト、又三十二年二月十六日同判例ニ曰ク、強姦負傷罪ハ(刑法第三百五十條)親告罪ニ非ラスト、蓋シ公ノ秩序ヲ維持シ、善良ノ風俗ヲ沮害スル事重大ナルガ爲メ、一個ノ利益ヲ願ミル違ナキガ爲メナリ。

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ觀誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)本罪客体ハ十六歳未滿ノ者ニシテ、勸誘トハ行者ヲ誘ヒ之ヲ承諾セシムルノ行爲ヲ云ヒ、又房合トハ寄室ヲ貸與シ或ハ淫行者ノ一方ヲ他ノ一方ニ手引キスル等ヲ云フ、要スルニ以上ノ行爲タルヲ行ハシ得ベキ状態ニ在ラシムレバ可ナリ、而シテ媒合ト勸誘トハ兩者相俟テ本罪ヲ構成スルモノナルガ故ニ、其何レカノ場合ヲ欠ク場合ニ於テハ、本罪ヲ以テ處分スル事ヲ得ザルモノトス。

第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效

ナシ

(解)本罪ハ一名有夫姦ト稱スルモノニシテ、凡テ夫アル婦女夫以外ノ他ノ男子ト、相交接スルヲ以テ成立ス、而シテ世俗ノ所説内縁ノ妻ナル者ハ、茲ニ有夫ノ婦ト云フ事ヲ得ス、即チ有夫ノ婦トハ民法上ニ於テ正當有效ナル婚姻ニヨリテ、夫タリ妻タル關係ヲ形成シタル婦女ニ限定ス、而シテ交接ハ敢テ精液ノ流出ヲ用セズ何トナレバ之レ婦體ヲ姦ルノ行爲ヲ所罰スルモノナルガ故ニ、其ヲ姦シ得ル狀況ニ到達スレハ可ナリ、次ニ此ガ犯意タル、有夫ノ婦タル事ノ認證ヲ要ス、此ノ結果トシテ、若シ無夫ノ婦ト信ジテ姦淫ヲナスモ故意ナキノ所爲ナルガ故ニ、事實ノ不知ヲ以テ犯罪ヲ不成立ニ終ラシム、次ニ相姦スル者トハ、姦通ノ相手方ヲ指示ス、今若シ夫ガ特定ノ人ト相姦通スル事ヲ許シタル場合ニ於テ、特定以外ノ者ト姦通シタル時ハ如何ニ處分スベキカ、夫レ姦通ノ縱容ハ不可分ニシテ、一度之ヲ許ス時ハ姦通タル所爲ヲ爲ス事ヲ許ス者ニシテ、相手方ノ何人タルハ縱容ノ目的ト認ムルヲ得ズ、故ニ特定ノ人ヲ限リテ之ヲ許スモ、特定ノ人ハ要素タラザルモノナレバ、何人ト姦淫ヲ爲スモ常ニ犯罪要素ノ欠缺ヲ來ス、而シテ本罪モ亦親告罪タルヲ失ハス、只本夫ノミニ此ノ權利ヲ限定シタルノミ、而モカク規定シタ

ル理由ハ夫權ヲ重シシ、夫婦間ノ平和ノ維持及ビ夫ノ名譽ヲ保護セン爲メニ外ナラズ。

第三百五十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)本條ハ婚姻未タ解消セサルニ先タチ、重ネテ他ノ者ト婚姻ヲ爲シタル場合ヲ處罰スルノ規定ニシテ、解消トハ婚姻ノ狀態ノ破壊シタル場合ニシテ、夫ノ死亡離婚取消無効ナル時ヲ云フ、此等ハ凡テ民法上ヲ規定ヲ俟タサル可カラズ。

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

誣告トハ何ソヤ、曰ク犯罪ノ事實ニ關シ不實ノ事ヲ官ニ申告スル事ヲ謂フ、而シテ本罪ノ客體ハ生存セル人ナラザル可カラズ、此客體ニ對シテ學說三箇ニ分ル(一)各箇人ヲ以テ客體トスルノ説、(二)司法ヲ侵害スルノ所爲ニシテ其客體ハ國家ナリトスル説、(三)折衷説ニシテ以上二説ヲ具有スルモノトナス説ナリ、然レトモ一般ノ學者ハ第三説ヲ贊ス、而モ不實ノ事實タルヤ、(イ)檢事ノ之ヲ信ジテ起訴シタルヤ否ヤ、又(ロ)信ジタヤ否ヤ及ヒ(ハ)被告人ノ推問ヲ受ケタリヤ否

ヤ、等ハ被告ノ要素ニ非ラザルガ故ニ、直チニ本罪ノ成立ヲ見ル、之レ(イ)二十八年十月四日ニ、(ロ)ハ二十九年九月二十八日ニ、(ハ)ハ三十年二月四日ニ、大審院ニ於テ判例ヲ作りタリ所ナリ、而已ナラズ、告訴調書ノ無効ナル場合ト雖モ不實ノ事項ヲ申告シタル事實アレバ、又誣告罪ヲ構成スルニ欠クル所ナシ(三十二年七月七日判決同年)次ニ官トハ警察署、検事局等ノ如ク管轄官廳ニ爲スヲ要ス、之レ明治三十二年七月七日大審院判例ノ示ス所ナリ、而シテ申告ノ手續タルヤ、告訴ノ告發ノ手續ニ限ルモノニアラズ、申告者ノ無記名ノ稟書ヲ以テスルモ、敢テ犯罪ノ成立ニ影響スル所ナシ、之レ明治三十年七月十六日六百二十一號及三十一年五月三日三百八十六號ノ大審院判例ノ明示スル所ナリ、而シテ不實ナル事トハ客觀的ノ標準ニ基キテ斷スルノミナラズ、又主觀的ニ其不實ナル事ヲ認識セザル可カラズ。

次ニ誹毀罪トハ、事實ノ有無ヲ問ハズ、惡事醜行ヲ他人ニ布知シ、又ハ傳播スル行爲ヲ處罰スルヲ去フ、惡事醜行トハ道德上ノ犯罪ナルト、刑法上ノ犯罪ナルトニ關セズ、尊敬ヲ滅殺シ又ハ滅却シ得シノ力ヲ有スルモノヲ云フ、而シテ本罪ノ客體ハ人タルヲ要スルハ勿論、無形ノ人(法人)ニ對シテモ尙ホ本罪ヲ構成ス、故

ニ各人ノ集合ヨリ團結シタル會社ノ如キ、當然本罪ノ客體トナルヲ得、之レ明治二十五年二月四日大審院判決ノ明示スル所ナリ、加之ナラズ此レガ客體タル者、必ズシモ特定スルヲ要セズ只何ノ誰タル事ヲ認定シ得レバ可ナリ(二十六年二月二日同年一五〇號參照)、詳細ハ尙ホ各本條ニ就テ見ル可シ。

第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第一百二十條ヲ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

(解)本罪モ常犯ト同シク犯意ヲ要スルヤ勿論ナリ、只單ニ署名シタルヲ以テノミモテ、人ヲ誹毀シタルモノト云フヲ得ス、仮ヘハ新聞紙ノ發行人或ハ印刷人ニシテ編輯人ト共ニ責任ヲ負フ場合ハ其ノ意思ヲ標明セザル可カラズ、之レ明治二十七年一月十八日大審院判例ノ示ス所ナリ、然レトモ告訴狀ニ署名シタル者ハ告發人ト見做サレ、其ノ訴狀ノ内容事項ニシテ不實ニ渉ル時ハ誣告罪ヲ構成スルニ欠クル所ナリ、之レ明治三十二年三月六日大審院判決例ノ示ス所ナリ、而シテ中段以下ハ重罪、輕罪、違輕罪ノ各事實ニ對スル不實ヲ申告シタル者ナル時ハ之レニ依テ處罰ノ異ナル事ヲ規定シタルモノナリ。

第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタ

ル時ハ本刑ヲ免ス

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二百二十一條條第二百一十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

(解)前條ヲ直解スレバ、推問以前自首シタルトキハ、如何ナル場合ニ於テモ、自首ノ效アルモノ、如キモ、三十一年九月二十六日ノ大審院判例ノ示ス所ニヨレバ、公訴提起後ハ事發覺後ナルヲ以テ、被誣告人ノ推問ヲ始メタルト否トヲ問ハズ自首ノ效ナシト、故ニ本條ノ推問ヲ始メザル前トハ、公訴提起前ヲ指示スト解スルヲ實際ニ適スルモノト云フヲ得ベシ、次條ハ被誣告人ノ所刑セラレタル場合ニ、誣告ニ反座ノ刑ヲ科スル事ヲ規定シタルノミ。

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

- 一 公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 二 書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)本條ハ事實ノ有無ヲ問ハズ、名譽ヲ毀損スルノ意思アレバ、誹毀罪ヲ構成スル事ヲ規定シタルモノナリ、而シテ第一項一及二號ハ誹毀ノ方法ニヨリテ刑罰ヲ異ニスル旨ヲ規定シタルモノニシテ、(一)公然ノ演說ニヨリタル場合、公然ノ演說トハ衆人ニ知覺セラレ得ベキ狀況ニ於テ、言語ノ列ヲ以テ主張スル事ヲ意味ス、(二)書類畫圖ヲ公布ニヨル場合、書類ニハ文字ヲ以テ思想ヲ表彰シタル者ヲ云ヒ畫圖トハ或ル形狀ヲ書シタル書類以外ノ一切ヲ云フ、而シテ公布トハ限定セラレザル衆人ノ眼ニ觸ル、ベキ方法ニ於テ配布スル事ヲ云フ、(三)雜劇トハ所作ヲ以テ其形狀ヲ表彰スルコト、偶像トハ金石木土石膏等ヲ以テ形ヲ表ハス所ノ彫刻物ヲ指示ス、而シテ法文散テ明規セズト雖モ、誹毀ノ性質上公衆ノ眼ニ入ルベキ狀態ニ置ク事必要ナリト意思ス、他ハ別ニ説明スルノ用ナシ。

第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非サレバ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

(解)本條ハ死者ヲ誹毀シタル場合ヲ規定シタルモノニシテ、誣罔トハ事實ノ全然アラザルニ、有リト表示スル事ヲ要ス、故ニ實際ニ於テ其事實有ルニ拘ハラズ、無シト信シテ誹毀シタル場合ニ於テハ、純然タル誹毀罪ハ構成ス、又事實ナキニ拘

ハラズ、有リト誤信シテ誹毀シタル時ハ、亦本罪ヲ構成ス、要スルニ本罪ハ主觀的ノ犯意ト、客觀的ノ事實ヲ連絡シテ、誣罔ナルヤ否ヤヲ判斷スルモノトス、而シテ其之ヲ罰スル所以ノ理由ハ、親屬間ノ名譽ヲ保護スルニ外ナラズ、彼ノ宗教上ノ感情ヲ保護スルト爲スハ、大ナル謬見ナリ。

第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委托ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラズ

(解)本罪ハ私陰漏告罪ト命名シタル犯罪ヲ規定シタル所ニシテ代言人トハ現今ノ辯護士、辯護人トハ裁判所ノ特許ヲ得テ辯護ヲナシタル者、代書人トハ現在ノ公證人ノ謂ヒナレトモ、廣義ニ之ヲ解シテ、他人ニ代リ揮毫スルヲ業トス可キ者一切ヲ云フ、次ニ身分トハ親族上ノ地位ニ於ケルヲ云フニ非ラズ、職業ニ於ケルノ地位ヲ云フ、陰私トハ私ノ關係ニ於ケル事實ニシテ、他人ニ表白スルヲ嫌焉スルモノヲ云フ、又漏告トハ他人ノ知ルト、知ラザルトニ關セズ、或事業ノ秘スヘキヲ發キテ之ヲ他人ニ告知スルヲ云フ、而シテ此陰私タルヤ自己ノ職業身分ニ因リテ

以テ知リ得タル事實ナラザル可カラズ、而已ナラズ敢テ口外セザランヲ依頼セラレサル事ト雖モ、苟モ業務ノ執行スルニ付テ知リタル一切ノ事實ハ、之ヲ他人ニ告知スル事ヲ禁シタル法條ナリ、次ニ但書ノ場合即チ證人、事實ノ參考人又ハ鑑定等ニ就テハ、本罪ヲ構成スルノ要素ヲ欠缺スルモノナリ。

第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

(解)本條ハ申告罪ナル事ヲ規定シタル者ニシテ、告訴權アル者ハ、被害、及ヒ死者ノ親屬ニ限ラル、モノトス

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癱瘓ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ加附ス
因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルコトヲ得ス但其犯ストキ知ラサル者ハ此限ニ在ラス

(解)各本條ニ祖父母父母及子孫トアルハ、第百十五條ノ規定ニ依ルベキ事衣食ヲ供給セストハ、其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者トアル中ニ包含セラル可キモノ、例示ニ外ナラス、而シテ奉養トハ凡テ衣食住其他ニ對シ、必要的需用假ハ病メル時ニ醫藥ヲ供セザル場合、飢ユルニ食、凍ユルニ衣ヲ以テセザル場合等ヲ云フ缺キタル者トハ供給シ得ラル、ニ拘ハラズ、之ヲ爲ザルヲ云フ、然レトモ衣食住ニ必要ナル供給トハ、飢饉ニ類スベキ状態ニ立至ラシメザルヲ云フ、故ニ眞實飢饉ニ迫ラザルモ、亦本罪ヲ成立スルモノナリ、之レ三十二年七月三日大審院判例ニ飢饉ニ迫リタル事實ヲ必要トセズトアル所以ナリ、次ニ如何ナル場合ニ於テモ尊屬親ニ對スル殺傷罪ハ相當ノ理由アル場合ト雖トモ、宥恕又ハ不論罪ノ例ニ從

フ事ヲ許サス、故ニ正當防衛ノ場合ト雖トモ、本罪ハ成立ス、之レ二十八年一月二十二日ノ大審院判例ノ明示スル所ナリ、如此規定シタル理由ハ、固來傳來ノ遺風ニ則リ、國粹美德ヲ保持存續セシムルノ趣旨ニ外ナラズ、其他ノ術語ハ凡テ他ノ法條ヲ解義スルニ當リ説明ヲ了シタルガ故ニ、茲ニ説明ヲ再ヒセス。

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 窃盜ノ罪

窃盜トハ權利ナクシテ他人ニ屬スル動産ヲ不正ニ領得スルノ意ヲ以テ之ヲ奪取スルノ所爲ヲ云フ、故ヲ以テ盜罪ノ物體タルヲ得ベキモノハ、他人ノ監督若クハ占有内ニ存ズル、他人ノ有形動産ナルコトヲ要ス、自己ノ占有内ニ存スルモノハ受寄財産ニシテ、之ヲ消費セバ財産消費罪ノ成立ヲ見ルモ、窃盜ヲ以テ課スル能ハズ、又何人ノ占有内ニモ存ゼザルモノハ遺失物ニシテ、之ヲ贓匿セバ遺失物贓匿罪トスベシ、然リ然レトドモ盜罪ノ物體ノ必ラズシモ、他人ノ占有内ニ存スルヲ要セズ、通常他人ノ監督内ニ存スルヲ以テ足レリトスレトモ、占有ト監督トハ各

別人ニ屬シ、監督ハ犯者ニアルモ占有ノ他人ニ存スルトキハ尙此罪ノ構成ヲ見ルニ至ラン、例令ハ雇人ガ其監督スル主人ノ物品ヲ竊取シ、山林ノ番人ガ看守スル山林ヲ盜伐スルガ如キ是ナリ、即チ雇人ハ現ニ其物品ヲ管督スルモ、獨立ノ一人トシテ主人ヨリ特ニ占有ヲ取得シタルモノニアラズ、寧ロ主人ノ手足ト同視スベキモノナレバナリトハ、江木博士ノ主張スル所ナリ。

盜罪ノ物體ハ動産タルベク、而シテ他人ノ所有物ナルコトハ、既ニ述ブル所ヲ以テ明ナルベシ、茲ニ注意スベキハ民法上ノ動産不動産ノ區別ハ之ヲ刑法ニ適用スルコトヲ得ズ、刑法ニ於テハ唯タ物件ノ移轉シ得ベキモノタル以上ハ、之ヲ動産トスルニ過ギズ、民法上不動産トスベキモノノ之ヲ分離スルトキハ竊盜罪ノ目的物タルベシ、又犯意トシテハ、他人ニ屬スル物品タルヲ知り、且所有主ノ承諾若クハ自分ニ權利ナキヲ知りツ、財物ヲ奪取スルモノナルヲ要ス、此意ヲ以テ他人ノ管督ヲ侵シ、其管督内ニ存ズル物品ヲ自己、若クハ參者ノ管督内ニ移轉スル動作ナカルベカラズ、尙ホ詳細ハ各法條ノ下ニ説明セン。

第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十七條 水火震災其ノ事變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百六十六條ハ單純ノ竊盜ヲ意味シ、三百六十七條ハ事變アルヲ機トシ之ニ乘シテ竊盜ヲ働キタル場合ニシテ、三百六十八條ハ踰越盜及ビ偽鍵盜ヲ規定セリ、此犯罪ノ場所ハ邸宅倉庫ニ限ルベク、法文明白ナルヲ以テ詳論セズ。

第三百七十條 兇器ヲ携帶シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

(解)本條ハ持兇器竊盜ヲ規定セリ、兇器トハ人ヲ殺スニ足ルベキ利器ヲ云フ、實丸ナキピストル、鐵紙ヲ張付ケタル木刀ノ如キハ或ハ強迫スルヲ得ベキモ、人ヲ殺スニ足ラザルヲ以テ兇器ト云フ能ハズ、即チ刀、出刃、庖丁ノ如キハ兇器ニ屬スルモノトス、學者中用法ニヨリ利器ナルモノヲ認ムルモ、之レ犯罪ノ終リタル後ニアラザレバ知ルヲ得ザルヲ以テ、豫メ器ト斷定シ難キ批難アルヲ免カレズ然ラバ

兇器トハ性質上ノ兇器ニシテ、別ニ用法上ノ兇器ナルモノナシトノ説ニ同意スルモノナリ若シ然ラズトスセバ、人ヲ絞殺セシ手拭モ亦用法上ノ兇器ト云ヘン、天下此理アラシヤ。

第二百七十一條 自己ノ所有物ト雖トモ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

(解)本條ハ所謂學者ノ準竊盜ナルモノニシテ、元來竊盜タルニハ其目的物ガ他人所有物ナルベキニ、自己ノ所有物ニ對シテハ成立セザル道理ナルモ、特ニ本條ヲ設ケタル所以ノモノハ他ナシ、他人ガ其物ノ上ニ權利ヲ行ヒ、又ハ官署ノ爲メ差押ヘラレ、然カモ他人ニ保有セラル、場合ニ、他人ノ權利ヲ侵害シ若クハ官ノ命令ヲ無視スル意ヲ以テ、之ヲ奪取スルニ於テハ勢ヒ處罰セザルヲ得ズ、假令バ質屋ニ質入セシ自己ノ衣類ヲ竊取シ、又ハ官ヨリ差押ヘラレテ他人ニ保管看守ヲ命ジアル物件ヲ、奪取シタルガ如キ其適例ナルベシ。

第二百七十二條 田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人

ノ生養シ營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ゲサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ村ス

(解)三百七十二條ハ田野盜ヲ規定シ、三百七十四條ハ牛馬盜ヲ規定ス、我刑法ガ是等ヲ單純竊盜ヨリ犯狀ノ輕キモノトセルハ、其物體ノ粗大ニシテ、通常貴重ノ價額ヲ有スルモノニアラザレバナリ、然ルニ學者中ニハ田野ノ產物ハ性質上充分管督ヲ施スコト能ハズ、之ヲ公衆ノ信義ニ委ネタルモノナルヲ以テ、公益上ヨリ重キ罪ニ問フベシトシ、或ハ德義上ヨリ犯狀ノ却ツテ輕キモノトスル論者アルモ共ニ其當ヲ得タルモノニアラザルナリ。

第二百七十七條 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財産ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ズルノ限ニ在ス

若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ズ

(解)親族相盜ムト雖モ一モ盜罪ノ元素ヲ缺クルナシ、然ルニ之ヲシテ尙ホ其罪ヲ論ズルノ限リニ在ラズトセシハ外ナシ、檢察官ヲシテ家中ノ秘密ヲ曝露セシムルハ却ツテ一家ノ平和ヲ破ルヲ以テ、宜シク告訴ヲ俟テ處分スベキヲ正當トスルニ、我刑法ハ更ラニ一步ヲ進メテ本條ヲ設クルニ至レリ、然レトモ若シ他人共ニ犯シタルトキハ、親族自分ハ他人ニ及バザルヲ以テ、一方ハ通常ノ刑ヲ科スベキハ當然ナルモ、他人ト雖モ財產ヲ分チタル者ニアラザレバ、其罪ヲ問ハザルガ故ニ、其未遂犯ヲ罰スルコトヲ得ザル結果ヲ生ゼン、尙ホ法文中同居トアルハ事實上ノ同居ノ之ヲ云フベキカ、果事實ハ別居スルモ、戶籍上ノ同居ヲモ包含スルカト云フコトニ反對論アルモ、岡田博士ハ此二者ヲ包含スト主張シ本條ノ旨趣ト普通ノ人情ヲ保護スルニアレバナリト著者モ又同意スルモノナリ、

第二節 強盜ノ節

夫レ強盜者ノ盜罪ニシテ、其性質ニ至ツテハ竊盜罪ト殆ンド相同ジト雖モ其間聊カ注意スヘキハ、(一)盜罪ニ在ラテハ其管督ヲ侵スノ所爲ガ暴行強迫ニ成ル差

アリ換言センカ、竊盜罪ノ外ニ暴行強迫ノ加ハリタル者強盜罪ニアラズシテ、全く其性質ヲ變化シタル一種ノ所爲ニ外ナラズト知ルベシ、(二)脅迫又ハ暴行ニシテ、人ノ抵抗ヲ除去スルニ出デタル以上ハ、之ヲ受クルモノハ必ラズシモ財物ノ所有主若クハ、管守人タルヲ要セズ、例令家僕ヲ脅迫スルニ止マルモ強盜罪タリ、(三)暴行強迫ハ奪取ノ所爲タルヲ要ス、(四)暴行強迫ナキモ尙ホ強盜ヲ以テ論ズベキ場合アリ、量等ハ各條ノ下ニ説明スベシ。

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ

- 一 二人以上共ニ犯シタル時
- 二 兇器ヲ携帯シテ犯シタル時

第三百八十條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

(解)三百七十八條ハ強盜ノ定義ヲ示セリ、人ヲ脅迫シトハ脅迫罪ノ脅迫ト意味異ナリ、暴行ト共ニ他人ノ保有ヲ奪フノ手段タリ、前者ハ人ニ危害ヲ加フベキコトヲ示シ相手方ヲシテ信用セシムレバ足レリ、然ラバ即チ強盜罪ノ場合ニ於ケル暴行脅

迫ハ財物奪取ノ手段トシテ行ハレタルヲ要ス、故ニ初メ創傷ノ故意ヲ以テ、人ヲ
毆打ナシタル後新タニ奪取ノ故意ヲ生ジ、奪取スルモ強盜罪トハナラザルナリ、
既ニ窃取シタル後脅迫シ暴行スルモ敢テ強盜罪タラズ、此場合ニ三百八十二條ノ
罪ヲ構成ス、三百七十九條ハ加重強盜罪ニシテ、三百八十條ハ強盜傷人罪ヲ規定
セリ、強盜ト傷人罪トノ二罪俱發ニアラズ、然リ強盜殺人罪其所爲ノ謀殺ト故殺
トヲ判別スルノ必要ナク、又其所爲ハ財ヲ得ルト否トニ依リ、其罪ノ消長スヘキ
モノニアラザルハ、判例ノ示ス所ナリ。

第三百八十一條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

(解)強盜強姦罪ニ付テハ二個ノ有力ナル學說アリ、一ハ強姦ハ暴行ノ一種トシテ必
ラズ、他人ノ管轄ヲ侵スノ所爲ナリ、故ニ現場ニ於テ犯シタルモノニアラザレバ
其強姦ハ他人ノ監督ヲ侵ス所爲ノ範圍外ニ屬スルヲ以テ、之ヲ單純ナル強姦罪ト
スルハ格別、決シテ本條ノ適用ヲ受クルコトナシ、此原理ヨリセンカ、強姦ノ所
爲ハ既遂タルト未遂タルトヲ問ハズ、苟モ現ニ財物ヲ奪ヒ得タルトキハ、之ヲ強
盜婦女ヲ強姦スルノ罪ノ既遂トナシ、財物ヲ得ルコト能ハザリシトキハ、之ヲ強
盜婦女ヲ強姦スル罪ノ未遂セザルヲ得ズト。

他ノ一學說ニヨリ、強盜強姦罪ニ付テハ、既遂未遂ハ強姦ノ既遂未遂ニヨリテ區
別ス、前說ノ如ク強姦ヲ暴行ノ一種トシ、財物ヲ奪取シタルト否トニヨリ既遂未
遂ヲ論ズベク、強姦ノ既遂未遂ヲ問フ處ナシトスルハ誤レルノ甚タシキモノナリ、
刑法上強姦ヲ以テ暴行ノ一種ト認メズ、又本條ハ主トシテ強姦ヲ財物奪取ノ手段
トセズシテ、單ニ強取ノ繼續中ニ強姦ノ併發シタル場合ヲ想像スルガ故ニ、三百
七十八條ノ暴行奪取ノ理論ニ據ルコト能ハズト。
前說ハ江木博士ノ主張スル所ニシテ、誠ニ痛快極マルト雖モ、余ハ岡田博士ノ處
論ニ首肯スルモノナリ。

第三百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百八十三條 藥酒ヲ用ヒ人ヲ酔迷セシメ、其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

(解)三百八十二條及ピ三百八十三條ハ準強盜ヲ規定セリ、即チ一ハ竊盜ガ既ニ財物

ヲ奪取シタル後ニ於テ、其取還セザレシコトヲ防グガメニ、暴行脅近ヲ爲ス場合ニシテ、三百七十八條ノ場合ヲ奪取スルノ手段ニ脅迫暴行ヲ試ムルモノナリ、故ニ本條ノ事實ヲ目シテ學者ハ之ヲ準強盜ト名ツク、三百八十三條ハ敢テ脅迫暴行ノ手段ヲ取ラズトモ、藥種ヲ用ヒ又ハ醉迷セシメ、開カ抵抗力ヲ失ハシムルモノ敢テ前ノ方法ヲ取ラズト雖モ、其罪狀ト手段ニ至ツテハ輕重ノ差アルニアラズ、之レ此所爲ニ對シテ、強盜ヲ以テ論スト規定セシ所爲ナラン、後ノ三百八十四條ハ讀ンデ字ノ通り、別ニ議論モナケレバ解説スルノ要モナシ。

第二節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

第三百八十五條

遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得シテ所有主ニ還付セズ又ハ官署ニ申告セ

ザル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

(解)遺失物トハ吾人ノ現實ノ占有ヲ離シ、何人ノ占有物ニモ有ラズシテ、其所在ノ知レザル他人ノ所有物ヲ云ヒ、埋藏物トハ他人ノ所有地内ニ埋没シテ其所有主ヲ知ルコト能ハザル、有体動産ヲ云フ、以テ二者ノ差ヲ明白シ得ベケン、夫レ此ノ如ク法律ハ遺失物ニ於テハ其物品ノ所有主ヲ保護シ、埋藏物ニ就テハ地主ノ占有權ヲ保護スルヲ目的トス、故ニ埋藏ノ物品ハ自己ノ所有物ナルモ、隱匿シテ届出デザルトキハ此罪ヲ構成スベシ、何トナレバ地主ハ其物品ニ對シ、埋藏物ニ關スル規則ニ從ヒ相當ノ權利ヲ有スルヲ以テ、發見者ヲシテ獨リ其物品ヲ領得セシメザルコトヲ得ベシ、尙ホ參考トシテ大審院判例ヲ紹介セン。

- 一、買受品中ノ發見買受物品中ニ入レアル金圓ヲ發見シ、其儘隱匿セバ遺失物隱匿罪ヲ構成スルモノトス 二十五年四月大審院判例
- 二、紙屑中ニアル財布 紙屑營業人ガ紙屑中ヨリ財布ヲ發見シ、其紙屑ハ甲宅ヨリ買入レコトヲ知リナガラ、金ハ懷中シタリトセバ、雙方受授若クハ委託ノ意ナク偶然ニ握取セシモノナレバ、委託金費消ニアズシテ、遺失物ニ關スル罪タリ。 二十九年四月
- 三、自己ノ家ニ置キ忘レシ物件 他人ガ自己ノ家ニ物ヲ置忘レタルトキ、之ヲ知リ

ツ、處分シタル所爲ハ窃盜ニ非ラズシテ遺失物隱匿罪ナリ。三十二年三月
四、拾得ノ證書ニテ取立タル所爲、一個ノ證文ヲ拾ヒ之レヲ以テ金圓ヲ取立テタリ
トセバ、遺失物隱匿罪ノ結果ニシテ、詐欺取財罪トハナラズ。二十三年六月
以上ノ所爲ガ若シ親族ニ係ル場合ニ於テハ如何、三百八十七條ハ其罪ヲ論ゼズト
セリ、之レ實ニ親屬相盜ノ場合ニ説明セシ理由ト同一ナレバ、煩ヲ避ケテ再ビセ
ズ。

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ贓匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ
二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百八十九條 家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ贓匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一
人又ハ數人ニ其負債ヲ私債シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮
ニ處ス

(解)前二條ハ家資分散者ガ分散ノ際ニ於ケル違反所爲ヲ規定セリ、而シテ分散ノ際

トハ分散言渡ノ前後ヲ問ハサルモ、家資分散ノ事實アルヲ要スルヤ勿論ナリ、然
リ、本罪ノ成立ニハ惡意即チ債主ヲシテ適法ノ配分ヲ得セシメザラシメントスル
ノ故意ナカルベカラズ、又虚偽ノ負債ヲ増加スルトハ、現存セザル負債ヲ認ムル
ノ意ニ外ナラズ、贓匿トハカクスコトニシテ、脱漏トハ他ニ取り除クノ意ト知ル
ベシ、以上贓匿脱漏モ係ル財産ハ必ラズシモ自己ノ所有爲タルヲ要セズ、例令ハ
貸金ノ抵當トシテ占有スル、他人ノ財産ヲ故ナク、返却スルガ如キ是ナリ、三百
八十九條ハ財産ヲ減少スル傾ナキモ、單ニ帳簿ノ整頓ヲ紊ルニ過ギズ、故ニ貸金
證書ヲ毀棄スルモ他ニ證明ノ方法アリ、其貸金ノ權利ハ依然存在シ、毫モ財産額
ニ影響セザルトキハ、單ニ帳簿ヲ毀棄スルノ罪タルニ過ギス。

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ編取シタル者ハ詐欺取財

ノ罪ト爲シ二月以上四年ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處
斷ス

(解)欺罔トハ不實ナル事實ヲ誤信セシメ、人ヲシテ錯誤ニ陥ラシムル所爲ヲ云フ故ニ欺罔タルニ(一)不實ナル事實タルコト、(二)事實ニシテ意見ナラザルコト(三)疑惑又ハ錯誤ヲ生ゼシムルノ條件ヲ要ス、恐喝トハ欺罔ト異ナリ、全ク現在過去ノ事實ノ有無ニ拘ラズ、意見若クハ未來ノ事實ニ依リ、人ヲシテ恐怖ノ念ヲ生ゼシムルヲ云フハ故ニ恐喝タルニハ(一)事實タルト意見タルトヲ問ハザレドモ、(二)人ヲシテ、恐怖ルト云フ念ヲ生ゼシムルヲ要ス、然ラバ二者ノ善異ハ那邊ニアルヤ、曰ク現在若クハ過去ノ事實ナルト否トノ點ニ存シ、事實有無ハ毫モ關係ナシ只茲ニ注意スベキハ脅迫ト恐喝トハ區別是ナリ何レモ、共ニ或ル差惡ヲ通知シ、對手ヲシテ恐怖ノ念ヲ起サシムルモノニシテ、此點ニハ二者性質上ノ差異オキモ、恐迫ニ在テハ通知スル差惡ハ強迫ハ自ラ之ヲ加ヘントスルモノニシテ、恐喝ニ在リテハ通知スル差惡ハ、第三者ノ所爲ニ屬スルカ、若クハ人爲以外ノ怪力災變ニ外ナラズ、之レ二者區別ノ標準ト信ズルナリ、法文證書類トアルハ、物權人權等主トシテ財産ヲ證明シタル書類ヲ云フトハ、一般學者ノ解ク所ナリ、以上ニ付キ大審院判例ノ二三ヲ紹介センガ。

一、詐欺取財ハ手段タル文書偽造 詐欺取財ノ手段トシテ文書ヲ偽造シタルトキハ

三百九十條二項ニ據リ重キニ從テ處斷スベク、刑法百條ニ照シ數罪俱發ノ例ヲ用ヒタルハ擬律ノ錯誤ナリ。二十五年三月火審院私書變造事件

二、騙取シタル家屋ノ抵當 人ヲ欺罔シテ地所家屋ヲ騙取シ、自分所有ノ如ク假裝シ、更ラニ他ヘ抵當トナスモ、詐欺ノ結果ニシテ冒認罪ヲ成立セズ。二十五年十月全院冒認事件

三、恐喝取財ノ主体 恐喝取財罪ニ於ケル、自己直接ノ利益ヲ得ル爲メノミナラズ他人ノ利益ノ爲メニスルモ構成ス。二十五年十月恐喝取財事件

四、恐喝取財ノ成立假令被恐喝者ノ所爲ノ不正ニ基クトキト雖モ、惡意ヲ以テ人ヲ恐喝シ財物ヲ騙取スレバ成立ス。二十六年六月詐欺取財事件

第三百九十一條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル詐欺取財ヲ以テ論ズ

第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ズ

(解)是レ善惡利害得失ヲ解ザル者、若クハ狂者ナルヲ機トシテ、是ヨリ財物若クハ證書類ヲ授與セシメタルトキハ、假令本人ノ承諾ニ出ツルト雖モ其原因ヤ實ニ犯

人ガ奸言ニ左右セラレタルモノナレバナリ、賣買交換ノ際契約ノ物品ヲ引渡サズ故意ヲ以テ品質ノ異ナレルモノ又ハ分量ヲ減ジテ渡スガ如キハ、即チ自己ヲ利セントスルモノニシテ、詐欺取財トスルニ於テ何ノ不可アラシカ、即チ本條アル所以ナリ。

第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重ネテ抵當典物ト爲シタル者亦同ジ

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

(解)本條ハ冒認罪ヲ規定セリ、冒認トハ他人ノ所有物タルコトヲ知リツ、自己ニ屬スルモノト主張スルノ意ナリ、販賣トハ賣渡ノ議ニシテ、交換トハ他ノ品ト取リ換フルノ意味ニ外ナラズ、又典物トハ質入ヲ云フ、而シテ冒認罪ノ目的物ハ犯人以外ノ者ノ保有内ニ存ズルト、存ゼザルトヲ問ハズ、又已レノ不動産ト雖モ、既ニ他ニ抵當トシ典物ト爲シタルモノヲ欺キテ他人ニ賣渡シ、又ハ抵當典物トセバ

冒認罪タルヲ免カレズ、而シテ是等處分行爲ヲ爲スノ權利アルモノト誤解シテ爲シタルトキハ本罪ヲ構成セズ、要スルニハ横領罪ノ一種ニシテハ不法ニ他人ノ所有權又ハ抵當權質權ヲ侵シ處分スルノ罪ニ外ナラザルナリ。

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ゲザル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

(解)三百九十五條ハ委託物費消費ヲ規定セリ、法條中受寄ノ財物トハ、民法上ノ寄託ニ基キ保管スル所ノ財物ヲ云フ、而シテ本罪ノ成立スルニハ(一)犯罪ノ目的物

トシテ、受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受アタル金額物件ナルコト、(二)不法ニ消費スルコト、(三)消費ノ所物ガ不法ナルヲ知リタルコトヲ要ス、而シテ受寄ノ財物トハ、民法上ノ寄託ニ基キ保管スル所ノ財物(證書ヲモ含ム)ヲ云ヒ典物トハ質物ヲ意味シ、其他委任ヲ受ケタル物件トハ、委任事務ヲ處理スル爲メハ事務ヲ處理スル爲メ第三者ヨリ受取リタル物件ヲ總稱ス、之レ三十四年六月二十七日ノ大審院宣告モ亦之ト同シ、加之ナラズ法定代理者ノ場合ニモ之ニ包含セラル、之レ亦三十一年九月三十日ノ判例ニ明示スル所ナリ、而シテ此等委託物費消費ヲ構成スルニハ、必ズシモ其物件ヲ消費スルヲ要セズ、其物件ノ形骸ヲ變更シテ後原形ノ用ニ供スル能ハサラシメタル者モ、亦費消者トシテ本條ノ適用ヲ受クヘキ事勿論ナリ、之ニ對シテハ二十三年十二月十八日大審院ノ判例アリ、次ニ委託金ヲ寄託者ノ旨定外ニ費消シタル時如何、判例ニ於テモ假令委託者ノ名義ヲ以テ使用シ、委託金費消費ヲ成スト、乍然茲ニ注意スベキハ物品ノ販賣ヲ委託セラレタル場合ニ之ヲ販賣シ、又ハ自己ノ費消スルモ苟モ惡意アルニ非サレバ、委託物消費罪ハ成立セザル事之レナリ、次ニ不正ニ費消ストハ權根ナクシテ自己ノ限トシテ處分スル行爲ナリ、他ハ別ニ説明ヲ要セスシテ明カナリ、本條末項ノ驅

取トハ、自己ノ保有内ニ在ル物ヲ、欺罔シ錯誤ニ陥ラシメ、以テ之ヲ横領スルヲ云フ、拐帶トハ寄託物其他ノ物件金額ヲ携帶ノ儘逃亡スルヲ謂ヒ、詐欺ハ前説明ヲ參照ス可シ。

次ニ第三百九十六條ノ構成要件ハ、(一)官署ヨリ差押ヘラレタル事、(二)差押ヘラレタル物件ヲ藏匿脱漏スル事、(三)故意ノ三要素ヲ要ス、而シテ藏匿トハ財産ノ狀況ヲ隱匿スル手段ノ全般ヲ意味シ、脱漏トハ財産ヲ減少スル手段ノ凡テヲ云フ、前者ハ表面上減少セルガ如ク見ユルモ、他人ヲ瞞着スルカ爲メ虛構ニ外ナラズ、又未遂犯ノ場合ハ總則ノ規定ニ讓リテ茲ニ省略ス、而シテ他ハ説明スルノ要ナシ。

第六節 贓物ニ關スル罪

夫レ贓物トハ所有者ヨリ云ヘバ不正ニ盜取セラレ、又ハ盜取セラレタル物件ヲ云ヒ犯人ヨリ云ヘバ、不正ニ占有ヲ得タル物件ヲ云フ、故ニ以テ其物件ノ一度正當ナル權利者ノ占有ニ歸センガ、彼レハ忽チ贓物タル、資格ヲ失フ、然リ而シテ金品其他ノ不確定物タラザル物件ナルヲ要ス、但シ其物品ノ占有タル、直接ニ強竊

盜等ヨリ得タルモノタルコトヲ要セズ、贓物ヲ受ケタル者ヨリ之ヲ受クルモ亦贓物トス、何トナレバ強盜盜モノノ犯罪ニシテ、贓物ヲ受クルモ亦一ノ犯罪ナレバ等シク犯罪ニヨツテ其占有ヲ得タルモノナレバナリ、尙ホ其受クル所ノ物品ハ必ラズ、犯罪ニ出テタル物品ト同一ナルベク、若シ一タビ他ノ物品ト交換センカ、交換セラレタル物品ハ之ヲ贓物トスルコト能ハズ。

第三百九十九條 強盜盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄贓故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ、三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄贓故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(解)贓物中強盜盜ノ贓物ナルト、詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルトニ依ツテ犯罪ノ輕重ヲ異ニス、而シテ是等大審院ノ判例ヲ見ルニ、大約左ノ如キモノトス

一、贓物寄贓罪ノ成立 本罪ハ主タル犯罪ニ關係セザルモノニ於テ、事後犯罪ニ依テ得タル物ナルコトヲ知リツ、之ヲ寄贓スルヲ以テ、其罪成立スルモノナリ 二月大審院判決例

二、贓物牙保罪ノ成立 此罪ハ其賣主買主双方ノ間ニ立入り、賣買ヲ遂ケシムルニ依リ成立スルモノナレバ、牙保罪ノ成立ニ付テハ果シテ其賣買ヲ遂ゲタルコトヲ、然カモ明示スルコトヲ要ス。 二十五年一月 贓物牙保事件

三、下論罪者ノ窃取物 犯ヲ犯ストキ十二歳未満ノ幼者、及ビ親屬相盜者ノ窃取セル財物ヲ寄贓又ハ故買シタル所爲ハ、同シク刑法ノ制裁ヲ免レズ、何トナレバ窃取者ハ畢竟身分ニ依リ其罪ヲ論ゼザルノミ、性質上竊盜タルコト論ナシ、之ヲ知ツテ寄贓故買シタル者又其責ヲ負フベシ。 二十七年贓物寄贓事件判例

四、公吏監守金ノ窃取 ヲ受ケタル者ハ如何、同シク贓物ニ外ナラズ從ツテ刑法三百九十九條ノ處分ヲ受クルモノトス。 二十一年監守盜事件判例

五、贓物ヲ誤認シテ牙保セシ遺 假令ハ竊盜ノ贓物ヲ隱匿遺失物ナリト信ジテ、賣買ノ牙保ヲナシタル者ハ、罪本重カルベクシテ犯ス時知ラザル者ハ、刑法第七十七條ニ該當スルモノトス。 三十二年一月 贓物牙保事件

六、賣主ガ贓品ノ不知 賣主ガ盜贓物タルコトヲ知ルト知ラザルトヲ問ハズ、買主ニ於テ盜贓タル情ヲ知リツ、買受ケタル以上ハ、故買罪ヲ成立スルモノナリ。三十三年十二月 贓物故買事件判例

第四節 放火失火ノ罪

本罪ハ火力ヲ用ヒ、家屋其他ノ財産ヲ毀壞スル罪タリ、抑モ其犯罪ハ何人ト雖モ其主体タルヲ得ベク、其手段ハ自然力ナル火勢ニシテ、敢テ特別ノ手段ヲ要セズ、又犯意トシテハ失火ノ場合ヲ除クノ外總テ燒燬ノ故意アルヲ要スレドモ、犯罪ヲ構成スル現存ノ事實ヲ知ラザレバ第七十條二項三項ノ區別ニ從ヒ、不論罪ノ原因タルベキ勿論ナリ、然リ而シテ其所爲タル燒燬トハ、如何ナル程度ニ達シタルコトヲ要スベキカ、我刑法ハ燒燬ノ結果ヲ生スルヲ必要トセリ。

放火罪犯罪ノ目的タル物体ノ種類ニ依リ、其刑ヲ異ニス、從ツテ犯罪ノ種類性質ノ異ナルハ以下掲グル法條ヲ一讀シテ明白ナラン。

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ

處ス

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乗載シタル船舶汽車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

其人ヲ乗載セザル船舶汽車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野穀麥及ヒ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十條 火藥其他激發スヘキ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破烈セシメテ人ノ家屋財産

ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トヲ分チ放火失火ノ列ニ照シテ處斷ス

(解)以上ノ法條ヲ適用スルニ當リ、二三ノ疑問ヲ解セン、曰ク本屋ヲ燒クノ目的ヲ以テ、納屋ニ放火シタル者ハ、本屋ニ放火スル未遂ナリ、曰ク人ノ住居シタル家

屋ヲ燒燬スルノ目的ヲ以テ、其家ニ接近シタル大小屋ニ放火シ、遂ニ其目的ヲ達セシトアラバ、刑法四百二條ノ犯罪タリ、曰ク四百四條中柴草肥料等ヲ貯フル家舍トアル法文ノ字中ハ、柴草肥料ト同等ナル物件ヲモ包含ス、曰ク酩酊ノ際興ニ乗ジ、故意ニ放火シタル所爲ハ精神喪失ノ所爲ニアラズ、曰ク人ノ住居シタル家屋ト人ノ住居セザル家屋ト相接觸セルモノヲ燒失スル目的ヲ以テ、火ヲ放テ之ヲ燒燬シタル所爲ハ一罪ニシテ數罪俱發ニアラズ、曰ク自己所有ノ家屋ト雖モ他人ニ貸與シテ現ニ住居スル場合ニ、之レ放火シタル所爲ハ刑法四百二條ノ犯罪ヲ構成ス、以上大審院判例ノ示ス所ナリトス。

第八節 決水ノ罪

決水ノ罪ハ、水カヲ用ヒ家屋其他ノ財産ヲ損害スルノ所爲トス、犯意ニ放火罪ト同シク、過失ナルトキハ失火ノ例ニ照シテ處斷シ、其他ハ故意アルヲ以テ足レリトス、然リ其手段タル自然力ナル水勢ヲ使用スルニ外ラズト雖モ、我刑法ハ特ニ提防ヲ災潰シ又ハ水閘ヲ毀壞スルノ手段アルコトヲ必要トセリ、又漂流及ビ荒廢ノ所爲トハ、犯罪ノ物件ヲシテ水力ニ一任シ、或ハ流失シ損壞セシムルヲ云フ。

第四百十一條 提防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂流シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂流シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 提防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃鐵坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ提防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス
(解)前各條ノ犯形物体及ヒ刑罰ハ、放火罪ノ例ニ依ルコトハ一讀明白ナレバ、敢テ茲ニ詳説セズ、諸氏宜シク法文ヲ熟讀セララルベシ。

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ノ乗載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載セザル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス
(解) 船舶覆没ノ罪ハ河海ニ於テ船舶ヲ覆没シタルトキニ成立スルモノナリ、而シテ
船海中ノ船舶ニ限ルニ非ラズ、又河川ノ大小深淺ニヨリテ、區別セラルヘキモノ
ニアラス。

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ビ動植物ヲ害スル罪

本罪ハ權利ナクシテ、他人ノ財産ヲ毀損スル所爲ヲ云フ、此犯罪ノ物体ハ總テ財
産ノ目的物タルモノナルコトヲ要シ、其物件ニシテ價格ナクレバ、財産ヲ毀損ス
ルノ意思ナキモノト推測スルコトヲ得ベシ、毀損トハ財産ノ實質形狀若クハ外觀
ヲ損害シ、又ハ破毀スルノ所爲是ナリ、然シテ此所爲タル常ニ其價格ヲ減少シ又
ハ消盡セシムルモノタルヲ要ス仮令市價ヲ下落セシメ、財産ノ價ヲ減ズルモ有形
的ノ執行ニ出テタル毀損ニアラザレバ能ハズ、彼ノ他人ノ物件ヲ毆打スル有形的
ノ所爲ナルモ價格ヲ減少セザルトキハ毀損ニアラス。

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ
處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園地ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀
壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金
ニ處ス

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他ノ需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下
ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月
以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓
以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上
二圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以下ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ
罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以

下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
(解)第四百十八條ノ所謂牆壁ナルモノハ、家屋ノ外部ヲ繞スル牆壁ノ謂ヒタリ、然
ラハ賃貸シタル家屋ヲ所有者自身ガ毀壞シタルトキハ如何
果シテ四百十七條ノ犯罪ナルカト云フニ、賃借人ニ賃借權アリト云フノ理由ヲ以
テ、此犯罪ヲ構成スベキモノト斷定スルコト能ハザルナリ、茲ニ一ノ疑問タルハ事
實上他人所有ノ家屋ガ、名義上自己ノ所有物ナルヲ主張シ、改築ヲ名トシテ取毀
テタル所爲ハ、即チ家屋毀壞罪ヲ構成スベキヤ否ヤノ問題ナリ、三十五年ノ大審
院判決例ハ、犯罪ヲ成立ストセリ、此他數多ノ判例アルモ煩ニ涉ルヲ以テ省略セ
ン。

第四編 違警罪

違警罪ハ犯罪ノ度數、犯罪ノ人數上ヨリ之ヲ調査セシカ、司法事務中甚ダ重大ナ
ル關係存ス、然レドモ犯罪ノ性質及刑罰上ヨリ考フレバ、又極メテ輕微ノ犯罪ニ
シテ、逐一之ヲ詳説スルノ要ナシ、只重ナル部分ニ付テ一言スル所アラシ。

違警罪ハ刑典法律及ビ行政命令ヲ以テ之ヲ定ム、違警罪中ニハ法律ノ違犯タル所
爲ト、命令ノ違反タル所爲トヲ包含ス。

而シテ命令ニ依ルモノハ、各行政官ガ職權ノ範圍ニ於テ警察令ヲ發希スルモノト
セリ、然リ違警罪ハ社會ノ必要ヨリ生ズル規則ナレバ、公衆一般ノ安寧ヲ計ル場合
ニ於テ、各人ヲシテ之ヲ遵守セシメザレバ、以テ其安寧ヲ維持スルコト能ハザルト
キ、初メテ違警罪ノ制裁ヲ加ヘテ強制スルヲ至當トスベキモ、單ニ一地方ノ利益
ヲ増進スル目的ニ出テタル規定ニシテ、之ヲ遵守セザル者ハ自カラ己ノ利益ヲ失
ヒ、又ハ増進スルコト能ハザルノミニ止マル場合ニ於テハ、違警罪ヲ以テ其違反
者ヲ處分スルハ、立法ノ當ヲ得タルモノニアラズ、假令ハアル商業上ノ利益ヲ目
的トスル地方組合ニ、加入スル命令規則ノ如キ是ナリ。

違警罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰スル明文ナシ、然レトモ若シ輕罪ノ刑ヨリ減等シテ違警罪ノ刑ニ下ルトキハ、違警罪ニ因ツテ處分ス、又違警罪ハ犯意ヲ要セズ、我刑法上ニ現ハシタル違警罪ハ前記セシ如シ、然ラバ刑典以外ノ違警罪トハ何カ、之ヲ要約スレバ即チ下ノ如シ、(一)行政廳若クハ自治體ニ達令制定權ヲ附スル法律ヲ委任權ト云フ、(二)行政警察ノ範圍ニ屬スル事項ニ付キ、地方廳ガ其命令ニ警察罪ノ罰則ヲ附スルノ權ハ、行政權ニ固有ナル權利ニシテ、法律ノ委任ニヨルモノニアラス。

最後ニ一言スヘキコトアリ、違警罪ハ地方廳ニ回有ナル權力ニ基クモノナルヲ以テ法律自身ニ於テ、違警罪ノ形ヲ定メタルトキハ、其事項ニ關シテハ寧ロ地方廳ノ違警罪制定權ヲ、制限シタルモノト云ハザル可カラズ、若シ此刑法又ハ他ノ法律ニ定メタル違警罪ト、同一ノ事項ニ付キ地方廳ニ於テ此刑法若クハ他ノ法律ノ刑ト異ナリタル刑ヲ設ケ又ハ同一ナル刑ヲ設クルトキハ、地方廳ノ違警罪ハ無効トナル、法律ノ默詔ニヨリ地方ニ於テ制定スルコトヲ得ベキ違警罪ハ、必ラズヤ各刑法又ハ他ノ法律ニ於テ、既ニ定メタル以外ノ事項ニ屬スルコトヲ要シ、若シ地方違警罪ヲ以テ、同一事ニ於テ法律ト同一ノ規定ヲ爲シ又ハ之ト輕重ノ差アル

刑罰ヲ設ケタルトキハ法官ハ常ニ法律ヲ適用スベキモノニシテ、地方ノ達令ヲ適用スルコトアルベカラズ、而シテ次ノ法文ハ一讀克ク明白ナレバ、敢テ詳説ヲ約シ、只諸君ノ熟讀ヲ乞フノミ。

第四百二十五條

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者
- 二 規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者
- 三 官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
- 四 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者
- 五 蒸氣器機其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者
- 六 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲サ、ル者
- 七 官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者
- 八 自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者
- 九 人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者

- 十 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者
- 十一 人ノ住居セザル家屋内ニ潜伏シタル者
- 十二 定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者
- 十三 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者
- 十四 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ第二百十九條ノ例ニ從フ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢

以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者
- 二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求ヲ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者
- 三 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
- 四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫病規則ニ違背シタル者
- 五 人ノ通行ス可キ場ニアル危険ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サザル者
- 六 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘍シ又ハ驚逸セシメタル者
- 七 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者

- 八 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者
- 九 變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者
- 十 墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汗瀆シタル者
- 十一 神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚瀆シタル者
- 十二 公然人ヲ罵詈嘲算シタル者但シ訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢

以上一圓二拾五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者
- 三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
- 四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
- 五 瓦礫ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
- 六 禽獸ノ死ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カザル者
- 七 汚穢物ヲ道路家屋圍圍ニ投シタル者
- 八 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者

- 九 醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セザル者
- 十 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者
- 十一 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者
- 十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ若シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者
- 十三 私有地外ヘ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者
- 十四 官許ヲ得スシテ路傍ニ床店等ヲ開キタル者
- 十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ビ廁場等ヲ毀損シタル者
- 十六 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ビ指導標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

- 一 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
- 二 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
- 三 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者

- 四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲナシタル者
- 五 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ビ其規則ニ違反シタル者
- 六 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハザル者
- 七 制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
- 八 官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者
- 九 身體ニ刺文ヲナシ及ビ之ヲ業トスル者
- 十 他人ノ繫キタル牛馬其他獸類ヲ解放シタル者
- 十一 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
- 二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ推積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 三 車馬ヲ並ヘ牽テ通船ノ妨害ヲナシタル者
- 四 水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
- 五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者

- 六 官署ノ督促ヲ受ケテ通路ノ掃除ヲ爲サザル者
 - 七 制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲナシ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 八 牛馬ヲ牽グ又ハ繫クコトヲ忽ニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者
 - 十 通行禁止ノ榜止ヲ犯シテ通行シタル者
 - 十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者
 - 十二 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
 - 十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者
 - 十四 人家ノ墻壁ニ貼紙及樂書シタル者
 - 十五 邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者
 - 十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
 - 十七 公園ノ規則ヲ犯シタル者
 - 十八 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者
- 第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス

行現
刑
法
講
義
終

明治三十九年七月二十一日印刷

明治三十九年七月十五日發行

(現行刑法講義)

*正價金四十錢

著作者

加藤規衛

發行者

岩崎鐵次郎

印刷者

木村榮吉

印刷所

文英社
東京市京橋區采女町九番地



發兌元

東京市神田區鍋町二十一番地
電話本局三〇六七番

大學館

中央大學卒業 後藤本馬先生著

訴訟并執行書式手續全書

價廿五錢
郵稅六錢

本書は訴訟并強制執行、人事訴訟、不動産登記申請等の書式及び手續に關して、一切を網羅し盡し、精細に説明す、附録として民事訴訟用印紙法摘要、執達吏手数料規則摘要、供託書式等を掲げたり、權利財産を重し自個の安全を計るには、本書實に座右必携の書たるを期す。

大審院判事法學士馬場憲治先生校閱

中央大學卒業 岩崎勝三郎先生著

土地建物に關する法律顧問

價廿五錢
郵稅六錢

土地建物の所有者及び共有者、土地建物の上に於ける先取特權、土地建物の賣買取戻建物及び、工作物を注文せし場合、時効に因る所有權の得喪、建物の火災保險、土地建物の公用處分、訴訟及び執行手續、抵當

となし若くは取りたる場合、土地建物に關する犯罪、土地建物の賃貸借、土地建物所有者の告訴手續、土地建物の質入、登記申請及び諸契約書式、永小作人と借地人、土地建物及び船舶上の諸税、地役權を設定したる場合、船舶上に於ける權利義務

中央大學日本大學卒業 岩崎勝三郎先生著

增稅納稅者の顧問

價三十錢

附通常稅對照及諸新法令

郵稅四錢

中央大學日本大學卒業 岩崎勝三郎君著

常事稅對照計算增稅新稅問答

價十五錢

對照計算增稅新稅問答

郵稅四錢

中央大學日本大學卒業 岩崎勝三郎先生著

實わりの增稅新稅法詳解

價十五錢

早わりの增稅新稅法詳解

郵稅四錢

中央大學日本大學卒業 岩崎勝三郎先生著

日用事件 活用自在 **法律大博士**

價二十錢 郵税四錢

民法、民事訴訟手續、刑法、商法、税法、兵役の七編に分ち各項數十題總て三百四十五問題を掲げて、一々平易明解なる解答を附したる重寶便利無比の書

東京行政學會編

現行 改定 **願届書式手續**

價二十錢 郵税四錢

戸籍、人事及非訟事件、兵事、土地、國稅、鑛業、出版、特許雜門に分ち一門數十章總て數百種に就き書式手續を説明せる珍書

法學士秋山愛造先生序 東京行政學會編

現行 改定 **登記申請書式手續**

價二十錢 郵税四錢

土地登記、建物登記、商業登記、船舶登記、會社登記、法人登記、夫婦財產契約登記の七門に分ち各門數章に分ち登記に關する書式手續を列舉す

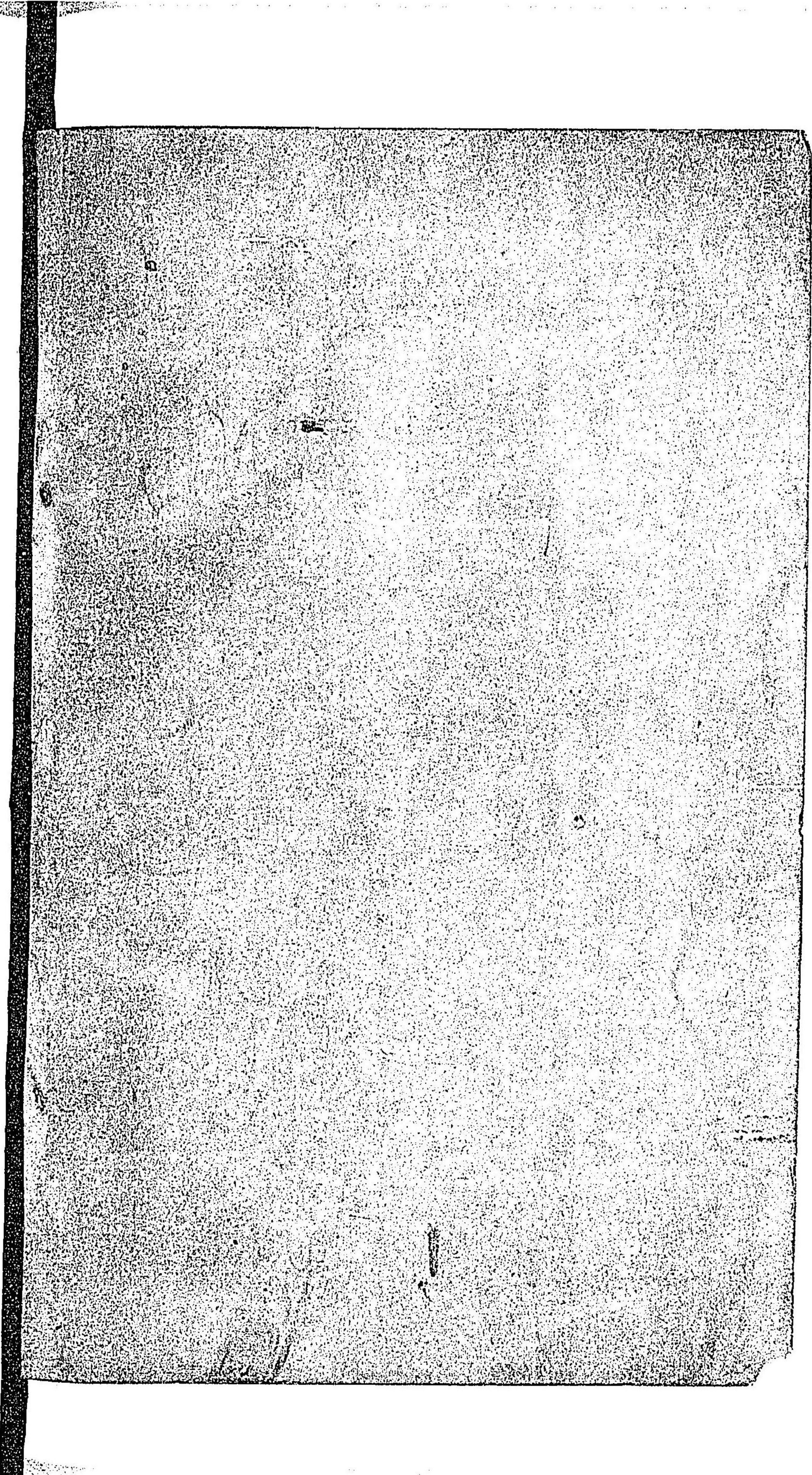
大審院判事 法學士 馬場 憲治先生閣
中央大學日本大學卒業 岩崎勝三郎先生著

手續、書式、訴訟 **相續者の顧問**

登記判例、諸稅 附 **相續稅法詳解**

價四十錢 郵税六錢

本書は相續に關する各方面の關係及び判例を掲げ學理と實際とを引證詳説して實用の便を計れり、殊に今回發布せられたる相續稅法の施行と共に相續手續の上に幾多の義務を生じ、從つて相續者及び家族利害關係人は豫め是等の法律手續を明にするの必要あり、本書は實に之を解説精述し相續上一切の顧問者たるを期せり、凡て五編十五章に分ち數多の項目に分ち標題の諸要目を説明す



現行
刑法講義

法學士加藤規衛先生並

東京大學館發兌

252
427

035977-000-5

特14-264

現行刑法講義

加藤 規衛 / 著

M39

BBP-0590

